

平成 29 年度メディア芸術連携促進事業 連携共同事業

1970 年大阪万国博覧会 参加企業・関係者・関係団体の
資料の現状調査と資料目録の作成 実施報告書

国立大学法人東京芸術大学 東京藝術大学

平成 30 年 2 月

第1章 概要	4
第2章 事業の目的、主旨	5
2.1 背景	5
2.2 調査目的	5
第3章 実施体制	7
3.1 調査実施体制	7
第4章 実施スケジュール	9
第5章 実施内容	11
5.1 調査対象の決定	11
5.2 調査対象	12
5.2.1 インターメディアに関する資料調査（マイクロ調査）	13
5.2.1.1 お祭り広場のデバイス設計に関する調査	13
5.2.1.2 お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示	14
5.2.1.2.1 「岡本太郎」展（1964年）	14
5.2.1.2.2 「色彩と空間」展（1966年）	15
5.2.1.2.3 「空間から環境へ」展（1966年）	16
5.2.1.3 磯崎新氏へのヒアリング調査	17
5.2.1.4 磯崎アトリエ管理の資料調査	29
5.2.1.4.1 資料調査	29
5.2.1.4.2 調査対象の資料現況	29
5.2.1.4.3 資料調査のワークフロー	31
5.2.1.4.4 現存する資料リスト作成	34
5.2.2 インターメディア関連資料のマクロ調査	37
5.2.2.1 国内企業パビリオン	37
5.2.2.2 万博内で開催されたイベント	41
5.2.2.3 個人保有資料	43
5.2.2.4 有識者会議（岡上敏彦氏、乙部順子氏）	45
5.3 目録データ入力	54
5.3.1 収集した資料目録一覧	54
5.3.2 所蔵機関の目録の統合	56
5.3.3 本データベースの基本仕様	56
5.3.4 プロトタイプデータベースの概要	57
5.4 目録データ（データベース）のサンプル作成	60
5.4.1 磯崎氏所有資料用項目の検討	60

第6章 成果.....	64
6.1 成果	64
6.2 今後の課題	64
第7章 総括	65
別紙	67

第1章 概要

国立大学法人東京芸術大学 東京藝術大学（以下東京藝術大学）は、関連する機関・団体等と連携して、メディアアートの起源の一つとして位置づけられる大阪万国博覧会（以下「大阪万博」という）のメディア芸術に関連する事象についての調査・研究を行い、最終的には現在別事業で文化庁が進めているメディア芸術データベースへ登録するための与件を整理することを目的として、平成29年度メディア芸術連携促進事業連携共同事業「1970年大阪万国博覧会 参加企業・関係者・関係団体の資料の現状調査と資料目録の作成」を実施した。

本事業では、既に多くの調査や研究が行われている大阪万博に関して、「インターメディア」という観点から調査を行った。インターメディアという概念はメディア芸術、とりわけメディアアートの分野にとって、最も重要な概念のひとつである。そのインターメディアという概念をイベントとして結実させたメディア・プロデューサーの1人である磯崎新氏に焦点を当てて、磯崎氏が主宰する磯崎アトリエ、磯崎氏がアーティストとして所属するMisa Shin Galleryを起点として、磯崎氏が所蔵する資料の調査を行うとともに、磯崎氏に「インターメディア」という観点で対面調査を実施した。それと平行して、調査を通じて磯崎アトリエが所蔵する大阪万博関連資料、とりわけ「お祭り広場」に関する実施計画に関する資料の調査を進め、その資料に関するメタデータ化を試行した。さらに大阪万博におけるテクノロジーを用いた造形表現とそのイベント化に道筋をつけた「空間から環境へ」展や「岡本太郎」展あるいは「空間と色彩」展、さらに万博後の1972年の「Computer Aided City」などについても、磯崎氏に対面調査で事実関係を確認するとともに、資料の調査を行った。

またそうしたインターメディアというメディア芸術におけるミクロな視点からの調査を補完し、信頼性を確保するために、マクロな視点でこれまで公式に整理されている大阪万博記念公園事務所、武蔵野美術大学芦原義信建築資料、株式会社渡辺プロダクション（渡辺美佐氏）、小松左京ライブラリが大阪芸術大学に寄託している資料を調査し、目録化及びメディア芸術データベースへの登録に関する可能性についての評価を行った。

本事業は、まだ「メディアアート作品」と呼ばれていなかった時代の作品やプロジェクト、パフォーマンスあるいはイベントに関するファクト（事実）の情報を作品発表のリリース情報として定義する指針を示すだけでなく、来るべき大阪万博を芸術文化の振興、産業の振興などの調査あるいは企画に寄与する可能性も含めて、メタデータ化を試行している。さらには、本事業をきっかけとして「お祭り広場」をメディアイベントとして位置づけることに道筋をつけて、世界中に数多くいる日本建築史や日本戦後美術史の研究者に対して基礎的な情報を提供することになることはもとより、アーティストとエンジニアによる協働のためのソフトインフラになると期待される。

第2章 事業の目的、主旨

大阪万博は、戦後のメディアアートの大きなエポックと考えられる。約半世紀前に行われた来場者が6,400万人を超える大イベントの概要と資料の現状を調査し公開することは、メディアアートの今後の発展のために重要だと考え、主にメディア芸術の創造性と先進性という観点からの資料集成を実現するための方法論を確立することを目指す。

2.1 背景

本事業の調査は「インターメディア」を歴史的な背景としてもっている。1950年代にアラン・カプローが提唱し、1960年代以降、世界的な拡大を見せていったメディアのあいだを横断するような芸術運動を「インターメディア」と呼ぶが、日本におけるインターメディアが大きく結実した大阪万博における様々な試みを、我が国におけるメディア芸術の源流のひとつとして位置づけ得る。本調査においては、とりわけ「お祭り広場」に焦点を当て、インターメディアとして位置づけるための資料集成をめぐって、ミクロ的視点とマクロ的な視点から調査を行った。

2.2 調査目的

本事業における調査は大きく分けて、「ミクロ調査」と「マクロ調査」に分けられる。

【ミクロ調査】

ミクロ調査に関しては、「インターメディア」を具現化したプロデューサー的な役割を果たしている磯崎新氏が自ら所蔵する資料を手がかりに、マイクロエスノグラフィーの手法で、資料調査と対面調査を行った。「インターメディア」という観点からマイクロエスノグラフィーを実施することによって、メディア芸術の源流に関する基礎的なデータの体系的な整理に道筋をつけることを目的とする。

【マクロ調査】

ミクロ調査やマイクロエスノグラフィーの手法で陥りやすい単子眼的な観点に陥らないようにするために、大阪万博における現在、大阪府が管理運営する大阪府万博記念公園事務所には、大阪万博の公的な収集資料は残っているが、大阪万博に参加した企業や関わった個人の持つ資料の所有情報や所蔵・保存の現況に関して、体系的な把握がまだなされていない。マクロ調査では、国家的な事業を当時のメディアテクノロジーという観点から資料調査し、メディア芸術の資料として位置づけ、その資料の所在や所蔵の状況を把握することを目的としている。また調査協力で借り受けることのできた目録データに

第2章 事業の目的、主旨

ついて、メディア芸術という観点からの収録が可能かどうかの仮説形成を行うことを、本事業のマクロ調査としている。

以上のようなまったく方法論を異にする二つのアプローチにより、大阪万博におけるメディアテクノロジーの役割を明らかにすることにより、本事業ではできる限り参加企業・団体及び関係者が所蔵する大阪万博の資料の実態調査を行うとともに、目録化を行いメディア芸術データベースに登録することを目的とする。

第3章 実施体制

本事業の調査活動は、事業受託者の東京藝術大学が行う。事業を実施するに当たり、株式会社寿限無、有限会社フルティガと連携する。資料調査の対象としては、大阪万博の中でも東京藝術大学はインターメディアに関する資料調査を進め、インターメディアに関連する周辺事象の資料調査、既存目録データ入力を株式会社寿限無が担当した。目録データのサンプル入力として目録検討など、有限会社フルティガにも協力を得て、調査研究の充実を図った。具体的な体制及び構成員は以下のとおりである。

3.1 調査実施体制

【ミクロ調査チーム】

東京藝術大学

本事業の運営と、資料調査とメタデータ化の方針を立て、テクノロジーをもちいた造形表現という観点から、大阪万博におけるインターメディアに関する資料調査を担当する。
また調査した関連資料のメタデータのサンプル作成と評価を行なう。

- 桂 英史（東京藝術大学大学院映像研究科教授／メディア研究）
本事業プロデューサーして、事業方針を立てる。
- 和田信太郎（同学芸術情報センター教育研究助手／アート・ドキュメンテーション）
リサーチャーとして、調査活動のディレクションと所在調査を担当する。
- 辛 美沙（アートマネジメント・ディレクター）
リサーチャーとして、調査資料保管者とのヒアリングを担当する。
- 西川順子（東京藝術大学大学院映像研究科事務職員）
本事業の会計業務を担当する。
- 野間 穰（有限会社フルティガ）
インターメディアに関する磯崎新氏資料を調査し、目録データのサンプル入力としてデータベースの項目について検討を行う。またテキスト及び映像のドキュメンテーションを担当する。

【マクロ調査チーム（連携協力：株式会社寿限無）】

テクノロジーを用いた展示構成やイベント実施など、よりマクロな視点から資料調査と資料の再評価及び既存所蔵目録データ入力を行う。

- 岡本 明（現地調査・ヒアリング）
- 黒田久美子（事前調査、現地調査・ヒアリング、目録データ入力・抽出・整形）

第3章 実施体制

- 胡 夢溪（事前調査、目録データ入力・抽出・整形）
- 張 玉瑩（目録データ入力・抽出・整形）
- 横山陵司（所蔵目録データのプロトタイプ作成）
- 佐々木望（経費管理）

第4章 実施スケジュール

第4章 実施スケジュール

	インターメディアに関する調査	インターメディア関連マクロ調査	目録データ入力
10月	調査対象決定 所在調査、協力依頼	事前調査、現地調査・ ヒアリング、調査対象決定	
11月	現地調査、協力依頼 調査対象の再考	現地調査・ヒアリング 協力依頼、資料リスト作成	既存目録データ入力・整形
12月	現地調査 保管状況・資料状態の調査 19日 磯崎新ヒアリング調査	現地調査・ヒアリング 協力依頼 16日 有識者会議	既存目録データ入力・整形 目録データプロトタイプ作成 サンプルとしてデジタル化
1月	資料保管方法の検討 資料リスト作成	現地調査・ヒアリング 資料リスト作成	既存目録データ入力 目録データ項目検討 目録データプロトタイプ作成
2月	協力依頼 報告書作成	現地調査・ヒアリング 協力依頼、報告書作成	目録データプロトタイプ作成 報告書作成

[2017年10月]

実施体制と実施業務の作業方針について検討した。事業期間までの実施予定を立て、連携協力機関との業務内容を決定した。メディア芸術の資料集成を実現するために調査対象のうち、インターメディアに関する調査（ミクロ調査）と、その関連資料のマクロ調査とで調査活動を分担し、並行した調査が実施できる体制を整えた。連携協力として、株式会社寿限無、有限会社フルティガと業務内容を取り決める。調査対象を決定するためにも、大阪万博の参加企業・関係者・関係団体からの洗い出し、ヒアリング調査を実施し、メディアアートの観点から大阪万博を調査する事前調査を進め、調査対象を決定した。

[2017年11月、12月]

調査対象のうち、万博のお祭り広場を調査していく中で、磯崎アトリエが保管する『日本万国博〈お祭り広場〉を中心とした外部空間における水・音・光などを利用した総合演出機構の研究 調査報告書』（1967年、通称：赤本、以下「赤本」という）の万博開催以前の計画段階における調査報告書が見つかり、資料保管者や関係者へのヒアリング調査によって、赤本の調査背景には、磯崎新氏が関係する3つの展覧会との相関が確認され、本事業の目的であるメディアアートの発展や、その系譜を辿っていくためにも、日本におけるメディアアートの先駆けとして位置付け、「万博お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示」を調査対象に据えて、事業計画を見直した。

第4章 実施スケジュール

現地調査をもとに、インターメディア関連資料のマクロ調査として、12月16日、東京藝術大学において、大阪万博に参加した企業や関わった個人の持つ資料を体系的な把握をするために岡上敏彦氏、乙部順子氏に出席していただき有識者会議を開催する。インターメディアに関する調査では、調査対象のキーパーソンでもある建築家の磯崎新氏に協力を仰ぎ、マイクロエスノグラフィーの手法で、資料調査と対面調査を実施し、12月19日に国際交流会館においてヒアリング調査を行った。このヒアリング調査には、アーキビストの土屋紳一氏（早稲田大学演劇博物館）にも同席し助言を頂いた。

[2018年1月]

調査対象が50年以上前のイベントであるため、資料も閲覧に支障を来すほど困難な状態も少なくなく、調査資料の扱いや資料保存方法についても必要性が高まり、目録データ入力为目标として、有限会社フルティガとともに資料保管方法の検討を進めていく。同時に保管者からの協力を得ることは必須であり、協力依頼を進めた。

[資料データ入力に関する実施スケジュール]

資料のメタデータ化については、収集された既存目録や、所在が判明した資料をもとに11月より所在活動と並行して作業を進めていく。データのチェック・抽出・整形をし、メタデータ化の入力業務を行なう。12月には、資料状態に劣化がみられるマイクロフィルムが発見され、データベースのサンプル入力として専門業者に依頼しデジタル化をする。1月、メディア芸術データベースへの有効性の高い登録をするための考察として、各所蔵機関の目録をもとに統合をし、データベースのプロトタイプを作成した。またデータベースの汎用性を高めるためにも、目録項目の検討を行った。

第5章 実施内容

本事業では、資料の所在調査と、目録データ入力を連動する体制で取り組んだ。

所在調査は、インターメディアに関する資料調査（マイクロ調査）と、インターメディア関連資料のマクロ調査を並行して実施する。資料状態から保存方法の検討や、資料のデジタル化をデータベース入力サンプルと実施し、資料調査のワークフローを整理した。

目録データ入力については、所在調査の結果や調査情報をもとに進めていき、収集した資料目録を統合し、それに適したデータベースのプロトタイプを構築し、目録項目（メタデータ）の検討を行った。

5.1 調査対象の決定

所在調査では、インターメディアに関する資料調査（マイクロ調査）と、インターメディア関連のマクロ調査に作業を分担する。

マイクロ調査となるインターメディアに関する資料調査（マイクロ調査）では、大阪万博に関する参加企業・関係者・関係団体から本事業目的に適する調査対象を決めるべく、既存の調査結果や研究をもとに、事前調査をまず行った。資料管理者には、メディア芸術データベースへの理解や、本事業の目的である目録化作成までの業務手順を説明し協力依頼するにあたり、本事業の期間や体制や予算といった事業計画のもとに実施可能かどうか実施体制のメンバーで十分に検討した。大阪万博という国家イベントが、日本におけるメディアアートの発展にいかに関与を与えたのか、メディアアート分野の研究者・メディアアート関係機関等に資する所在調査を目指し、アーティストを手掛かりに、大阪万博開催の計画段階までに遡行し、調査対象を決定する。

マクロ調査となるインターメディア関連の資料調査では、大阪万博に参加した企業や関わった個人がもつ資料の所有の情報や所蔵・保存の現況に関して体系的な把握をめざし、その資料の所在や所蔵の状況を把握することを目的に、調査対象を選定した。

5.2 調査対象

(1) お祭り広場の事業計画に関するミクロ資料調査

- ① 建築家・磯崎新によるお祭り広場のデバイス設計に関する調査
- ② 万博お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示
 - ・「岡本太郎」展（第1会場／池袋・西武百貨店、第2会場／銀座・東京画廊）
 - ・「色彩と空間」展（企画：東野芳明、会場：南画廊 1966年9月）
 - ・「空間から環境へ 絵画＋彫刻＋写真＋デザイン＋建築＋音楽の総合」展（企画：東野芳明、会場：松屋 銀座 1966年11月）

※以上3点の展覧会を日本の「インターメディア」における草分けであると位置づけ、お祭り広場と併せて関連資料の調査・研究を実施する。

※関連資料（仕様書・指示書・会場設計実施図面・雑誌記事など）の目録化（サンプル版）を行い、メディア芸術データベースへの登録可能性を評価する。

(2) 国内企業パビリオンの出展計画と実現をめぐるマクロ資料調査

- ・株式会社丹下建築事務所
- ・株式会社大林組
- ・武蔵野美術大学：有限会社芦原建築設計研究所 寄贈資料
- ・フジパン株式会社
- ・株式会社渡辺プロダクション（大阪万博ホール・お祭り広場・パビリオン等で行われたイベントに関連する資料の調査）
- ・小松左京ライブラリ保有の資料調査

第5章 実施内容

5.2.1 インターメディアに関する資料調査（ミクロ調査）

以下、インターメディアに関する資料調査は、ミクロ調査チームが担当し、本項目はその報告である。

5.2.1.1 お祭り広場のデバイス設計に関する調査

1) 調査対象

建築家・磯崎新によるお祭り広場のデバイス（照明・音響・ロボット等のコンピューター制御）設計

2) 調査対象とした理由

本事業では、大阪万博の中でもお祭り広場に焦点を当てた。お祭り広場の計画は、建築家・丹下健三を中心とした丹下研究室が担当していたが、大屋根の下で作動するデバイス設計、つまりメディアイベントのための「諸装置」全般は磯崎新氏により手がけられている。アーティストとエンジニアの協働によって実現したテクノロジーを用いた造形表現であり、メディアイベント化を試行したデバイス設計である。お祭り広場のデバイスとその試みは、インターメディア、協働性、外注芸術、インストラクション、映像メディア、行為遂行的＝パフォーマティブ、メディアイベントと、現在にもつながる問題意識が潜在し、日本におけるメディアアートの系譜にとって、欠くことのできないプロジェクトである。

3) 調査内容

磯崎氏が主宰する磯崎アトリエ、磯崎がアーティストとして所属する Misa Shin Gallery を起点として、都内近郊の収蔵庫への実地訪問を行い、メールや電話も含めてヒアリングを重ねて調査対象に関連する資料の所在を求めた。磯崎氏本人の協力を得ることでマイクロエスノグラフィーの手法によって、資料調査と対面調査を行い、所蔵目録からだけではない、調査内容に該当する資料所在を調査した【別紙】資料 A 参照。設計図面やマイクロフィルムなど 5.2.1.4.2 で資料現況を後述するが、状態の劣化も確認でき、閲覧可能な状態への復元の必要性も高まりその検討を実施した。目録化のサンプルとしてマイクロフィルムのデジタル化を行ったところ、1200 枚のお祭り広場・空中テーマに関する図面を復元することができた。

4) 調査報告

- ・レポート「三井グループ・パビリオン 実施基本計画 1968＝MARCH」
- ・EXPO'70 お祭り広場「図面 演出装置配置プラン」
- ・EXPO'70 お祭り広場「図面 第二原図 演出システムダイアグラム」
- ・EXPO'70 お祭り広場「図面（スケジュールダイアグラム）」
- ・EXPO'70 お祭り広場「図面ファイル（A1）実施設計図（諸装置工事）」（24 点収納）
- ・EXPO'70 お祭り広場「図面ファイル（A1）」（83 点収納）
- ・EXPO'70 お祭り広場「図面ファイル（A1）」（31 点収納）

第5章 実施内容

- ・レポート「お祭り広場 お祭り広場の基本的性格」
 - ・レポート「修景調査報告書 お祭り広場を中心とした外部空間における、水、音、光などを利用した総合的演出機構の研究」（通称：赤本）
 - ・レポート「日本万国博 お祭り広場演出機構—機械装置一覧」
 - ・レポート「日本万国博 お祭り広場諸装置制御方式一覧」
 - ・EXPO'70 お祭り広場「資料ファイル」
（図面紙焼き、マイクロフィルム、ロボットに関する磯崎メモ原本 など）
 - ・EXPO'70 お祭り広場「図面」6点
 - ・EXPO'70 お祭り広場「スケッチ デジタルデータ」
 - ・EXPO'70 お祭り広場「マイクロフィルム」7点
 - ・EXPO'70 お祭り広場「マイクロフィルム」デジタル化（2点） 図面 1200枚
- 以上、磯崎氏所蔵で資料 17 件 1357 点の所在が判明した。

〔別紙〕資料 B 参照

5.2.1.2 お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示

5.2.1.2.1 「岡本太郎」展（1964 年）

1) 調査対象

「岡本太郎」展（1964 年）

2) 調査理由

1964 年に開催された「岡本太郎」展は、読売新聞社が主催となって全国巡回¹をした展覧会である。東京では、第 1 会場は池袋の西武百貨店²、第 2 会場は銀座 8 丁目の東京画廊で同時開催している³。第 1 会場の会場構成を磯崎新氏が担当した。5.2.1.3 ヒアリング調査で詳述しているが、会場を真っ暗闇にして作品にスポットライトを当てる劇的な手法が試みられている。美術館や展覧会会場をブラックキューブとするのは当時、国内外でみても非常に新規的な展示であった。展示用の照明器具が一般化するのはホワイトキューブが一般化する 80 年代になってからで、1964 年に照明による演出への着目は先見性が高く、その後の光の制御する取り組みへとお祭り広場・諸装置につながっていく。この展覧会は異例の入場数を記録したことも知られている。ブラックキューブやライトアートの展示技術や知見は、現在のメディアアート分野においてアーティストだけではなく、エンジニアやインストーラーへと受け継がれている。

¹ 名古屋、川崎、仙台、福岡、千葉、大阪を巡回。

² 西武百貨店の催事場はその後、セゾン美術館になった。

³ 東京画廊は 1950 年より日本最初の現代美術を扱う先駆的な画廊であった。

第5章 実施内容

3) 調査内容

前項 5.2.1.1 の調査内容とほぼ同じとする。

4) 調査報告

会場写真や関連記事をコピー機によって出力し、収集したファイルが確認された。

磯崎氏のスタッフによると、近年に川崎市岡本太郎美術館に磯崎氏が展覧会に参加したときに使用したファイルで、岡本敏子氏が寄贈した写真はスクラップブックで同美術館に収蔵されているとのこと。雑誌『建築』（1964年3月号）には、調査対象の展覧会レポート「闇と太陽と歌と 岡本太郎展をめぐって」が記載されている。

以上、磯崎氏所蔵で資料1件の所在が判明した。〔別紙〕資料C参照

5.2.1.2.2 「色彩と空間」展（1966年）

1) 調査対象

「色彩と空間」展（1966年）

2) 調査理由

「色彩と空間」展は、1966年9-10月に東野芳明氏（美術評論家）の企画により南画廊⁴で開催された展覧会である⁵。企画者である東野が手仕事に捉われない美術への刷新として、「発注」という手続きを参加作家に課した。スケッチや設計図を作成するインダストリアルな製作工程の導入は、デザインや建築の方法論を逆手にとった、他者性の介在、作家の署名性といった問題提起でもあった。メディアアートに関連するアーカイブの現場や研究において、作品の「再制作」や「再現」といった芸術表現や作品概念をめぐる議論は今日的な課題でもある。「色彩と空間」展には、メディアアート分野がその後に抱える問題への先見性と具体的な取り組みが見いだせるため、本事業の調査対象に値すると判断した。

3) 調査内容

前項 5.2.1.1 の調査内容とほぼ同じとする。

4) 調査報告

- ・「色彩と空間」展の模型写真（ゼラチンシルバープリント）1点
- ・表紙に図面が記載された展覧会のポスター

以上、磯崎氏所蔵で資料2件の所在が判明した。〔別紙〕資料D参照

⁴ 1956年設立、志水楠男が画廊主の東京画廊とともに現代美術を扱った画廊。

⁵ 参加作家は、サム・フランシス、アン・トゥルーイット、磯崎新、五島衛、田中信太郎、三木富雄、山口勝弘、湯原和夫の8名。

5.2.1.2.3 「空間から環境へ」展（1966年）

1) 調査対象

「空間から環境へ 絵画＋彫刻＋写真＋音楽の総合」展（1966年）

2) 調査対象とした理由

「空間から環境へ 絵画＋彫刻＋写真＋音楽の総合」展は、本事業の主軸である日本におけるインターメディアの展覧会として見逃すことができない事例である。インターメディアを提唱したA・カプローの『アッサンブラージュ、エンバイロメンツ、ハプニングス』が出版された1966年、美術評論家・東野芳明氏企画によって銀座の松屋デパート8階で開催された展覧会である。出展者は、磯崎新、山口勝弘、秋山邦晴、一柳慧、東松照明など、美術だけではなくデザイン、建築、写真、音楽の多岐にわたる分野から表現者38名が参加している⁶。音や光や動きによって展示会場は動的な装置で構成され、エンバイラメントの名の通り、観客は環境とのインタラクティブな状態を体験することが主題となっている。展示構成は磯崎新氏が担当し、ここでの磯崎氏の仕事はテクノロジーとアートの可能性を見だしその発展に貢献するものである。万博お祭り広場のデバイス設計には計画段階の通称、赤本と呼ばれる調査報告書があったことは前述した通りだが、この展覧会によって「エンバイラメントの会」が結成し、赤本の執筆者たちが「エンバイラメントの会」の主要メンバーとも重なっている。赤本は、お祭り広場を検証するためにも重要な資料と捉えて、大阪万博・お祭り広場でのメディアテクノロジーを全面的に多用する道筋を立てた実践的な試みと位置づけ、「空間から環境へ」展を調査対象に選定した。

3) 調査内容

前項5.2.1.1の調査内容とほぼ同じとする。

4) 調査結果

- ・「建築空間」のためのドローイング（福岡相互銀行大分支店）
- ・「建築空間」模型 1/20（福岡相互銀行大分支店）
- ・「建築空間」シルクスクリーン（福岡相互銀行大分支店）
- ・雑誌『美術手帖 1966年11月号増刊 特集＝空間から環境へ』
- ・東松照明による写真記録（『雑誌カメラ時代 1967年1月号』より切り抜き）
- ・資料ファイル

（会場図面の青焼図面、紙焼き、マイクロフィルム、会場写真、磯崎メモ原本 など）

以上、磯崎氏所蔵で資料7件の所在が判明した。【別紙】資料E参照

⁶『美術手帖 特集＝空間から環境へ』（1966年11月増刊）

5.2.1.3 磯崎新氏へのヒアリング調査

本事業の資料を調査していく上で、これまで後述してきたように建築家の磯崎新氏のインターメディアの役割は大きく、1970 年の大阪万博には直接的に関わっている。これまでも自著や国内外の活動でも大阪万博についての言及も多く、当時の関係者とも国内のみならず交流のある人物である。1960 年代より建築の領域からインターメディアやミクストメディアをめぐって意欲的に活動し、大阪万博・お祭り場では、同時代的な問題についてテクノロジーを駆使して実験的な試みを実現させた。

これまでも芸術史や建築分野で、磯崎氏に対して万博に関する研究及び調査は取り組まれてきたが、本事業はメディアアートとしての観点から、1960 年代よりインターメディアを掲げた磯崎氏のアクティビティに関してヒアリング調査を行い、資料調査の体系的な道筋をつけることを目的とした。当時、磯崎氏周辺の問題意識や実現過程を委細に聞き取りをし、現在から振り返ってみて、一連の活動や時代背景をどのように捉えているのか、その意見についても聞き取りを実施した。

- 日程：12月19日（火）10時～13時
- 開催場所：国際交流会館
- 参加者：磯崎新、染谷李枝（磯崎アトリエ）、土屋紳一（早稲田大学演劇博物館）、野間穰（有限会社フルティガ）、桂英史（東京藝術大学）、辛美沙（東京藝術大学）、和田信太郎（東京藝術大学）、村田萌菜（東京藝術大学）



図 5-1 磯崎新氏 ヒアリング調査

磯崎新：建築家。1931 年大分市生まれ。1954 年東京大学工学部建築学科卒業。1963 年磯崎新アトリエを設立、現在に至る。大分県立図書館（現アートプラザ）を始め、1960 年代に大分市に集中して実現された建築群から、1990 年代の国内外各地、バルセロナ、オランダ、クラコフ、岡山県奈義町、京都、奈良、ラ・コルーニャ、山口県秋吉台、ベルリンなど、そして今世紀に入り、中東、中国、中央アジアを始めとする数多くの最新作まで、どの思想領域にも属さない個人的な思考と空間を展開し、半世紀を越えるその活動は、思想、美術、デザイン、音楽、映画、演劇など常に建築の枠組みを超えて、時代や他領域を交錯する問題提起を生み出している。

以下、ヒアリング調査の抄録を記載する。

▼日本における「デザイン」

桂：1960年代に考えられていたインターメディアは、文献で見る限りエンバイラメントという概念とほぼニアリーイコールで使われている部分もあったりして、いまのメディアアートや、いわゆる現代美術の映像を使った形式はほとんどインスタレーションの形式ですから、ミクストメディアみたいなものとも通じるものがあります。当時は、例えばデザインという言葉も使われていたりしたわけですね。

磯崎：デザインという言葉はあまり定義がなく、当時はすごく曖昧な言葉としてありましたね。装飾家とか、装丁のアーティストとかそういう具合で、あまりデザインとは呼ばなかった。それがやっと言葉として整理され広まり始めたときに、1960年の世界デザイン会議が開催され、デザインという言葉が日本に初めて登場しました。

これはもともとデザイン会議がアメリカのコロラド州アスペンで開催され（アスペン会議、1956）、その中で整備されでき上がってきました。どういう経緯かというところ、戦争中にバウハウスの重要人物たちがアメリカに亡命、移住しました。その連中のうち、例えばグラフィックのハーバート・バイヤー、それからモホリ＝ナジと、バウハウスだとこの2人ぐらいが中心かな。この2人はシカゴですね。ミース・ファン・デル・ローエがシカゴにいたから。そして建築では（ヴァルター・）グロピウスとかマルセル・ブロイヤーとか、こういう人が中心になって主にハーバードというような形で少しずつ動き始めた。アメリカのデザインの一番の展開を追跡するならば、ハーバート・バイヤーですね。彼を追跡していけば1950～60年代にかけて（の動きが）出てくる。その中から、チャールズ・イームズというアメリカ人が出てきて、彼がアメリカサイドから最も新しい形でのデザインを始めた。それからハーバート・バイヤーがいて。あと、モホリ＝ナジは割と早く亡くなりましたが、彼がジョージ・ケペッシュと組んでやったがあるので、メディア的な発想をしていく系列になっている。

それからバイヤーはどちらかと言うと杉浦康平みたいな仕事、プリントメディアやグラフィックメディアというサイドに広がっていく。そしてジョージ・ネルソンとか、そういう核を担う人がいたわけですね。イームズもそうです。こういう人々が集まって、アスペン国際デザイン会議が開催されたのです。もともと、デザインというのは、マスプロダクションの物品に付加価値を与えるため梱包する方法を考えると、ちょっとした色をつけるとか、つまり装飾を扱うものがデザインであるとする概念が19世紀の終わりぐらいからずっと言われていました。ですから、例えばデザイン課というものを行政で作るとなると通産省です。文化庁ではないのです。

これが、その後の諸問題の展開に大きな影響を与えたんです。つまり、商品に付加価値をつけていくのがデザインの仕事だ、という理解が一般的でした。それを独立して言い始めたのがバウハウス系の連中です。例えばイラストレーションなども最初はデザインに入っていました。本や新聞なんかの漫画やイラストを描く、これがデザイナーであると。下絵というか、割り付けをやったり下絵をやったり。これが主な仕事で、バラバラだったですね。それが少しずつまとまってきたのがデザインですよ。

第5章 実施内容

実はデザインの問題で言うと、日本では家具をやっていた剣持勇という人がおり、戦争中、亡命生活を送って生き延びていたブルーノ・タウトが日本で工芸を指導し、剣持は学んでいます。タウトの日本での仕事は、置物などオブジェクトのデザインが主な仕事でした。ちょっとした家具とか、インテリアといったその程度ですが、ここにちょうど写真の人が入ってきて、写真がデザインとつながっていく傾向が現れて出版メディアの動きが生まれ、何となく人が集まってきた。それで、アスペンのデザイン会議に行った剣持が「これは日本でもやろう」と思い立ち、1960年に日本で世界デザイン会議が立ち上がりました。剣持さんは建築分野の家具のデザインもやっていた人だから、じゃあ建築も一部入れようということで、建築がデザインに少し引っかかった。そういうことで、デザインという言葉ができてきました。

▼シティプランニングと、アーバンデザイン

磯崎：都市というのは、シティプランニングと、アーバンデザインという二つの流れがあります。アーバンデザインという言葉はなくてユルバニズムという呼び方をしており、これはフランス系です。そしてシティプランニングというのはシビックで、これは主にイギリス系です。ドイツは、この二つに対してははっきりしておらず曖昧なままにきていますが、その中からバウハウスが出てくるんですね。バウハウスでも、デザインというのはあまりはっきりした呼び名としてはなかったです。

そのうち、ハーバードでアーバンデザイン学科というものを作ろうとする動きが現れました。どのような領域かというと、建築を単体ではなく都市の一部分につながるように捉えています。これまでプランニングというのは都市を平面でしか考えていみせんでしたが、それを立体で考える手掛かりを何とか掴みたいというのがこのアーバンデザインという領域の始まりです。フィラデルフィアではシビックデザイン、ハーバードではアーバンデザインと。ところが依然として、アメリカでイギリス系のプランニングのコンセプトが強かったんですね。これは同じデザインという言葉を使っただけで、やっぱり違うんですよ。この系列によって考え方が重なったりしている。

桂：だからハーバードは今でも GSD (The Harvard Graduate School of Design) と言っているんですか。

磯崎：それは、そのときに初めてできた学科ですね。他にシビックデザイン学科というのは、ペンシルバニア大学にあります。それぞれに当時の理論家がいるんですよ。

▼「見えない都市」へ

磯崎：僕は丹下（健三）さんの研究室に入ったとき、この二つの流れを日本で統合する方法がないかと考えました。アーバンデザインの方が立体的だからイメージーションできる。もっとプラグマティックに都市をコントロールするのがシティプランニング。だけどこれは両方必要であるということで、1960年代に「見えない都市」という概念に行き着くわけですけども、その前に、この二つの流れをずっと追

第5章 実施内容

跡した論文を一つ書きました。これは『空間へー根源へと遡行する思考』（1971年、美術出版社）という本のわりと冒頭にある。二つの流れは、基本的には両方とも必要なもので、相補性というか、お互いに相補うかたちでしかこのリアルな都市は組み立てられないのではないか、ということを論文の手掛かりにして展開したものです。まあ、これはまた別の話になるのですが。そのときにプランニングを行う人をデザインと言い換え、そのうち今日ではアーキテクトという言い方に段々と変わってきましたけれども。そういう流れが実際にはありました。

で、そういうときにマーシャル・マクルーハンが現れたんですね。マクルーハンが「メディアはメッセージである」と唱え始めたことに、僕なんかも影響を受けて。じゃあ相補的でバラバラになっている二つを統合するきっかけは、マクルーハンの言うメディアではないかと。こうしたことを考えながら、じゃあこれを都市的に展開するならば「見えない都市」というのが概念としてあり得るのではないかと。というのが60年前後の僕の立場です。

桂：ではもう60年、本当に前後早々くらいですか？

磯崎：60年前ぐらいからそういう動きがあって、いわゆるメタボリズムとか何かの、デザイン会議に発表するために組み立てたプロポーザルとか。そこにパンフレットを作ったのだけど、それまで誰も知らず見てもいなかったという。読んでいる人も少なかったのがあのときの始まりですから。まあ、僕はそれをもう少し筋書き立てて整理したと。

で、その中でもう一つ。環境問題とか環境という言葉も昔から使われていたのですが、段々とはっきりしてきて。環境というのは、見ているとアーバンデザインの方でもないし、シティプランニングの方でもなく、どちらにも入ってこない。けれど日本の都市を見ると、そのどっちにも枠組みとして収まらない。それで、日本の都市空間というのは別のものではないかと考え始め、研究グループを作って「日本の都市空間」を雑誌に発表し、それが本になりました。これはいまだに出版されているという、かなり息の長い本（『日本の都市空間』、都市デザイン研究体、彰国社、1968）になりましたけれど。

▼「界限（かいわい）」と「闇」

磯崎：メディア的で形にならないモヤモヤとした都市の空間というものを、何らかの形でうまく説明できないかということで「界限」という言葉を取り出したのです。これはもう、外国では明確な翻訳ができない言葉です。

日本人ならばっと感じるけど。新宿界限とか、どこで線を引いていいのかわからないわけですよ。都市計画の方に訳の分からないアクティビティがある中で、こう赤線を引いて囲い込んだからこれが赤線地帯、といってでき上がる。

また、「広場」なんていう概念も日本にはないんですよ。道や辻、野っ原、河原みたいな概念はあるけれど、ヨーロッパ的な「広場」なんてない。じゃあ、どのように日本を説明すればいいんだろうと。何とか曖昧なものを曖昧な形で表現できる方法はないかということで、一生懸命日本語を定義して探そう

第5章 実施内容

としていたのが、あのときのことですね。だからそれが、結局僕にとってはメディアが展開していくメディアアートに関わっていくような方向に見方ができ始めた時期で、1960年代の始まり2〜3年ごろのことです。

桂：「界限」とか、その後の「間」はそういう問題意識だったですね。

磯崎：「間」ね。それは外国人を驚かさなきゃいけないから。お前ら分かってないな、と。時間とか空間とかは分かっているけれども、これらは日本にはなかったもので、日本には「間」しかないんだよと、こういう言い方をして。そして、時間の中に空間が入っていて、空間の中に時間が入っているのが「間」であると。つまり日本人のセンシビリティだという言い方でした。

▼「虚」「闇」「間」から「エンバイラメント」へ

桂：メディアはある程度、機械形式の手順とか形式化されたプロトコルで成り立っている。そのプロトコル的なものと、非常に曖昧な「界限」や「間」といったものを、これだったら結びつけられるのではないか、と思った直感というのはどこにあったのでしょうか。例えばマクラーハンの場合は、このプロトコルに依（よ）ってくれたら、いわゆるメディアの社会で世界に膜みたいなものができるのではないかという、思想にある種の福音主義みたいなものがあつたわけですね。

磯崎：僕が関心を持っていたのがフランツ・カフカの『城』と、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』で、この2冊が最もいろいろなものを考える手掛かりを与えてくれました。どういうことかということ、まず『陰翳礼讃』に関して、一番重要なのは日本の住宅のことです。日本は奥に部屋があり縁側があつて、その間に襖、障子、廂、それから庭があつて軒が出ている。そうすると外から直射光が入らない。日差しはまず庭に反射して、反射した光が軒裏に当たって、その軒裏に当たった光が障子を通じて畳の表面に。そして表面に反射して、やっと床の間の方に入っていく。床の間は暗闇です。それから更にもう一步入ったら、真っ暗な部屋。ヨーロッパの建築を見ると、しっかり区切られている。ここから明るく、ここから暗いというように仕切りが壁としてはっきり存在しますが、日本の場合はこれがなくて全て光にフィルターがかかりグラデーションになる。このテキストはおそらく最初に仏語に訳され、その後、英語に訳されていますが、陰翳という言葉は影＝ombre、shadowと訳しているわけです。ということは、ここからは明るい、ここからは暗いとはっきりしているのが影じゃないですか。だから外国人は陰翳というものを影と理解しています。これは全然間違っている。

グラデーションがないんですよ。グラデーションがあつて、明るいところから自然に暗いところになって、最後に真っ暗闇になる。この流れを陰翳と言い、shadingなんですね。だからこう丸いものにデッサンで影をつけるとき、明るいところから濃くしていくじゃないですか。この全部が影なんだというのを、谷崎は一生懸命主張している。僕らはその中間地帯に住み込んでいて、そしてどうやらヨーロッパの人々は明暗のはっきりした考えで生きているらしい、と。それで向こうの建築の説明や、小説を読

第5章 実施内容

むと大体そういうことになっている。全然日本と違うのだと。この違いは都市にも生活感覚にもつながる。それを当時よく考えましたね。

カフカの『城』は、主に電話なんですよ。測量士が、城に入りたいのに入れない。電話は通じるが気に入ったときに取るので、ちゃんとは通じない。つまり、僕はその当時パチンコなんか一生懸命考えていたから、パチンコは玉がどこに流れるか分からないじゃないですか。カフカはあれと同じことを電話の状況でやっていたのではないかと、それをああいいう膨大な小説に組み立てたんじゃないかと。だから、パチンコの流れだと。通信ということ、データ通信、流れ、情報伝達の曖昧さや不確定さ、大きな意味で言うと ambiguity に当たるような両義性につながっていく。こういう部分がカフカの中に取り巻いていたのかもしれない。

片方で、日本は闇の方へ流れていくグラデーションがあり、現実の大きな部分、都市の空間の中では不確定なものが不確定なままに走り回っている。そうすると最終的にはこれはヴァーチャルになるのではないかと。片一方の極にヴァーチャル（＝虚）、片一方の極に闇がある。虚と闇が両極に存在していて、互いの方向にじわーっと流れていく無数のスペクトラムの段階があり、我々はその間に時間的、空間的に住んでいる。ヨーロッパの時間も空間も定義として使えない。そこでどうしたら良いかというと、日本人は「間」でいいと。「間」というのは主観の気分じゃないですか。間の取り方、間合いとか。それで僕は呼吸であるとか、息、拍子の取り方など演劇的な身振りに至るまで「間」で説明できる。都市の中で動いているということが、むしろ都市空間の実態ではないかと。日本は建築の形がどうだとか、行きやすいとか機能的に良いとかその前に、そういうようなものが始めから身体に染み込んでいる。だからそういう人間たちが都市で動くのと、外国の人たちが動くのと、外国の人々というのはきちんとした時間で生活ができるようになっているんですよ、ヨーロッパでは。ところが日本人はそんなことはやっていない。大体、明るくなったらこうする、暗くなったら寝るという程度の感覚で全部やっているから、時間の区切りも変わっているわけですね。このように時間も違うし、絶対時間と純粹透明空間という概念も日本には使えない。使っても仕方がないと思うようになってきたことがあって、これが僕の仕事としてもエンバイラメントや何とかつながっていくんです。

▼「おぼけ東京」から「東京計画 1960」

桂：1964年に岡本太郎さん（芸術家、1911-1996、以下太郎さん）の「岡本太郎」展（1964年、読売新聞社主催）が開催されていて、そこで完全に真っ暗な展示になりますよね。

磯崎：その通りなんです。だから、その辺の闇に一番最初に関心を持ったんです。

太郎さんのところには、実は僕が大学院に入ってからすぐの1956-7年頃に行きました。丹下さんが太郎さんと付き合っていましたから。太郎さんの青山の住宅ができて、そこで。

そして、太郎さんが丹下さんと未来都市の計画を作りたいと。それはどこかの雑誌（雑誌『総合』）の

第5章 実施内容

企画だったかもしれませんが、「ぼくらの都市計画」という名前の太郎さんの話があって。丹下さんと太郎さんと、あともう1人誰だったかで座談会みたいなものを開いて喋りました。この中で制作案を作るに当たり、僕は太郎さんの家に派遣されたんです。そして資料を集めては持って行くという仕事をしていて、それで大分出入りをしていたんです。

太郎さんは、締切り間際になってこれを描き始めた。そうしたら僕は、「あれ、これは都市計画ではないですか」と言って。《おばけ東京（別名 いこい島）》（1959年）のプランができた。ここが今のお台場の先です。その絵は僕が最後に版下用に描いた。そのときに、太郎さんの絵を逆に変えたんですね。そうしないと収まりが悪いと。太郎さんは本当は逆にしていた。

桂：出島でしょう。

磯崎：逆にしなくても、太郎さんの方が合ってるかもしれない。どちらにせよ、こういう星みたいに広がっているのは、今で言うところと新宿とか渋谷とか、品川とか上野の位置で、だから都心に対して半分。あまり変わっていないんです。それで太郎さんがこの辺を、というのをいわゆる太郎さんのイメージにしているというだけのことで。僕もそれに合わせて、スクリーントーンを切り抜いて貼るんですよ。そういうので描いた記憶がありますね。

その後太郎さんが、夢の島の方を更にずっと考えていて。太郎さんと僕は「おばけ都市東京」というタイトルで対談を行いました。要するに、太郎さん流に言うところゴーストイメージというか。東京に対してもう一つ架空の都市を作り、東京に住みたくない者がここに住めばいいじゃないかというのが、太郎さんの主張でした。それで「おばけ東京」という話を。まあ僕は聞き役をやってたんですが、お話を聞いたことがありますね。この対談は、1960年代の半ばを過ぎて後半になってからの話になります。

和田：《おばけ東京》は海を埋め立てて、軸線には皇居が意識されています。この「おばけ東京」の後に「東京計画」があるんですよね。

磯崎：実はここにこう、皇居に向かって飛び出た軸線がありますよね？これの後にね、丹下さんがこの絵の皇居がありますね。皇居と軸線と、1本線を引いたんですよ、単純に。そして僕らはこの線だけ引いたのを、丹下さんの直筆で見ているんです。それで「東京計画」やりましょうと。一本線では始末に負えないから、実は宮城の幅で2本の線を引いたのがその真ん中で。はしご状の。枝が出たというのが今度あって。これが「おばけ都市」からの「東京計画」です。

桂：これは丹下さんにとって、広島計画の元になった大東亜記念造営計画と関係はあるのでしょうか？

磯崎：僕はあると思います。大東亜記念造営計画は1942年の案で、これが丹下さんのデビュー作です。これは建築の計画ではなくて、道路だったんです。大東亜道路というのを提案した。これは宮城前からずっと横浜の方に降りてきて、今の新幹線くらいの流れかな。それで富士山に向かってぐうっとカーブ

第5章 実施内容

をして、最後は富士山の頂をめがけてまっすぐした軸線が向かうと。ということは、宮城から富士山をつなぐ軸があり、言い換えれば日本の中心＝軸になるのは富士山と天皇であるという理解が明らかなものですね。ただの線を引いただけの絵しか残っていませんけども。それで富士山の麓にちょっとした神殿風のものを作ってあげたいということがあって。

浅間神社曼荼羅（まんだら）というのがありまして、これが一番上の富士山、そして軸線があってそこに神社があり手前に交わるという。この浅間神社曼荼羅と同じ構成ですね。で、それを今風に改造したのが大東亜記念造営計画であるというのが、僕なりの解釈です。

まあ戦争中は公共のことだけでも、戦後は触れてはいけない話だったんですよ。だから東京計画のときはそれでも消さずに残したというだけで。ですから真っ暗闇にしたり。

▼「岡本太郎」展とブラックキューブ

磯崎：それで、太郎さんとはそういう付き合いがあったもんだから。

僕が言われたのは、太郎さんのあの展覧会はセゾンの美術館があった場所なんですけれど。当時はまだセゾン美術館というのはなくて、西武デパートの催事場かな。そういうスペースが屋上にあって、そこでしたね。

和田：第二会場もあったようですね、それは銀座の東京画廊だったようです。

磯崎：東京画廊も一応、付き合いがありましたね。それでそのときに、とにかく一応、太郎さんと仕事は見ていたから、普通に並べてもしようがないのでどうしようかと思って、真っ暗闇にしてスポットだけにし、演劇的に演出したほうがいいのではないかと暗闇にしました。避難口の常夜灯などがあって、なかなか暗闇というのはできないんですよ。だから僕はそれを消して歩いてたんだけど、西武の係員が危ないと言ってまた点けて歩くんですよ。それで3回くらいやって、仕方ないからついにオープン前日の真夜中に係員が引き上げたという感じなんですね。

▼マルチメディア型展示の登場

桂：照明に関して、今回のテーマの一つでもある「お祭り広場」をコンピューターでコントロールするという、野心的というか、あの広さで照明をコントロールするという、今思うと考えられないようなことである気もするんですけど、その当時に考えられていたこととは？またコンピューターを使うアイデアはどこから？

磯崎：これはね、さっきメディアの問題というのがひとつあったわけですけども。このときは既に、メディア論的な考え方はかなり意識していました。コンピューターによってコントロールするという概念は、建築の中ではあまりそういう考えはまだあまりありませんでした。

たしか'67年かな。'67年にモントリオール博というのが開催された。もう少し前の'62、3年にニ

第5章 実施内容

ニューヨーク博もあって、これは普通の博覧会になっていますけど、モントリオール博でマルチメディア的な展示というものが、おそらく初めて一つの並びとして出現したのではないかと、僕は思っています。そして、要するに’60年代の始め頃まで展覧会のやり方というのは、写真壁画という。これは戦争前から、主にヒトラーやムッソリーニの時代とかに、写真をのばして大きなパネルに貼り付けて一つの大きな物語を作る、ということが流行（はや）ってきた。それで戦争中は、博覧会なんかは海外に宣伝をするための展示じゃないですか。恐らくあの時代に一番流行ったのは’37年のパリ博ですね。あのときに、ほとんどの館が写真展示、写真壁画ですね。

日本は原弘司さんかなあ、あともう一人誰か失念しましたが（注：山脇巖、亀倉雄策）、日本のイメージを写真にのばして巨大壁画的な形で展示をするという、日本の宣伝のような展覧会を海外でやっています。そのときのメディアは全ての写真がモノクロですね。それに対してモントリオール博は、プロジェクションでの展示になってきたんです。

だから今度はカラー映画的なものですね。それを大きくのばして展示するという形で。このエンバイラメントの続きとして全体を考えたときに、建築物に取り付く照明というのは大体ある。だけど今度はこれを大きなパフォーマンスとして組み立てるとしたらどうすれば良いかというのを考えていたときに、NASAが月旅行というのをやり始めたと聞いて。それでモントリオール博の前か同時くらいに、NASAが月着陸船のモデルを展示していたんです。モックアップですから大したことはないんですが、それを見に行きました。それでわかってきたことが、着陸船のデザインがどうだとかは大した問題ではなくて、むしろコントロール室、管制室というか、ものすごい部屋があるじゃないですか。アポロ13号とか映画ではあの中で指令を出す。このやり方が一番面白い。それで月着陸プロジェクトと同じコンピューターシステムを、同じ形で組み立てみた。だからこの下の一番手前がコントロール室なんです。

▼コンピューター・コントロール

桂：ああ、なるほど。じゃあNASAの巨大なコクピットみたいな空間というわけですね。

磯崎：NASAのコントロールシステムをここに持ってくるかというのをやっているうちに、実際に制御すること自体がものすごい大変になり、それでいろんな人に頼んで、もうコンピューターを使うよりはコントロールシステムの中にマニュアル部分を作って。

桂：人がやったほうが良い、オペレーター呼んで来たほうが早いじゃんみたいな。

磯崎：もうそういうレベルで、6箇月しかないわけだから練習する暇もなくて。それで毎日続けてやっているわけですから会期中に覚えこむわけにもいかないという、実際の現場はそんな大変な状況だったんです。だから、やっぱりほとんど全部が人力になってきましたね。

桂：一応でも、これは照明計画の仕様とかがあったわけですよね。それはどなたかが担当し、入札とか

第5章 実施内容

もかけなければならなかったわけですね。

磯崎：その通り。これはね、ある範囲のコンピューター絡みのところは富士通ですね。富士通のコンピューターを入れたので。今のパソコンと同程度の能力だったと思うんですけど、冷暖房付きの大きな部屋いっぱいに並んでやっと動いていたという感じですからね。

そのとき、6チャンネルに一人ずつ作曲してもらったものを磁気テープに録音して、僕はそのうちの一つを事務所に保管してあったんですよ。ところがあるとき、置場がなくなってきて邪魔だということで、よく分からなくて誰かが処分してしまったのかもしれない。

桂：まあ、でも今再現できるかがわからない。

磯崎：これは「赤本」（『修景調査報告書 お祭り広場を中心とした外部空間における、水、音、光などを利用した総合的演出機構の研究』、通称：赤本）と呼んでいる最初の調査研究を行ったときにまとめたもの。それは多分バラバラになっている。今ここに写っているのは、ほとんど「赤本」のときです。そして、まだロボットとかこういうシステムがアップロードされていないんです。それでまず研究させてくれと、研究費をとったのがこれなんです。

桂：ああ、有名な「赤本」ですね。

磯崎：最初に研究した「赤本」とは別に、この研究レポート（「お祭り広場演出機構－機械装置一覧」）には、照明や音響だけではなく、ロボットまでの報告が収められています。赤本のときは、ロボットやその周りのシステムがアップロードされていなく、まず研究させてくれと研究費をとったのがこれなんです。

研究レポートにあるものがアップロードされていき、部分ごとに設計が分かれていった。

▼「環境計画」設立

磯崎：設計段階の分かれていったところで、ロボットが30mから15mくらいのサイズに上下することもありました。その途中経過があり、そのロボット絡みのところを僕は十分付き合ったけど、ほとんど工場の現場で決めているようなものばかりです。ロボットを製作するに当たって、オートメーションという概念が初めて出たのが、50年代のことです。オートメーションから自動的にロボット化した生産ラインを工場が作り始めた。こういう手の動きをしたロボットアームによる生産ラインですね。たまたま僕の弟が機械でオートメーションをやっていたものですから。もう亡くなってしまいましたが、僕の弟に機械部分を考えさせました。機械的な部分（お祭り広場におけるデバイス設計）は、僕の方で責任を持つということで引き受けたので、会社として万博協会と契約をしなければいけない。でもうちはアトリエですから小さくて金銭的に受注できないと。それでたまたま民間で三井パビリオンをやってくれて

第5章 実施内容

いう話が来て、僕はこちらで忙しいから、山口勝弘にやってもらおうと依頼し、山口と僕が組んで臨時の会社にして、「環境計画」（1968年設立）という名前の会社を興すことになったのです。彼は《三井パビリオン》の方をやり、僕はこちらで、その後は、解散し会社はなくなりました。

磯崎：磯崎アトリエには、環境計画の資料はどのように扱っていますか？

染谷：以前、資料の倉庫で「環境計画」という名前のファイルを1冊見つけたことがあります。「環境計画」関連で、例えば、請求書や事務的な資料が綴（と）じてあるファイルが1冊ありました。

磯崎：会社は閉じてしまったから、会社としての記録は残っているかどうかわかりませんね。以前、磯崎アトリエで秘書だった網谷淑子さん（1940-2011）がおり、彼女も環境計画に入っていたんですよ。

桂：万博時のコンピューター周辺の担当は月尾嘉男（工学博士、1942年-）さんですよね？

磯崎：僕はコンピューターのことを詳しくは理解していませんが、確かに月尾がコンピューターの担当でした。

桂：仕様に関することや富士通とのやりとりなど、月尾さんが決めていたと考えていいのでしょうか。

磯崎：コンピューターに関することについては月尾に任せていました。

▼《コンピューター・エイデッド・シティ》

磯崎：山口勝弘との「環境計画」としては、万博後の1972年に《コンピューター・エイデッド・シティ》（1972）を設計しました。万博の三井パビリオンの後、担当者にコンピューター・エイデッド・シティの提案をしたところ、これを何とか計画しろ、と。今度は相手が万博協会ではなく三井物産になり、このプランをつくることになりました。現在の東京湾岸の幕張一帯です。まだ幕張が埋め立てられる以前、1971年に幕張の開発計画担当の建設省の重要人物たちに採用しろと主張したのですが、さすがに「これはあまりにも過激で無理だ」ということでこの話は潰れてしまいました。このときのアイデアというのが、「お祭り広場」のときのコントロールシステムを都市に応用するものです。お祭り広場では、音、光、水、機械の動きのコントロールでしたが、今度は都市のあらゆるシステムのコントロールとして応用させ、構想された案でした。「見えない都市」（『空間へ』所収）に載せていた5つの条件があります。

「サイバネティック・エンバイラメント」の条件

1. 一定の均衡した条件が維持できるようにその環境に保護膜があること。

第5章 実施内容

2. 互換性にとんだ空間であること。
3. 各種の可動装置がふくまれていること。
4. 人間－機械系が成立すること。
5. 自己学習していくようなフィードバック回路を所有していること。

これは1968年に「見えない都市」という論文を書いたとき、5つの条件を提示したのですが、5.の自己学習は、Internet of Things (IoT) のことなんですよ。もちろん4.の人間－機械系は、機械系をさらに人間に接続させることなんですよ。1.～3.は、もう一般的なエンバイラメントなんですね。AIとか、IoTといったこの2つの概念は、身近に出てきて何かと手伝ったりするとか言われていますが、僕は驚かない。

自己学習するということは、人間が放っておいても自動的に回してもらえる。《コンピューター・エイデッド・シティ》の都市のシステムの一覧表がこれです。

- ・CAI (Computer Assisted Instruction) システム
- ・家庭学習システム
- ・医療相談システム
- ・行政サービスシステム
- ・警備システム
- ・公害監視システム
- ・キャッシュレス・システム
- ・流通サービスシステム
- ・自動検針システム
- ・広域信号制御システム

磯崎：これらのほとんどが今や国が政策としてやっていることですよね？都市というスケールでコンピューターを使えば、何とかコンピューター・エイデッドになるのではないかと。自動運転、無人電車は当然なものとして入っている。現在これらは実用化寸前まで行っていますが、当時は日常生活のいろんな側面をコンピューターで包括し、何とかつなぎたいと思っていました。でも当時の厚生省や何かの役人たちが何しろ通じないんですよ。こちらもくたびれるから、もう放っておけばいいや、と。そんな感じでした（笑）。

5.2.1.4 磯崎アトリエ管理の資料調査

5.2.1.4.1 資料調査

大阪万博関連資料、とりわけ「お祭り広場」の実施計画に関する資料の調査のために、磯崎新氏の収蔵庫の調査を行わせてもらった。都内近郊の収蔵場所、2箇所の調査を実施した。収蔵場所には、想定を超える非常に多様な資料と、未整理資料が保管されていた。ほとんどの資料は、収蔵ケース単位で管理されており、詳細な資料総数を把握するには、長期に及ぶ調査が必要になると考えられる。

今回は、「お祭り広場」を中心とした資料の調査であるため、1960年代から70年代までの一部の資料調査にとどまった。時代を限定したにもかかわらず、時間的な制約から、作業量としては現存の確認が精一杯であった。これらの調査内容の表作成しており、5.2.1.4.2で解説する。

基本的には、作品単位で調査を行った。磯崎氏の作品は、単独で成立しているものではなく、同時期に並行して行われている作業や、万博時期に構想していたものが後に作品となることなどがあるため、一概に「お祭り広場」だけに調査を絞ることは、現状では調査不備が起きる可能性が高いため、20年間をとりあえずの範囲と定めた。言うまでもなく、現在まで全ての調査をすることが本来であれば望ましいため、今後可能であれば行いたい。さらに、資料単体を調査する必要がある、そのための前段階としての、必須事項は完了したと考えてよい。

また、将来メディア芸術のデータベースにも登録ができるように、メタデータの項目も検討し暫定的ではあるが作成を行った。詳しい内容は後述するが、調査段階で未登録のマイクロフィルムを8ロール発見した。酸性のすっぱい臭いがしたため、ビネガーシンドロームを懸念し、開封せずそのまま専門業者によって、デジタル化を委託した。本来ならば、ビデオテープやマイクロフィルムなどのメディアは、既にデジタル化が行われているようで、今回のマイクロフィルムは、常温で保管されており、今回の調査によって発掘できたことは、資料損失を免れることができたため、文化資源保護に役立てたと考えられる。

『日本万国博〈お祭り広場〉を中心とした外部空間における水・音・光などを利用した総合演出機構の研究 調査報告書』（1967年、通称：「赤本」、以下赤本）は予想通り収蔵されていた。さらに、それらに関連する70年代前後の資料、図面・施工に関する提出書類・書籍・模型・シルクスクリーンなど、貴重な資料を多数確認できた。特に「赤本」に掲載されているオリジナルの図面を発見することができたことは、大きな成果であった。

5.2.1.4.2 調査対象の資料現況

資料管理はしっかりとされていたが、温湿度管理がなされている状態ではなかった。本来であれば、磯崎氏の万博関連資料を始め、すべての資料は日本の国立美術館がしっかりと温湿度管理された状態の収蔵庫で保存すべきである。個人での管理は、専門知識も含め限界がある。しかし、現状でできる限り

第5章 実施内容

のことがなされていると感じた。マイクロフィルムで撮影された図面は、ほぼデジタル化が完了しており、いつでも閲覧が可能な状態になっている。世界的にも急務とされているビデオテープのマイグレーションもほぼ完了しているとのことだった。

マイクロフィルムから図面がデジタル化されているため、元資料のデジタル化は見送られていたようだ。保管状態は三つ折りケースに複数のスケッチや図面が収納されており、紙の両端はシワやカールが強く残っており、平面を保つ状態で閲覧できない。そのため詳細な資料調査は、資料保護を優先しなければならないため、今回は断念した。

まず閲覧可能な状態に復元させる手法とプロセスの検討、そしてテストとして、少量の資料を実際に環境改善と資料の復元を行い、資料調査を本格的に行うには、どの程度の時間と費用がかかるのか算出する必要がある。サンプルの対象は、「赤本」に載っている図面が保管されているケースを中心に、'70年代初期の資料が適していると思われる。将来、図面などのデジタル化を行う際にも、平面性のある程度維持できる資料現況でなくてはならないため、必須の行程である。

保存状態の改善を行わなかった場合、日本のメディアアートの源流となっているかもしれない貴重な資料が、埋もれたまま劣化が進み、閲覧が不可能になる可能性もある。現段階では、若干の変色も起きているが、ホチキスで留められている資料は、錆（さ）びている状況にはなっておらず、また酸化ガスが充満した状態で保存されているという、最悪な状態には至っていない。しかし、一刻も早く環境改善が求められる状態にある。

資料を保存するためには、中性の素材を使うことが基本であるため、ケースや仕切り用の紙は中性紙を使用すべきであると考え。図面は定型のものがほとんどであるが、ロールのトレーシングペーパーを切ってスケッチされているものがある。そのため、B1サイズの紙が収納できる箱は必要であろう。調査段階で、かなりのシワとカールがあり、正確な採寸は現状では不可能であるため、まずは、現況の写真を撮影しなくてはならない。理由は、資料番号管理に必須だけでなく、タイトルがある資料は少なく、個別の資料の特徴を明記しなければ、混乱が起こるためである。理想的には、1資料に1ケースか1袋にし、それらに資料番号を記入できれば良いが、コストと保管スペースを考慮すれば、できるだけ資料に資料番号を書き込むことが望ましいと思われる。しかし、所蔵資料ではないため、作業効率は下がるが撮影をすることで、おそらく作業中の混乱は避けられることができるであろう。

シワやカールを伸ばすために水分を加えて、伸ばすことがある。調査対象の大半の素材は、トレーシングペーパーや青図のため、水は使用できない。文鎮を置くことのみで伸ばすことをしなければならない。ある程度伸びた段階で文鎮を外し、自重で巻き込まない程度になれば、ケースにまとめて保存する工程へと進むことができる。この作業の際に、ホチキスや付箋紙の撤廃作業も行うことで、保存環境は大きく改善し、後世の研究にとって意義あることは間違いない。

また、調査中にリールに巻かれた状態のマイクロフィルム8個から、まずはデジタル化を2個のみテストした。内容確認を行った際、「お祭り広場」の詳細図面が多数撮影されていた。

〔別紙〕資料 F, G 参照

5.2.1.4.3 資料調査のワークフロー

資料調査に関する手順において、必ず想定外のことが起こるため、思わく通りに進まないことが多い。特に今回は、調査の中で様々なメディアが保存されていたこともあり、効率よく進めることが困難であった。磯崎氏は、一般的には建築家として知られているが、シルクスクリーンを作成するなど、アーティストとしての側面も非常に強い。また執筆活動も続けており、大量の書籍も保管されていたことも、作業が難航する原因となった。こうしたことを踏まえて、様々な種類の資料を調査するに当たり、どのような順序で行うべきかを今後の展望も含め検討を行った。また、詳細な目録作成の前に、資料の状況改善・修復やマイグレーションが必要なことも、メディアアート草創期の調査になると必要なケースがあることも、整理しておきたい。そして、これらの問題は、様々な要因が絡み合っている。今度のスムーズな調査を進めるためにも、標準化を進めたい。

▼ 資料長期保存・資料マイグレーション

一般的には、大きく資料の種類を分けると以下のタイプになる

- ・平面資料
- ・立体資料
- ・フィルム
- ・磁気テープ
- ・光ディスク
- ・ボーンデジタル

調査対象として、光ディスクは、レーザーディスクやCDなどが挙げられるが、70年代までに絞ると、対象になるものは見つけることができなかった。おそらくM0ディスクなどは利用されていたと思われるが、データ管理状況からマイグレーション対応は、問題なく行われてきたと思われる。ボーンデジタルは、パソコン上で作成された図面に当たるが、今回の調査には、90年移行に利用される技術であるため入っていない。さらに細分化が必要であり、今回のケースを以下に当てはめ、標準的な保存方法を記載する。

[平面資料]

- ・1枚形状（スケッチ、図面、シルクスクリーンなど）
- ・冊子形状（書籍、「赤本」、仕様書、契約書、事業報告書など）

[立体資料]

- ・ 立体模型
- ・ トロフィー
- ・ 衣類

[フィルム]

- ・ マイクロフィルム
- ・ 記録撮影ネガ・ポジフィルム

[磁気テープ]

- ・ VHS
- ・ β
- ・ Hi-8
- ・ C-カセットテープ

これらのメディアの特性の違いにより、保存方法が異なる。本来ならばフィルムが、他の資料よりも温度も湿度も低く保存されていなくてはならなかったが、常温の環境で発見された。調査のためには、早急にデジタル化をする必要があると判断した。世界的にマイグレーションが急務とされている磁気テープに関しては、既に記述している通りである。立体資料に関しては、破損状況のチェック、中性紙ケースでの保存、温湿度管理は当然として、酸化ガスを発生するものが使用されているのかを今回の調査では判断基準としたい。鉄製のものが入った状態で、箱に密閉されることで酸化ガス充満し、資料が傷む可能性があるからだ。ガスを吸収する素材を入れることで、劣化を抑えることができる。こうした劣化しやすい素材が使用されているか否かを、調査の段階で記述をしておけば、今後の文化資源保護においても、非常に有意義であると考えられる。

最も多かった平面資料であるが、冊子形状である場合は、ホチキスが使用されていることがある。サビから酸化ガスを発生するため、取り除き、糸綴じに変更することが求められる。紙形状のものには、セロテープや付箋紙が貼られているものがあつた。化学薬品が付着してしまっているため、洗浄ができれば最も良いが、現実的には不可能であり、科学薬品によっては変色を免れない。最も懸念すべきは、戦中戦後まもない時代に作られた酸性紙であるが、今回の調査では見つけることができなかった。もし見つけた場合は、資料保護は不可能と考え、デジタル化によるマイグレーションを優先すべきだと考える。こうした作業を行うためには、調査をさせていただくという立場であるため、中性紙のケースをあらかじめ用意し、資料調査を進めることが、資料提供者にとっても、貴重な資料を扱うことへの不安を払拭させる努力を忘れてはならない。そして保存状況の改善提案を含め、ただ調査をするということだけでなく、文化資源の長期保存を目指すという姿勢を示す必要があるといえよう。そうした啓蒙活動も含めた対応を前提とした作業を行ったため、調査が慎重に行われているように感じ取られる部分もある

が、長いスパンで信頼関係を築いていくことは、保存と同等に重要なプロセスであり、文化継承の見落としがちな問題であることも記しておく。

▼ 資料調査の効率化

平面資料の中でも一枚形状のものに対して、実例を含め、ワークフローの効率化を検討した。前述しているが、トレーシングペーパーによる、図面とスケッチが、三つ折りになって保存されていた。これらをどのように調査をするのか、検討する必要があったからだ。今後の調査を効率化するためにも標準化のためのテストパターンとして報告する。

劣化の激しい紙資料の調査ワークフロー

1. 三つ折りの製図ケースを開く
2. 上から一点ずつ取り出して、簡易な記録としてカメラで撮影をする
3. ホチキス・付箋紙・ホチキスなどの長期保存に適さないものを取り除く
4. 中性紙ケースに入れる
5. 資料の上に中性紙を1枚置き、その上に重しを置くことで、資料を伸ばす
6. 蓋をして、伸びるまで待つ（約1ヶ月は最低でも待つ）
7. 撮影した順の資料写真に資料番号を振り、その番号をファイル名にリネームする
8. ファイル名順に写真を見ながら、可能な限り目録を作成する
9. 資料が自重で平面を保てるようになったら、重しを外し、各資料を採寸する
10. そのときに気になったことを、項目や備考にできる限り書き込む

調査の手順による効率化を図っても、著作権・所有権などの問題も発生する。作業をすることで、資料自体とは別の問題が発生することもある。こうした権利関係の問題は、資料保存や公開にとって常につきまとう問題であり、法改正による、抜本的な改善が今後必要になる

第5章 実施内容

5.3.1.4.4 現存する資料リスト作成

表 5-1 磯崎氏 現存する資料リストの項目

1	作品番号	13	レポート
2	作品区分	14	図面 MF
3	作品名称	15	その他 MF
4	スケッチ	16	模型
5	スケッチポジ	17	模型写真ポジ・ネガ
6	A0 図面	18	模型写真プリント
7	A1 図面	19	写真ポジ・ネガ
8	A2 図面	20	写真プリント
9	A3 図面	21	その他ポジ・ネガ
10	○筒図面	22	シルクなど
11	□筒図面	23	その他
12	図面(その他の場所)		

第5章 実施内容

表 5-2 磯崎氏 現存する資料リスト 一部 (1)

作品番号	作品区分	作品名称	スケッチ	スケッチポジ	A0図面	A1図面	A2図面	A3図面	○簡図面	□簡図面
0-1	建築(計画案)	卒業設計「地方都市(大分)の文化センター」								
0-2	建築(計画案)	建築学会コンペ「集団住宅の配置と共同施設」								
0-3	建築	新宿ホワイトハウス								
1	建築(計画案)	高崎山万寿寺計画	●	●						
2	建築(計画案)	新宿計画				1				
3	建築	大分県立医師会館旧館				1				
4	建築(計画案)	東京計画								
5	都市計画	空中都市(渋谷計画)								
6	建築(計画案)	大分計画								
7	建築(計画案)	ブジョービル								
8	都市計画	大分中心地区開発計画								
9	建築	大分県立中央図書館				3	2			
10	建築(計画案)	丸の内計画				1				
11	都市計画	テルアビブ開発計画								
12	建築	岩田学園		●			1			
13	建築	中山邸				1				
14	舞台美術	映画(他人の顔)美術協力								
15	都市計画	スコピエ再建計画競技設計								
16	建築(計画案)	スコピエ市センター地区計画								
17	建築	福岡相互銀行大分支店				1				1
18	モニュメント	久住歌麿碑								
19	展覧会出品	《空間と色彩》展								
20	展示構成	《空間から環境へ》展								
21	展示構成	EXPO '70 会場基本計画								
22	展示構成	EXPO '70 お祭り広場			1	2				
23	建築	福岡相互銀行大名支店				1				
24	展覧会出品	第14回ミラノトリエンナーレ(電気の迷宮)								
25	建築	福岡相互銀行本店	●		5	1	1			1
26	建築(計画案)	虎井邸								
27	展覧会出品	フレンチエリート建築展								
28	建築	大分県立医師会館新館				3				
29	建築	福岡相互銀行東京支店				2				
30	建築(計画案)	コンピューター・エイデッド・シティ				1				1
31	都市計画	別府湾沿岸広域都市計画								
32	都市計画	群馬の森基本構想								
33	建築	群馬県立近代美術館	●		4	5	12			
34	建築	福岡相互銀行長住支店				2				
35	建築	福岡相互銀行六本松支店				1				
36	建築	北九州市立美術館	●	●		7	1			
37	建築	北九州市立中央図書館			1	2	1			
38	その他	ヴェスヴィオ大作戦								
39	その他	マリリン・オン・ザ・ライン			1					
40	建築	福岡相互銀行佐賀支店				1				
41	建築	富士見カントリークラブ				3				
42	建築(計画案)	北九州市都市景観整備計画			1					
43	建築	矢野邸					3			
44	建築(計画案)	藤山カントリークラブ	●		1	1				
45	建築	秀巧社ビル				3				
46	建築(計画案)	大分文化センター計画案								
47	建築(計画案)	梶井沢1&T在計画				1	1			
48	都市計画	川原湯計画	●	●	1					
49	建築(競技設計)	福岡市庁舎競技設計				1				1
50	建築	西日本総合展示場	●	●	1	2				
51	建築	梶井沢別荘					2			
52	展覧会出品	ポーランド国際建築展(TERRA-1)								
53	モニュメント	大友宗麟の墓					1			
54	建築	貝島邸					2			
55	建築	福岡市役所	●	●		5	2			
56	展覧会出品	ドルトムント国際建築展								
57	建築(計画案)	情報文明館	●			1				
58	展覧会出品	恒展 アートネット・ギャラリー、ロンドン								
59	建築	久保邸	●			1				
60	展覧会出品	ヴェネチア・ビエンナーレ 1976				1				
61	建築	林邸				1				
62	展覧会出品	(Man transform)展								
63	展覧会出品	恒展 ポーランド・ウッジ美術館								
64	展覧会出品	恒展(引用と環境の建築)展								1
65	建築(計画案)	秋田市総合文化会館	●			1				
66	建築(計画案)	末岡クリニック					2			
67	展覧会出品	(Architecture 1: Numerals)展								
68	展覧会出品	(ASSENZA/PRESENZA)展								
69	展覧会出品	《今日の造形・建築・美術》展								
70	展覧会出品	第14回サンパウロ・ビエンナーレ	●							
71	展覧会出品	(現代と声)展								

第5章 実施内容

表 5-2 磯崎氏 現存する資料リスト 一部 (2)

作品番号	写真(その他の複製)	レポート	写真MF	その他MF	模型	模型写真ポジ・ネガ	模型写真プリント	写真ポジ・ネガ	写真プリント	その他ポジ・ネガ	シルクなど	その他
0-1	●									●		
0-2												
0-3			●	●				●	●			
1			●	●	▲		●					
2			●		●	●	●			●	●	●
3			●		▲	●	●	●				●
4	●					●				●		
5			●	●	●	●	●			●	●	●
6			●									
7			●							●	●	
8			●		▲	●	●					
9			●		●	●	●	●	●	●		●
10			●							●	●	
11			●	●								
12			●		●		●	●	●			●
13			●		●	●	●	●	●			
14												
15				●	▲	●	●			●		●
16	●											
17			●		●	●	●	●	●	●		●
18			●	●	●		●	●	●			
19												
20												
21		●	●		▲		●	●		●		●
22			●				●	●	●	●		
23			●						●			
24												
25			●		●		●	●	●	●	●	●
26			●	●	●	●	●			●		●
27												
28			●		●	●	●	●	●	●	●	
29			●					●	●			●
30	●		●		●	●	●			●	●	●
31												
32												●
33	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●
34			●					●				●
35			●		▲		●	●	●			●
36			●		●	●	●	●	●	●	●	●
37			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
38												
39												
40			●	●				●	●	●		●
41			●		●	●	●	●	●	●	●	●
42										●		●
43			●		●	●	●	●	●	●	●	●
44			●		▲	●	●					
45			●		▲			●	●	●	●	●
46												
47			●									
48	●		●		▲	●	●					●
49	●		●									●
50			●	●	●	●	●	●	●		●	●
51			●									●
52												
53			●					●	●			●
54			●		▲	●	●	●	●	●	●	●
55			●		●	●	●	●	●	●	●	●
56												
57			●				●					
58												
59			●		▲	●	●			●	●	●
60												
61			●		▲		●	●	●	●	●	●
62												
63												
64												
65			●									
66			●					●	●	●		●
67												
68												
69												
70												
71												

5.2.2 インターメディア関連資料のマクロ調査

以下、インターメディア関連資料のマクロ調査は、本事業の連携協力機関である株式会社寿限無によって実施し、本項目はその調査報告である。

5.2.2.1 国内企業パビリオン

- 株式会社丹下設計事務所

- ① 2017年10月2日：丹下設計事務所 HP の「問い合わせフォーム」より問合せ。その後、訪問（面談）調査を行った

調査内容は次の通り。

- イ）資料の有無
- ロ）資料点数
- ハ）保管状況
- 二）目録の有無（有の場合、閲覧を希望）

以上調査項目に関して、訪問調査を行った。

- ② 2017年11月7日：丹下設計事務所訪問（面談）

[御担当者談]

20年ほど前、江東区の倉庫に筒状のまま、いろいろなプロジェクトの図面があったのは事実。しかしながら、3～5年ほど前、ハーバード大学から「それら資料の調査に入りたい」旨の要請があり、その要請を受けたところ、ハーバード大学の担当者が来日し、約半年間かけて、調査・目録作成を行った。その後、ハーバード大学の費用負担で、それら資料は美術補修されかつデジタル化された。これら経緯から、現時点では、ほとんどの資料はハーバード大学に寄託中。目録は入手可能かもしれない。

社内に残っている可能性がある資料として具体的な建築物検討のために作った模型写真や、議事録などがあるかもしれない。丹下家には、丹下先生のスケッチやメモなども残っている可能性はある。どちらも、何がどれくらいどんな状態で残っているのかは、調べてみないと分からない。

- 株式会社大林組

- ① 2017年10月17日：株式会社大林組の代表電話に電話。本調査の趣旨を説明した結果、御担当者の所属先が「広報部広報第一課」と判明。調査内容などの詳細を御連絡いただいた上で、御協力可能かどうかの判断をしたいとの連絡を受ける。
- ② 2017年11月7日：株式会社大林組訪問（面談）

第5章 実施内容

[御担当者談]

図面などは社内用に既にデジタルアーカイブ化済み。パビリオンの青焼き図面、記録映像や写真、プログラムなどを含む。また PR 用に作成した映像なども存在。

しかしながら、これらはあくまでも社内用。文化庁の本事業「メディア芸術連携促進事業」について、その取り組みの背景や意義、趣旨等が明確な資料の提示を受けた上で、会社として協力が可能かどうかについて検討させてほしい。

● フジパン株式会社

- ① 2017 年 10 月 17 日：株式会社フジパンの代表電話に電話。本調査の趣旨を説明した結果、本件について回答可能な御担当者から折り返しの電話を受ける。
- ② 2017 年 10 月 17 日：電話回答

[御担当者談]

フジパンの大阪万博パビリオン「ロボット館」の資料としてすぐに出せるものは当時のパンフレットをデータ化したものくらいで、社内に資料はほとんど残っていない。創業家が資料を保管している可能性もあるが、現時点でそれらを確認する術を持ち得ていない

● 愛知県児童総合センター

2017 年 11 月 22 日：愛知県児童総合センター訪問

[館長談]

昭和 41 年（1971 年）10 月 1 日 大阪万博にフジパン株式会社が出展した「ロボット館」の寄贈を受け、当児童総合センターの「ロボット館」はオープンした。昭和 59 年（1989 年）12 月 15 日には、追加で「スタンプロボット」の寄贈を受けた。当時動いていたロボットはガイドロボット、ジャンプロボット、空気の木、鳥かごの木、風車の木、飛行船ロボット（★）、カメラマンロボット、回転ロボット、モデルロボット、巨人ロボット（★）、楽団ロボット（★）、ジャンケンロボット、スタンプロボの 19 体。★印がついているものは現在も当児童総合センターに存在し稼働している。

現在も時間を決めてロボットを動かし、子供たちに好評を得ているが、定期的なメンテナンスが必須であるにもかかわらず、機材自体が古いため、部品が集まらないなど苦勞が多い。

現在当児童総合センターにないロボットたちが、その後どうなったのかを知ることができる資料は手元にはない。一部、手塚治虫記念館に移動されたという話も聞いたことがある。⁷

⁷ 手塚治虫記念館へのヒアリング結果（御担当者からの回答抜粋）

- ・調査方法：代表に電話後、メール問合せ（共に、2017/12/1）
- ・回答：御担当者からメール回答（2017/12/3）

第5章 実施内容

● 武蔵野美術大学が保有する芦原義信建築資料

大阪万博では、多くの著名な建築家がパビリオンの設計に関わっているが、今年度は武蔵野美術大学が保有する芦原義信建築資料の中から大阪万博に関する資料の調査を行った。芦原義信建築設計事務所が大阪万博に関わったパビリオンは海外政府のパビリオンであるイタリア館、オーストラリア館、ニュージーランド館である。調査に当たっては、大阪万博記念公園事務所に保有する資料との違いを検討することで、複数の所蔵機関が持つ資料の一元的データベースの必要性を考察する。

1) 調査対象

武蔵野美術大学が所有する芦原義信建築資料（造形研究センターデザインアーカイブ収蔵庫資料）

2) 調査対象とした理由

武蔵野美術大学が所有する芦原義信建築資料は、1960年代後半において、大阪万博の海外パビリオンを設計施工するに当たり、海外とどのようなやり取りが行われたかを検証できる資料が残されている可能性が高いため対象とした。

また、武蔵野美術大学芦原義信建築資料は、芦原建築設計事務所が所蔵していたほぼ全資料を保有しており、建築図面は原図 42,000 点をデジタル画像化し、物件データ入力 840 件、図面情報入力 41,000 点、写真資料デジタル化 22,800 点、マイクロフィルム資料デジタル化 11,500 点、構造計算書デジタル画像化 68,000 点を完了しており、データベース利用した資料調査が容易であることが想像され、そのデータベースの有りようは、メディア芸術のデータベースのあるべき姿を検討する上でも有用だと想像されることから今年度の調査対象とした。

3) 調査内容

- 武蔵野美術大学芦原義信建築資料内の、大阪万博関連資料の有無とその内容の調査
- 芦原義信建築資料の調査結果内容：[別紙] 資料 M 参照
- 万博記念公園事務所所蔵資料分野別目録の簡易データベース化

4) 調査方法

- A. メール・電話によるヒアリング
- B. 実地調査

5) 調査過程

- ① 2017 年 11 月 5 日：電話にて本調査の趣旨を説明。具体的調査方法が確定したら改めて御依頼をする旨を伝える。
- ② 2018 年 2 月 1 日：電話にて正式に調査協力依頼を行うに当たって必要な手続を美術館・図書館 美術チーム担当者に問合せ。
- ③ 2018 年 2 月 1 日：武蔵野美術大学より資料調査申請書類がメールにて送られてくる。

第5章 実施内容

- ④ 2018年2月1日：資料調査申請書を記載し送付。
- ⑤ 2018年2月7日：武蔵野美術大学より調査結果の目録リストを受領
- ⑥ 2017年10月～2018年2月5日：大阪万博記念公園事務所所蔵分野別リストの簡易データベース化作業。

6) 資料保管に関する詳細

- 保管場所：武蔵野美術大学 12号館地下2階「造形研究センターデザインアーカイブ収蔵庫」
- 担当者：北澤氏、本岡氏
- 面積：約250 m²
- 空調：恒温恒湿／24時間稼働
- 図面保管：
 - 棚＝可動式集密棚（A1サイズ）、収蔵棚（A1サイズ以上）
 - 箱＝CXD社製中性紙箱
 - 収納方法＝フラット化させ二つ折り大型マットあるいは中性紙板に挟み保管

〔別紙〕資料Ⅰ参照

＝＝＝

<武蔵野美術大学 芦原義信建築資料と万博記念公園事務所管理資料の違い>

調査方法：

大阪万博記念公園事務所が保有する15の資料分類（エクセルシート）目録リスト約45000件（レコード）をデータベース化し、武蔵野美術大学の大阪万博関連資料とのデータ上での比較を行った。

参照：武蔵野美術大学芦原義信建築資料より抽出した大阪万博関連目録添付〔別紙〕資料Ⅲ参照

※ 参照：大阪万博記念公園事務所所蔵資料目録簡易データベース参照

- 原図：
大阪万博記念公園事務所 保有数：0件
武蔵野美術大学 保有数：531枚
- 製本図面・構造設計書：
- 大阪万博記念公園事務所：イタリア館承認申請書、工事完了届/ニュージーランド館工事完了届、工事完了届（増築）/オーストラリア館工事完了届、構造設計書
武蔵野美術大学：上記3パビリオンの製本図面190枚、構造設計書605頁（風洞実験、見積り概要等を含む）

第5章 実施内容

- 写真：
大阪万博記念公園事務所：枚数等詳細は不明
武蔵野美術大学：83枚（上記3パビリオンの竣工（しゅんこう）・模型写真）
- 書簡：
大阪万博記念公園事務所：0件
武蔵野美術大学：オーストラリア・ニュージーランド政府関係者、建築家等9通

<調査考察>

武蔵野美術大学が所蔵する芦原義信建築資料は芦原建築設計事務所の保有していたほぼ全資料であり、万博記念公園事務所が保有する資料とは性質・目的も目録の採録方法も大きく異なるため、軽々に比較を行うことは難しいが、将来メディア芸術としてパビリオンや催事の状況を調査しようとした場合、多方面にわたる資料の調査が必要となると考えられる。今年度の調査では2つの所蔵機関の目録の比較を行ったが、以後の調査では複数の目録（メタ情報の管理と構造）に重点を置いた収集比較検討することで、メディア芸術データベースのメタ情報の構造と管理に関する一助となると考えられる。

5.2.2.2 万博内で開催されたイベント

大阪万博では、「大阪万博ホール」「お祭り広場」「各パビリオン」において、日々数多くのイベントが開催されていたが、特にメインイベントが開催されていた「大阪万博ホール」及び「お祭り広場」のイベントのうち、今年度は下記調査を行った。

1) 調査対象

株式会社渡辺プロダクションが手掛けたイベント

2) 調査対象とした理由

当該企業は、オープニング・スペシャル・ショーのサミー・ディビス Jr を始め、アンディ・ウィリアムス、ジルベール・ベコー、フィフス・ディメンション、マレーネ・ディートリッヒら超一流のアーティストを招聘（しょうへい）している。当時、これら海外有名アーティストを招聘しての本格的なイベントは、大阪万博が最初と考えられるため、これらに関する資料管理状況や内容については重要であると考えられるため、今年度の調査対象とした。

3) 調査内容

- 大阪万博関連資料の保有有無
- 有の場合、その内容、量、保存状況、目録の有無などの調査

第5章 実施内容

- 無の場合、その理由他の確認

4) 調査方法

A. 電話又は面談によるヒアリング

B. 万博記念公園事務所の資料室に出向き、当該資料の実物を確認、写真を撮る。

(A.の結果を受けての調査)

5) 調査結果

A.による結果（電話によるヒアリング結果）

- ① 2017年10月17日：株式会社渡辺プロダクションの代表電話に電話。本調査の趣旨を説明した結果、本件について回答可能な御担当者から折り返しの電話を受ける。
- ② 2017年10月17日：電話回答

[御担当者談]

大阪万博に関連する資料は、ほとんど「万博記念公園事務所」に提出。（万博は国のプロジェクトだったので、一企業として資料を保管することはしなかった）

なお、当時の様子を知らなければ、「一般社団法人 渡辺音楽文化フォーラム」HP中の「出版・公開事業『抱えきれない夢 渡辺プロ40年史』」に記載されているので参照してほしいとのこと。

B.による結果

（万博記念公園事務所に保管されている資料中、当該資料についての調査結果【別紙】資料J参照）

1) 調査内容

大阪万博に関連する資料は、ほとんど「万博記念公園事務所」に寄贈していた。万博は国のプロジェクトだったので、一企業として資料を保管することはしなかったという調査Aの結果を受けて、次の資料詳細の有無と内容を調査した。

2) 調査方法

- ① 万博記念公園事務所の目録から、当該資料の有無と、有の場合、保管されている棚版を特定
- ② 当該資料の確認及び写真撮影

3) 調査結果

- ①を行った資料名とその保管の有無、棚版、写真などについて【別紙】資料J,L参照

第5章 実施内容

5.2.2.3 個人保有資料

大阪万博では、多くの著名人がイベントプロデュースに関わっているが、今年度は万博開催決定以前から活動し、開催においては大阪万博のコンセプトメイキングに深くかかわった故小松左京氏が保有していた大阪万博に関する資料の調査を行った。

1) 調査対象

小松左京ライブラリ保有 大阪万博関連資料（大阪芸術大学附属図書館）

2) 調査対象とした理由

小松左京氏は大阪万博でサブ・テーマ委員、テーマ館サブ・プロデューサー（チーフ・プロデューサーは岡本太郎）を務めた。大阪万博開催が決定する以前の1964年7月には「万博を考える会」が設立され、この会は岡本太郎氏のテーマ館展示プロデューサー就任のきっかけともなった。小松左京氏は多くの関係者の中でも大阪万博の基本理念策定に大きく関与した意味で重要であると考えられるため、今年度の調査対象とした。

3) 調査内容

小松左京氏の大阪万博関連資料有無と内容を調査した。

4) 調査方法

A. メール・電話・面談によるヒアリング

B. 大阪芸術大学附属図書館に出向き、当該資料の実物を確認、写真を撮る。(A.の結果を受けての調査)

5) 調査結果

A.による結果（電話によるヒアリング結果）

- ① 2017年11月7日：元小松左京氏秘書乙部順子氏訪問。本調査の趣旨を説明した結果、小松家には大阪万博関連資料が存在すること、及び小松氏著書「巨大プロジェクト動く」（1994年、廣済堂出版）に大阪万博に関する記載があること等を教授いただく。
- ② 2017年12月8日：東京藝術大学にて開催された文化庁メディア芸術連携促進事業中間発表会に参加された乙部順子氏、岡上敏彦氏に小松左京氏が大阪万博で果たされた仕事内容をヒアリング。
- ③ 2018年01月19日：小松左京氏御遺族が管理されているWebサイト小松左京ライブラリの問合せフォームに本調査の趣旨とヒアリングのお願いを行う。
- ④ 2018年2月1日：小松左京ライブラリよりメール連絡があり、プロジェクトの概要及び具体的な要望の問合せ有。再度詳細な説明をメールにて連絡。
- ⑤ 2018年2月3日：電話を頂き、小松左京氏の資料は現在大阪芸術大学に寄託されており、資料目録がまだ完備されていない状況であることを知る。現状小松左京ライブラリが把握している範囲で

第5章 実施内容

の大阪万博に関する目録を送付いただくこととなる。

- ⑥ 2018年2月6日：小松左京ライブラリより大阪芸術大学に寄託中の資料の中から、大阪万博関連資料の内容を抜粋した目録をお送りいただく。

B.による結果

（大阪芸術大学附属図書館の保管資料より、ヒアリングと既存目録をもとに当該資料状況と、その資料の撮影を行なう（全120枚）。〔別紙〕資料 K, N 参照）

6）資料保管に関する詳細

- 保管場所：大阪芸術大学附属図書館
- 担当者：家下事務長、大阪美術専門学校 多賀谷事務局長
- 保管状況：閉架書庫に中性紙箱・段ボール中にクリアファイル・バインダーに寄託目録単位で保管

<調査考察>

小松左京氏の資料の一部が大阪芸術大学に寄託されていることが明らかとなった。完全な資料目録は未だ整備途中であり、全容が把握されているわけではない。

〔別紙〕資料 K, N 参照

第5章 実施内容

5.2.2.4 有識者会議（岡上敏彦氏、乙部順子氏）

大阪万博に関する資料を調査するに当たり、2017年12月に有識者会議を開催した。日本万国博覧会記念協会から、大阪府万博公園事務所まで万博資料の公的な保存などの現場で長年にわたり勤務された岡上敏彦氏、大阪万博・テーマ館のサブ・プロデューサーを務めた小松左京氏（作家、1931-2011）の秘書であった乙部順子氏をお招きし、事業受託者である東京藝術大学の桂英史氏も登壇者に加えて、これまでの調査結果を手掛かりに、資料の有無や所在など今後の調査を進展させる知見や情報を両氏から得ることを目的に実施した。

- 日程：12月13日（水）17時～19時
- 開催場所：東京藝大美術学部中央棟1階 第二会議室
- 登壇者：岡上敏彦、乙部順子、桂英史（東京藝術大学）
- 出席者：参加者：土屋紳一（早稲田大学演劇博物館）、大杉浩司（川崎市岡本太郎美術館）、伊野哲也（文化庁）、伊藤由美（文化庁）、細谷誠（文化庁）、吉田敦則（文化庁）、前沢克俊（大日本印刷株式会社）、岩川浩之（大日本印刷株式会社）、鈴木守（大日本印刷株式会社）、岡本明（株式会社寿限無）、黒田久美子（株式会社寿限無）、和田信太郎（東京藝術大学）、村田萌菜（東京藝術大学）

岡上敏彦：

1975年 日本万国博覧会記念協会（特殊法人）に就職
2003年 独立行政法人日本万国博覧会記念機構に移行
2012年 上記機構定年退職、調査役として勤務は継続
2014年 大阪府万博公園事務所に非常勤職員として勤務
2017年 大阪府万博公園事務所を退職

乙部順子：

1977年 学習院大学東洋文化研究所客員研究員・小松左京の大正文化研究会アシスタント
1981年 エレクトロオフィス（小松左京東京事務所）の常勤スタッフ（秘書）
1992年 株式会社イオの代表取締役 就任（小松左京より引き継ぐ）

以下、有識者会議の議事録をもとに抄録を記載する。

▼万博記念公園事務所保管の映像資料

岡上：万博記念公園事務所に残っている映像資料は何種類かありまして。ひとつは、万博協会が日本ニュース映画製作者連盟に委託して作った公式記録映画、谷口千吉監督（映画監督、1912-2007）の2時間53分のもの。それと、それ以外に資料映像が分野ごとに10時間分残っています。

第5章 実施内容

桂：分野というのはどのような？

岡上：例えば催しとか、式典などそういったものですね。日本万博協会の公式記録映画というのは、それを指します。それ以外にはですね、万博協会を始めるに当たってモントリオール、あるいはブリュッセル博、ニューヨーク世界博の映像を購入しているんですね。先代の博覧会の。その映像が残っています。

また、これはパビリオンによるのですが、住友とか日立などは会社で博覧会の記録映像を作っているんですね。その一部が万博協会の方へ寄贈されて残っています。それと、博覧会会場で上映された映画の一部も。例えば「みどり館」の全天周映画（「アストロラマ」）。これは慶應大学の方で土方巽（舞踏家、1928-1986）の線から入って、今年もやってもらえると思うんです⁸。

例えば、これはあまり魅力がなくて誰も取り上げてくれないのですが、地方自治体館が上映に12時間かかる映画、多分各府県の紹介ですね。そういうものを作っていて、フィルムが残っています。だけど、僕も見ただけで。今、映写機を手に入れることができないから。

桂：それは35mmですか？

岡上：35mmです。

岡本：中には90mmというのもあります。

桂：90mmは大画面でプロジェクションするのに使われていますね。多分、鉄鋼館もそうでは。

岡上：映画の数はそんなに多くないですが、そのように残っています。

乙部：例えばあの、今、EXPO'70 パビリオン（元・鉄鋼館）のシアターがあるじゃないですか。シアターで上映したときの記録映像は残っていないんですか？

岡上：これね、残ってないですね。当時レーザー光線を映像で捉えることは大変なことだったんですよ。だから結局、レーザー光線の綺麗（きれい）な動画って残っていないんですよ。

桂：まあ、ビデオの前ですからね。フィルムの時代ですから、相当大掛かりな撮影をしないと難しいですよ。

⁸ 慶應義塾大学アート・センター企画「Project Rebirth 幻の万博映画「誕生」ーアストロラマで踊る土方巽へ」<http://www.art-c.keio.ac.jp/old-website/archive/hijikata/event/rebirth.html>

第5章 実施内容

岡上：それから、フジパンロボット館はフジパン株式会社が作成した記録映画が残っています。

桂：残っている映像の目録等はあるんですか？

岡上：あります。

岡本：中身に関しては目録が残っているのですが、それを全部見渡して研究されている方はまだいらっしゃらないかなあというのを個人的には思っています。

▼万博に関する映像資料

桂：作家の方で、例えば松本俊夫さん（映画監督・映像作家、1932-2017）が2017年に亡くなられた際は、松本さんが持っていた当時のものとかを全部御本人がレプリカを作られて、とか。あとは真鍋博さん（イラストレーター、1932-2000）もパビリオンの壁面にアニメーションを流したり。御本人が持っていたものは確実に丁寧に保存されていて、第三者に渡った映像はまずい状態にあるんですね。ひょっとするとこれは、御本人が持っているかどうかということから調べないと、どっかの団体が責任を持って映像を保存しているということはまずないと思うので。これは作った御本人がその後どうされたかを当てるのが、一番確実なような気がするんですけど。そうですね。

岡上：日本ニュース映画製作者連盟という、当時の民間の記録映画会社ですが、これは今もうほとんど解散しているんですね。

桂：ニュース映像の会社もうなくなっていましたね。桜映画社もないし。岩波映画製作所もう潰れてしまいましたね。岩波映画製作所に関しては、万博のものはないのですが、これ前後に記録映像は企業のもので万博関係のものはネガの形ですけどフィルムセンターには全て入っている。それは東京藝術大学と東京大学が日立製作所から譲り受けて寄贈した形になっていますから。それに関しては確実にありますね。ポジはないですけど。まあだからその辺で作られた方、その周りの方に当たるしか、映像に関しては方法が思いつかないですね。映像に関しては相当貴重なものがあると思うので、これを全部見たら、ひょっとしたらこれだけで博士論文書けるんじゃないかというくらいのものだと思います。

例えば、鉄鋼館なら鉄鋼館、せんい館ならせんい館の、それ単位での調査はいろいろかけているんですけど。山口勝弘さん（前衛芸術家、1928-）の三井グループ館の映像ですとか。彼はメディアアートの父みたいな位置づけですから、山口さんが万博で行ったことは当時の3人のプロデューサーの方たちとも非常に近かったのですが、肝心なものが見つからない。山口さんはまだ御存命ですけど、万博関係はなかなか辿れないというのが現状です。だからと言って三井グループ館から辿って何かが見つかるというのも考えにくいので、映像コンテンツそのもの、一次資料に当たるにはどうすればいいのかということは、今は少し難しいんです。何か方法はあるでしょうか。

第5章 実施内容

岡上：九州大学の芸術工学の脇山真治先生（九州大学芸術工学研究院、1953-）という方がいて、元々は博報堂に勤めていて花博（国際花と緑の博覧会、1990年）に関わられていたそうです。それで、さんざん有名な監督を起用して展示映像を作ったのに、（スクリーンが）変形してしまい、普通の映画館では上映できないようなものゆえに全て廃棄されてしまっている。これがもったいないという視点から、大阪万博に限らず博覧会の映像を収集されております。関西電力に行ったりして、結構ものを集めています。

岡本：大阪万博当時のものについても、集めていらっしゃる可能性が高いのでしょうか。

岡上：当然、集めています。電力館の上映映画とか。

桂：電力会社や、エネルギー関連の企業は自分たちのところで博物館を持っているから、ひょっとしたら持っている可能性があるかもしれませんね。TEPCOとか。僕も万博関係のものをTEPCOで見た記憶があるので。その辺の公共事業体に近い大きなところは、自分たちのところで持っているかもしれない。

岡上：ただね、大体（スクリーンが）変形なんですよ。まずスクリーンがなくなるんですね。それで、フィルムを持っていても仕方ないとなって、それで慶応が苦勞して、コンピューター上に映すようにしたんですね。

桂：大体あの全天周も、当時はかなり擬似的に編集して全天周にしているから。しかもフィルムでやっているから。それはもう、そのスクリーンがなくなったら映像は意味のないものになってしまうということですよ。確かに、なかなかそれは厳しいですね。まあただ、どこにあるかということさえわかれば手掛かりにはなるので。でも手掛かりすらないものが多いので。

松本さんや真鍋さんのように、自分で所有している方は他の展示で再演されたりしている。万博向けに作ったものを、展示向けに作り変えてアニメーションを流したりしていますから。松本さんなんて、ついこの間も写真美術館で展示していたりしたので。有名な作品ですから、そういう人がやっているのはいいんですけど、そうではないものはなかなか難しいですね。それこそ製作委員会的に、JVで作られているものはなかなか辿れない。日本の悪い癖ですよ。映像を製作委員会で作るというのは。あれは（映像が）なくなる原因なんです。

乙部：さきほど映像と展示とおっしゃってましたよね。展示の方では、私が知っている、例えば小松が関わった万国博覧会の展示のスタッフの人たちが万博の後にトータルメディアという会社を作って、いわば展示の専門会社です。万博の成果としてそういうものが仕事になったんですね。それまでは東宝の美術か何かをやっていた人たちが展示を手伝っていて、乃村工藝社もいましたけども。だから、そういう人たちが太陽の塔の展示とかを行って、終わった後にトータルメディア開発研究所を設立して現在も残っているというのがあるんですよ。設立者の小野一さん（トータルメディア開発研究所初代社長）

第5章 実施内容

は既に亡くなってしまいましたが会社は存続しているから、何らかの資料が残っているかもしれません。

▼大阪万博における企業の取り組み

岡本：大阪万博とは何だったのかというお話の中で、パビリオンを作る事で企業が集まってくる、つまり戦後日本において系列を作るためのプロジェクトとして、パビリオンができていったのではないかというお話をされていて、別の意味で面白いなと。

岡上：今はまた財閥がバラバラになって分かりにくくなっていますけれど、戦後、三菱グループが解体される訳ですね。それで、三菱商事が再度結集して三菱グループの経営計画を立てたのが1967年です。それまでは三菱商事がなかった。それで、同様に三井、住友、それから三和銀行、富士銀行、この辺りが戦前にはなかった財閥で、銀行が力をつけてきた。1970年の万博というのは、こういった会社が社内外にその力を誇示するような。コンピューター会社がどのグループに入るか、ちょっと流動的なんですね。その中で三和グループのパビリオンの長を務めたのは、日立造船という独立系の会社が三和グループに入るということで名を連ねたのです。だからまあ言うたら、当時のサラリーマン、大企業は全部参加してるわけですからね。入場者数が多かったのにはそういう意味もあったと思います。当時の大企業の社員の子供たちからしたら、お父さんたちが出ている。

万博協会から（企業に）参加してくださいと募集をかけているんですけど、例えば鉄鋼連盟の資料を見たら、他のグループの投資額が書いてあるんです。そこよりうちは多く出す、という。そういうふうな意識ですね。だから逆に、住友グループで商売抜きの「童話館」というのを作ったり、松下グループではタイムカプセルとお茶の世界、と松下グループの製品に関連は全然ないんですね。企業の力の示し方を、皆が工夫していました。

桂：なるほど。ある意味やりたい放題ですからね。今からするとウソみたいな、できるのかといったようなことを。

岡上：それで各館に食堂があるのですが、それを見ると、2,000円くらいの値段がついているんですね。

それがね予約が取れなかったんですよ。ということは、会社の接待費の中で万博会場にこの社長を招いて、とそういうことが盛んに行われていたんだろうなと。

桂：つまり、バブルのはしりだったかもしれないですね。

明治の頃からそうですけど、博覧会というのはやっぱり、日本の文明みたいなものがシフトチェンジするきっかけですよ。例えば食もそれによって急に洋式化していくとか。多分ここがファーストフードのはしりですよ、万博って。ファーストフードか、ファミレスのはしり。そこまで辿ると面白いんでしょうけど。まあそういう意味では万博はいろいろネタがあるんですけど、もうちょっと僕はアートとかそういうものを見直す意味でも、つまり企業がこれだけおおらかだった頃のことを、もうちょっと今の企業も思い出してほしい気がするんですよ。今は全然おおらかではないですからね、芸術文化に

第5章 実施内容

対して。もう少しこの時期のおおらかな扱いというもの、こんなこともやっていたんですよ、ということね。今の企業の人、知らないじゃないですか。

▼小松左京と万博

岡本：小松左京先生の著書の中で、『巨大プロジェクト動くー私の「万博・花博顛末記」』（1994、廣済堂出版）がありますよね、乙部さん。あの中で小松先生たちがどのように万博に関わっていくことになったのかということをお話いただけると、御存じない方も多いので面白いと思うのですが。

乙部：そうですね。あそこに納めたものは、万博が終わった後にホッとして書いたという。文藝春秋に自分が関わった経緯をまとめて書いているんですけども。

実は小松は1964年の4月に、東京が東京オリンピックで湧き立っている中、「今度は大阪で万博か」というような小さな記事を見つけました。東京が東京オリンピックに向かって、新幹線が開通する、高速道路が通る、と街の様相がバーッと変わっていく様子を見ている中で、「今度は大阪で万博か」という小さな記事を見つけて、もしかすると大阪でそういうことが行われると、何か大きく大阪も変わるのかもしれないということでアンテナがピピピッと反応したらしいんですよ。それで大阪の周りにはいる、広報誌で付き合っている編集者にポロリと「今度大阪で万国博が開かれるらしいが、そもそも万国博とは何か？勉強したい、知りたい」と言ったらしいんですね。それでその編集者が、当時の週刊朝日で執筆していた梅棹忠夫さんですとか、京大の人文系の人たちなどを集め、関西らしくお茶屋か何かで集めてですね。「何か小松さんが言いたいらしいよ」って言って、万国博を考える会、万国博を研究したいと。加藤秀俊さん（社会学者、1930-）も、そうですね。そういう人たちの集まりが動き出した。

小松にしてみればこんな大げさになるとは思わなかったけれど、文藝春秋には「はめられた」って書いていましたけれど、まあそれで動き出したのが「万国博を考える会」という。まあいわば勝手連。それが1964年。

それが現在残っている議事録というのがありまして、小松の自宅で死後に見つかったんですけど。万国博を考える会の議事録というのがブワースとこんなに残ってしまっていて、これは青焼きなんですけど。それを見ると、1964年の6月28日というのが一番古い手書きの議事録です。それで7月とか10月にも集まって、「万国博を考える会 趣意書」というのがここにあるんですけど、これは1964年の10月の日付ですね。そこには小松のほかに、梅棹忠夫さん（人類学者、1920-2010）、大谷幸夫さん（建築家、1924-2013）、手塚治虫さん（漫画家、1928-1989）、真鍋博さん、山手国弘さん（現代ヨガ研究家、1924-1996）、大原総一郎さん（実業家、1909-1968）、加藤秀俊さん、星新一さん（小説家、1926-1997）等々。事務方としては田中貞夫さんらがいて、連絡事務所があり、都市文化研究所とかいうのを作っていたみたいです。

岡上：福島区？

乙部：そうそう、大阪の福島区。

岡上：朝日放送の近く？

乙部：あ、そうそう。朝日放送の人がいわば世話役だったんだと思うんですけど。だからそういうのがあって、この趣意書の中には何て書いてあるかという、「1970年に近畿地区で」これはまだ大阪とは決まっておらず、近畿地区となっていますね。「1970年に近畿地区で第22回万国博覧会が開かれる公算が高くなってきました。私たちは自由な立場からこの博覧会の持つ無限の可能性を探求するために、ここに万国博を考える会を結成しました。この会は自由な民間人による独立団体です。私たちは万国博についての民衆の智恵を集めることを最大の目標とします。その智恵の集積によって私たちは時に建設者となり時に批判者となります。そのことによって万国博の成功に貢献したいと思います。」という趣意書があるんですけどね。このときは直接的に関係しようとかそういうことではなくて、いわば非常に自由な立場での民間人の存在であるということを謳（うた）って、それが重要だと思っていたようですね。それが結果的には巻き込まれていくことになるんですけども。まあ最初はこんな感じでした。1964年、まさにその10月に、オリンピックがオープンするときに立ち上げるという。こういったメンバーで、趣意書で名乗りを上げて。その中に段々と岡本太郎さんなんかも加わっていった。

桂：確か1964年の1月が、磯崎さんの手がけた岡本太郎展だったと思いますね。

▼東南アジアにおける大阪万博

乙部：あとこれ、直接今回のプロジェクトに関係あるかわからないんですけど。去年ですね、インドネシアパビリオンの研究者というのがインドネシアから来まして。大阪万博の。で、何でって聞いたら、バンドン工科大学の人で、インドネシアパビリオンでは現代アートを展示したって言うんですよ。つまりあの、いわゆる民俗芸能だけでなくですね、その来た人の恩師が当時大阪万博のときにインドネシアの現代アートを紹介するコーナーというのを担当したと。

岡上：僕の最後の5年間の在任中、インドネシアから3回研究者が来ている。それでフィリピン、カンボジア、シンガポールといったところから。我々からしたら知らないから、カンボジアふうの単なる建物で現代建築でも何でもないなと思うけど、向こうでやっぱりね西洋から輸入して、それで丹下健三さんのような立場の人が博覧会に出す建物というのはやはり一流なんですよ。だからフィリピンにしても、やっぱり今の人でも大阪万博のパビリオンが誇るに足るものというので。それでそこに単に民族的なものでなく、彼らなりの現代芸術を展示しているんです。だから今非常にそれは熱心に来ますよ。

乙部：見直しが来てる。つまり彼らが大阪万博で建てたパビリオン、そしてそこで展示したものというのは当時からすれば非常に最先端。まさに日本にとってのメディアアートの草分けと同じようにですね、

第5章 実施内容

アジアの国々の人にとっても、まずは最先端のアートをそこにつぎ込んだらいいですよ。人材と展示物に。ですから万博後のそれぞれの国にとってですね、それぞれのアートにね、非常に大きな影響を与え続けていると言うんですよ。それで今になって元を辿りたいと。それで大阪万博について、万博協会に当時の資料ないかって言ってリサーチに来てる。

岡上：特に「カンボジア館」は、神戸市の広陵町というところに万博後に移築されたんですよ。それでそれが今も残っているんですよ。それで耐震補強がしたいと言ってうちに図面を調べに来たことがあります。カンボジアってクメール・ルージュでほとんどもうそういうものがなくなってしまって、それでうちの図面をカンボジアに持って行って展示すると。こういうことを現在やられていて、また広陵町はカンボジアと何か関係をつけているようです。それはちょっと、どうも新興国のパビリオンというのは私の印象としても工業化の展示だったり、大したことないわという感じだったんですけど。どうも彼らにとっては送り込んでいる芸術家も第一級。で、「インドネシア館」は舞踏をやっていたんですけど、そのフィルムをね「すばらしい」と向こうの人がね、言うんですよ。言うたら歌舞伎役者みたいなもんでしょね。そう言うのを送り込んで来ているので。

▼「お祭り広場」での催し

岡上：特に大阪万博のお祭り広場で日本や世界の祭りというのをやっていますね。そこで5回ぐらいやっています。アジアの祭りという枠で、東南アジア各国を全部集めて一つの舞台に構成しているんですよ。

それからアフリカの祭りというのも、1ヶ国25人くらい呼んで。それで5～6日間くらいそういうことを連日やっていました。それは日本万国博がお祭りといって、今は「太陽の塔」がシンボルみたいになっているけど、当初の構想ではやっぱり「お祭り広場」が中心だという考えで。だからその辺りの映像というのはまた重視すると良いかもしれない。

アジアの祭り、アフリカの祭りっていうのは、民族音楽学者の小泉文夫さん（1927-1983）の弟子が関わってやっているんですよ。だから、まあよくやったなあと。

カンボジアの資料を見ていると、シアヌーク殿下（元カンボジア君主、1922-2012）が途中で政権交代されるんですけど、最初、万博協会が決めたのが各国25人までの旅費だと。ところがシアヌーク殿下が30数人いなければ国立歌劇団の体をなさないと行って無理難題をふっかけられたんです。それで、どうやって解決したかという、これは梶本音楽事務所が、大阪万博以外にカンボジア舞踏団の東京公演などを催し、各地を回ることによって30数名の来日を実現したんですね。梶本音楽事務所はクラシックを仕切っていたので、赤字出してやったのかはわかりませんが、なかなか面白い話やなあと思います。

岡本：当時の資料を読むと、確か大阪万博を開催するに当たり、アジア、アフリカを含め、当時第三世界と呼ばれた国から参加を必ずとるということを前提にして始まった企画ですよ。そういう意味ではヨーロッパやアメリカで行われた万博が初めてアジアで行われて、という意味では参加国が全然違って

第5章 実施内容

いたという特異点があったとよく言われますよね。でも、日本人は今そういうことを知らないんですけれども。東南アジアでそういうことが起きていることも知らない。

和田：その理念のもとに世界各国の世界用品や仮面や神具を集めて、「テーマ館」地下展示を構成していますね。その成果が大阪万博後には国立民族博物館を成立することになる。

乙部：そうですね。それはさっきも言いました小松左京たちの「万国博を考える会」で、まだ勝手連の時にそういう具体的なことまで詰めちゃってしまして、それでもうアジアで初めての万国博覧会だから絶対アジアの人たちを全部呼ばなければいけないとか、それから会場の中でも、アジアのエリアは真ん中に集中しているんですよ。

桂：川添登（建築評論家、1926-2015）かな。

乙部：そうそう、川添登さん。だからそういう意味では、ある意味まだ固まっていない段階で勝手に構想したものを、現実のものに移行させて反映吸収させて。テーマ委員会のときに桑原武夫（フランス文学者、1904-1988）さんの下で動いていましたので、そういった主旨を結局表に出すことができた。

5.3 目録データ入力

5.3.1 収集した資料目録一覧

本調査で対象とした大阪万国博覧会参加企業・関係者・関係団体の中で、資料目録を収集ができたものは以下のとおりである。()内は資料のレコード数。

- 大阪府万博記念公園事務所（資料室目録 他全15目録）
 - 資料室（42616）
 - 協会執務図書（632）
 - 公式写真モノクロ（514）
 - 博覧会寄贈図書（447）
 - 寄贈図書（294）
 - 公式写真ポジカラー（264）
 - 映像資料室アルバム（220）
 - 映像（130）
 - 旧記念館パネル（113）
 - 日本館展示品（109）
 - 模型（92）
 - 外国寄贈品（84）
 - テーマ館展示品（62）
 - コスモ写真（34）
 - 民族資料収集団（18）
- 武蔵野美術大学（原図、製本図面、構造計算書 他全9目録）（74）
- 小松左京ライブラリ大阪芸術大学寄託資料目録（1目録）（28）

第5章 実施内容

表 5-4 マクロ調査によって収集した資料総数

所蔵先	目録名	件数(レコード数)
万博記念公園事務所	資料タイプ別目録	45,629
	資料室	42,616
	協会執務図書	632
	公式写真モノクロ	514
	博覧会寄贈図書	447
	寄贈図書	294
	公式写真ポジカラー	264
	映像資料室アルバム	220
	映像	130
	旧記念館パネル	113
	日本館展示品	109
	模型	92
	外国寄贈品	84
	民族資料収集団	18
	テーマ館展示品	62
	コスモ写真	34
大阪芸大資料	小松左京ライブラリ寄託資料	28
		28
芦原義信氏デジタル化	大阪万博関連資料	74
	原図	10
	製本図面	4
	構造計算書	16
	竣工写真	17
	マイクロフィルム	3
	パネル・ボード	3
	JOB 抜刷り	8
	その他	4
	書簡	9
総レコード数		45,731

5.3.2 所蔵機関の目録の統合

本調査で収集ができた目録の構造は、各機関の目録作成の目的・分類・作成時期等により目録の構造が異なり、また入力規則が異なるためデータベースのマッピング等の正規化作業を行うことが時間的制約から不可能なため、各目録の一括サーチが行えるデータベースをプロトタイプ的に作成した。

5.3.3 本データベースの基本仕様

- 各機関が所有するメタデータの統合化を行うのではなく、機関ごとのデータを一つのデータベースに投入する。
- 目録ごとでの検索、及び目録を複数選択しての検索を可能とする。
- 検索は各目録の各フィールドの全文検索とし、検索語は中間一致とする。
- 検索語はスペース区切りで複数のWordでの検索を可能とする。
- データ投入は CSV あるいは Microsoft 社の Excel 形式とする。

第5章 実施内容

5.3.4 プロトタイプデータベースの概要

図 5-3 データベース ログイン画面

Page 1 of 4574 1 2 3 11 >>
45731件中1-10件を表示

Per page ▼

発行所	発行年
JAPAN IN THE BEGGINING OF THETWENTIETH CENTURY 協会執務図書	
JOHN MURRAY, LONDON	19040000
大阪科学工業博覧会誌 協会執務図書	
大阪科学工業博覧会誌編纂所	19181203
朝鮮副業品共進会事務報告 協会執務図書	
	19241215
ワグネル伝 協会執務図書	
博覧会出版協会	19250128
条約集 協会執務図書	
外務省条約局	19310725

資料分類

- ☐ 資料室 (42616)
- ☐ 協会執務図書 (632)
- ☐ 公式写真モノクロ (514)
- ☐ 博覧会寄贈図書 (447)
- ☐ 寄贈図書 (294)
- ☐ 公式写真ボジカラー (264)
- ☐ 映像資料室アルバム (220)
- ☐ 映像 (130)
- ☐ 旧記念館/ネル (113)
- ☐ 日本館展示品 (109)
- ☐ 模型 (92)
- ☐ 外国寄贈品 (84)
- ☐ 武蔵野美術大学資料 (74)
- ☐ テーマ館展示品 (62)
- ☐ コスモ写真 (34)
- ☐ 大阪芸大資料 (28)
- ☐ 民族資料収集団 (18)

図 5-4 データベース 初期画面

第5章 実施内容

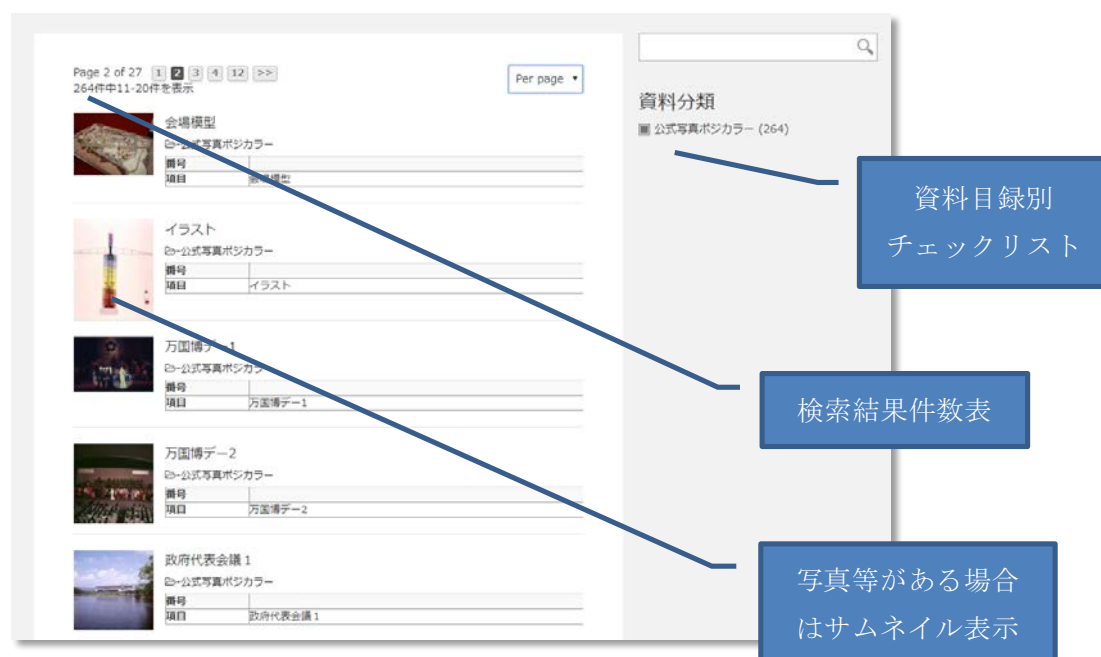


図 5-5 データベース 画面操作



図 5-6 データベース詳細画面

第5章 実施内容

The screenshot shows a search results interface for the term 'ロボット館'. The main results list includes items like '工事申請No.10 - No.62 フジパン・ロボット館' and '電気使用関係申請書類No.4 - 33 フジパン・ロボット館'. Annotations highlight specific features: '目録毎の検索結果件数表示' (Number of search results per catalog), '検索語のハイライト' (Search term highlighting), and '資料分類' (Document classification).

17件中1-17件を表示

100 ▼

ロボット館

資料分類

- ☐ 資料室 (15)
- ☐ 公式写真ボジカラー (1)
- ☐ 公式写真モノクロ (1)

目録毎の検索結果件数表示

検索語のハイライト

工事申請No.10 - No.62 フジパン・ロボット館

資料室

大分類 建設

中分類 供給施設

電気使用関係申請書類No.4 - 33 フジパン・ロボット館

資料室

大分類 建設

中分類 供給施設

フジパン・ロボット館

公式写真ボジカラー

番号

項目 フジパン・ロボット館

フジパン・ロボット館 - パンフレット

資料室

大分類 展示

中分類 国内パビリオン パンフレット・概要

フジパン・ロボット館 - プレスレビュー資料

資料室

大分類 展示

中分類 国内パビリオン パンフレット・概要

フジパン・ロボット館 - 日本万国博フジパン・ロボット館 説明書

資料室

図 5-7 検索結果例：「ロボット館」

5.4 目録データ（データベース）のサンプル作成

本項では、5.2.1 で調査したインターメディアに関する資料調査として、磯崎新氏が所蔵する資料からの目録をもとに目録データ（データベース）のサンプル作成として、目録項目を検討した。

5.4.1 磯崎氏所有資料用項目の検討

メディアアートのデータベースとして、メディア芸術データベースで検討されている項目から、なるべく対応し、将来反映できるようなメタデータを作成した。収蔵に関する箇所を主として拡張を行った。追加の概要は、「カテゴリー」、「収蔵」、「保存」、「複製」、「備考」、「著作権」である。今後、メディアアートのデータベースとの重複が生じたときは、併合する予定である。

「カテゴリー」は、「万博」、「インターメディア」、「建築」、「芸術」、「随筆」、「図面」、「スケッチ」、「その他」から始めた。今回のサンプル作成を終えた段階で、「カテゴリー」を再検討し、内容を更新したいと考えている。メディアアートの特徴を考慮し、大分類、中分類、小分類というようなツリー構造ではなく、タグのような複数を並列に登録できる記述方法が望ましいかもしれない。この部分も専門家を交えた議論が必要になると考えられる。

「収蔵」は、「収蔵場所」、「収蔵棚列」、「資料現況」に分類されている。「収蔵場所」は、現在二箇所に分かれている収蔵庫の場所と、どの部屋に収蔵されているものかを記載している。

「収蔵棚列」は、部屋の中の棚の位置を明記している。サンプル作成用資料は同じ場所であるが、今後資料が移動した際などに、共有できるようにしたいと考えた。

「資料現況」に関しては、一般的な収蔵管理の項目として追加した。「収蔵庫」、「貸出」、「閲覧」、「修復」、「破棄」という種類を入力可能としているが、現状は「収蔵庫」のみであり、今後調査中に貸し出しなどがあつた際に、変更をするために用意した。

追加項目としては、「保存」が最も重要といえる。「保存状態」と設定した項目は、「良」、「部分不良」、「不良」、「要補修」、「補修済み」、「再生不能」の6種類からなっている。保存状態の判断は、厳密な基準を設けなかったため、人によって異なるが、今回の調査範囲では、「良」はなかった。貴重なデータであるため、できることなら全ての資料をデジタル化すべきであると思われる。また、「再生不能」という判定もなかったため、デジタル化できない資料はないともいえる。

「複製」は、「デジタルデータ」と「マイクロフィルム」の有無に今回は絞った。本来であるならば、いつ、どのような技術で行ったのか、詳細な記録を残すべきである。映像資料になると、マイグレーションに関しては複雑になりがちだが、今回は紙資料とマイクロフィルムを対象としたため、時間の制約

第5章 実施内容

も考慮し簡素な項目とした。複製に関する基準も今後検討が必要である。

「備考」は「資料備考」と「作業備考」の二つを加えた。「資料備考」は一般公開しても問題のないものを記述し、「作業備考」は作業者の覚書や伝達に使うことを目的としており、基本的には非公開として書き込まれている。備考に関しては、公開前に整理をしなくてはならないことが多く、資料の特性により項目を追加することで備考の内容を変更する可能性がある。

「著作権」は、既に「著作権者クレジット」というものが項目として存在しているが、「人物組織テーブル」に追加をした。なぜなら、著作権名義が、作者と同一ではないことがあり、団体に委ねられている場合もある。そのために、作家とは別に記載できる場所を作成した。今回の調査は、基本的に磯崎新氏のものであるが、収蔵庫の中に、譲り受けたものが保管されていることを調査時発見したため、項目を追加した。著作権の問題は複雑であり、孤児作品と言われるものもあるため、できる限り早い段階から記載できるものはすべきであるという判断から追加した。

それぞれの年月日に関しては、年・月・日で項目を分けるだけでなく、年属性というものを追加した。「頃」、「以降」、「以前」、「年代」、「初期」、「中期」、「後期」、「不明」、「?」を選ぶことで表記ゆれを防ぐことを目的としている。1970「頃」や1970「初期」、1970「年代」というように、数値に付与することで、不確定要素を補う。9種類の表記で基本的にはカバーができるはずである。

また、専用の入力シートの作成時には、該当しない箇所や、登録作業の効率を向上するために外した項目もある。例えば、フリガナローマ字は、フリガナを自動的にローマ字に変更できるプログラムがあるため、フリガナさえ登録していれば問題ないという判断をした。また今回は、URL も省いた。インターネット登場前の1960年代から1970年代に絞っていたためだ。マッピングフィルタなどを通して、登録をする際でも、項目がなくても問題ないと判断した。収蔵庫での登録作業を想定したため、ネット環境がなくても作業ができるExcelでの目録作成がもっとも効率的であると判断し、既に入力用のシートを作成した。こうして次年度に向け、調査がすぐに行える環境が整ったことで、成果の躍進ができると考えている。

表 5-5 目録作成用項目リスト

1	作品_ID
2	作品_カテゴリー
3	作品名_日本語
4	作品名_英語
5	作品名_フリガナ
6	作家_日本語
7	作家_英語
8	作家_フリガナ
9	制作開始_年
10	制作開始_年属性
11	制作開始_月
12	制作開始_日
13	制作完成_年
14	制作完成_年属性
15	制作完成_月
16	制作完成_日
17	展覧会_日本語
18	展覧会_英語
19	展覧会_フリガナ
20	展覧会_開催回数（2回以上記入）
21	発表開始_年
22	発表開始_年属性
23	発表開始_月
24	発表開始_日
25	発表終了_年
26	発表終了_年属性
27	発表終了_月
28	発表終了_日
29	発表場所_日本語
30	発表場所_英語
31	発表場所_フリガナ
32	作品形態
33	作品_時間
34	サイズ（W・D・H）

第5章 実施内容

35	組・数量・サイズ
36	展示空間サイズ
37	定型サイズ
38	素材
39	技法
40	制作クレジット_役割
41	制作クレジット_人物組織
42	所蔵
43	収蔵_収蔵場所
44	収蔵_収蔵棚列
45	資料現況
46	保存状態
47	文献_文献名
48	文献_発行_年
49	文献_発行_年属性
50	文献_発行_月
51	文献_発行_日
52	文献_発行者
53	受賞歴
54	著作権者クレジット
55	資料_資料名
56	資料_種類
57	複製_デジタルデータ
58	複製_マイクロフィルム
59	備考_資料備考
60	備考_作業備考

第6章 成果

6.1 成果

本事業においては、「インターメディア」をテーマとして大阪万博の資料をめぐってミクロ調査とマクロ調査を行った。大阪府万博記念公園事務所が管理している公的な大阪万博資料と合わせ、企業・個人・関連団体等が所蔵管理している大阪万博関連資料の概要を把握することを目的としたマクロ調査も行うことで、メディア芸術という観点から必要なファクトの情報が何であるかという論点が明らかになった。具体的には、メディアテクノロジーを用いた造形表現あるいは芸術表現は、大阪万博における隠れたテーマであることは既に先行研究が語るところであるが、とりわけ様々なメディアのあいだを横断するような芸術運動が確かな技術的な仕様に基づいて作り出される同時代性がメディア芸術であるという観点を得たことは大きな成果のひとつであると言える。

そうした確かな技術的な仕様の裏付けのある同時代の芸術表現が発表されたファクト情報の所在調査を行い、所蔵情報を収録することは、我が国におけるメディア芸術の国際的な価値を高めるインフラストラクチャーとして機能することが、確認できた。

日本の戦後美術は既に世界的には大きなマーケットを持っており、そうしたアートマーケットという観点からも、所在調査をさらに進め所蔵目録を可能な限りメディア芸術データベースへ収録することは、アーカイブやコレクションの習慣がない我が国において、唯一持てる現実解であることが、本事業の調査でも明らかになった。

6.2 今後の課題

・メディア芸術に接続する「インターメディア」関連資料の所蔵調査

海外に流出する資料が多くなっていることもあり、大阪万博の他のパビリオンに関する一次資料の所在調査を行うとともに、所蔵の状況についての綿密な調査を行うことは必要となる。

・EXPO70 情報共有コンソーシアム

また「インターメディア」に先鞭（せんべん）をつけた大阪万博に参加した企業・個人・関連団体のコンソーシアム構築の可能性も本事業の延長線上には考えられるだろう。

大阪万博の情報共有のためのコンソーシアムができた場合、メディアアート関連資料の保存と公開に関する多くの知見を共有することが可能となり、メディアアートに関して多くの利益を資することとなると考えている。

第7章 総括

大阪万博を「インターメディア」という観点からとらえ直し、日本におけるメディアアートの源流のひとつとして位置づけるための基礎調査として、ミクロ調査とマクロ調査を並行して行った。マクロ調査において大阪府万博記念公園事務所が管理している資料を調査するに当たっては、既に多くの調査・研究があることもあり、「インターメディア」あるいはメディア芸術に関連する事象に限って調査した。

万博記念公園事務所所蔵の資料は体系的な整理がかなりなされているが、標準的な整理であってもその万博の規模や専門分野の広範さから来る専門性や特殊性もあり、標準的な資料集成を実現するための指標は存在しないと言える。そのため万博記念公園事務所が所蔵していない資料に関しては、大阪万博の運営に参画した企業や団体あるいは個人の資料に頼らざるを得ず、これら資料の所蔵を把握すると同時に資料の現状を把握し資料の散逸を防ぐ方策が講じられなければならない。とりわけ、これまでテクノロジーを利用した造形表現という観点から大阪万博関連資料が位置づけられ、改めて体系的に所蔵調査が行われたことはないため、そうした観点からも、本事業のようにミクロな資料調査をもっと草の根的に広げ、資料の所蔵と所蔵の現況把握に努める必要性を痛切に実感している。

国家的な規模で行われた博覧会の先進性についていち早くメディアテクノロジーを用いた表現を大規模なイベントに用いた磯崎新氏の先駆的な試みを「建築」ではなく「インターメディア」という観点から調査した。我が国のメディア芸術との歴史的観点から考えると世界的にも先進性があり、我が国における文化的な価値の高い資料群を今回の調査で確認でき、さらにそれらをメディア芸術の源流として位置づけることに意味があることを確認できたことは意義のあることだったと思う。

欧米各国のように資料を一括して購入し管理するというアーカイブの意向は、産・学・館（官）そろって過去も現在も未来もほとんど見られないだろう。したがって、資料集成としての包括的なアーカイブ構築は見込めないので、資料の海外流出があったとしても、資料の所在と所蔵が明示的に記述された信頼性の高いデータベースは我が国の文化的な価値を国内外に正確に伝えるためにも不可欠であろう。

第7章 総括

別紙

別紙

資料 A : お祭り広場のデバイス設計に関する調査

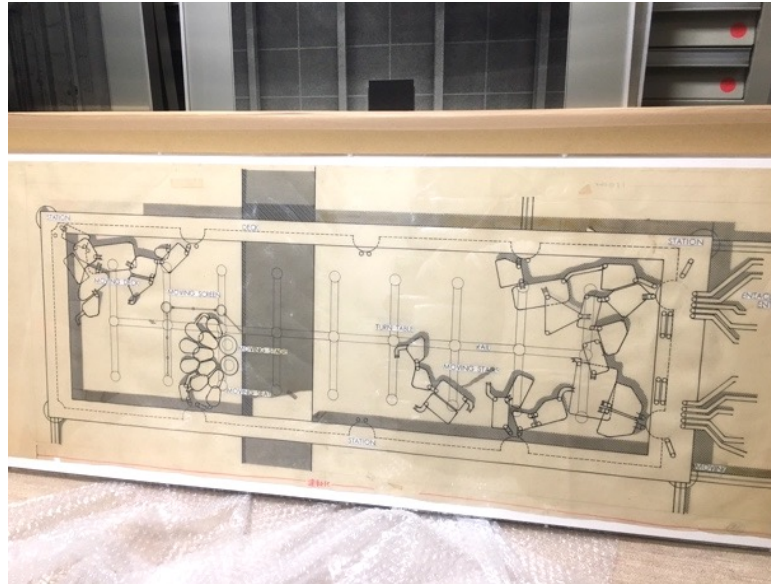


資料 5-1-1 磯崎氏収蔵庫での実地調査

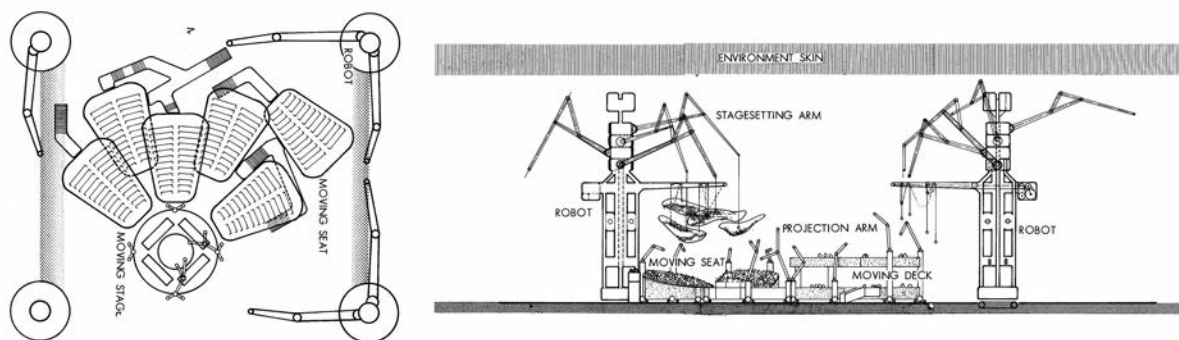


資料 5-1-2 磯崎氏収蔵庫での実地調査

資料 B：お祭り広場のデバイス設計に関する調査



資料 5-1-3 お祭り広場・演出装置配置プラン 原図



資料 5-1-4 お祭り広場・ロボット 計画

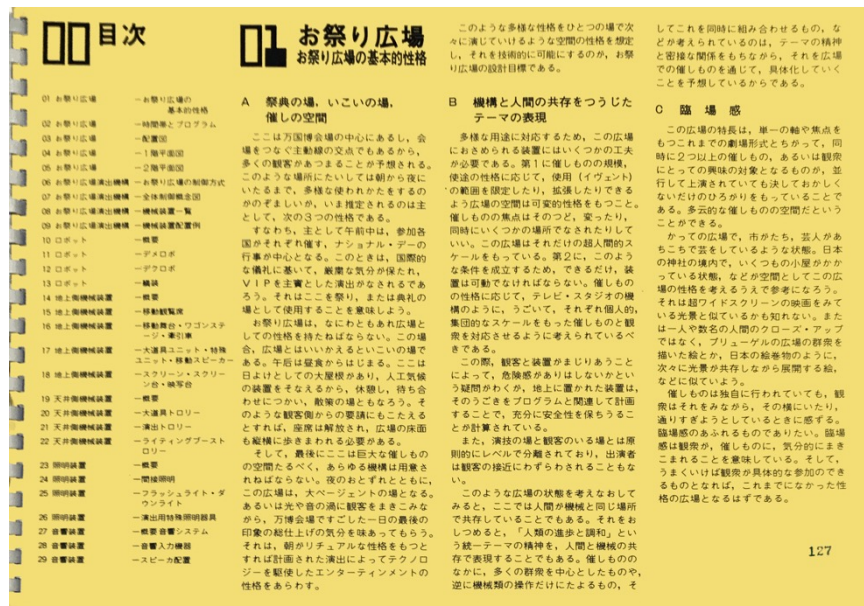
「お祭り広場を中心とした外部空間における、水、音、光などを利用した総合的演出機構の研究」
(通称：赤本) 所収

資料 B：お祭り広場のデバイス設計に関する調査



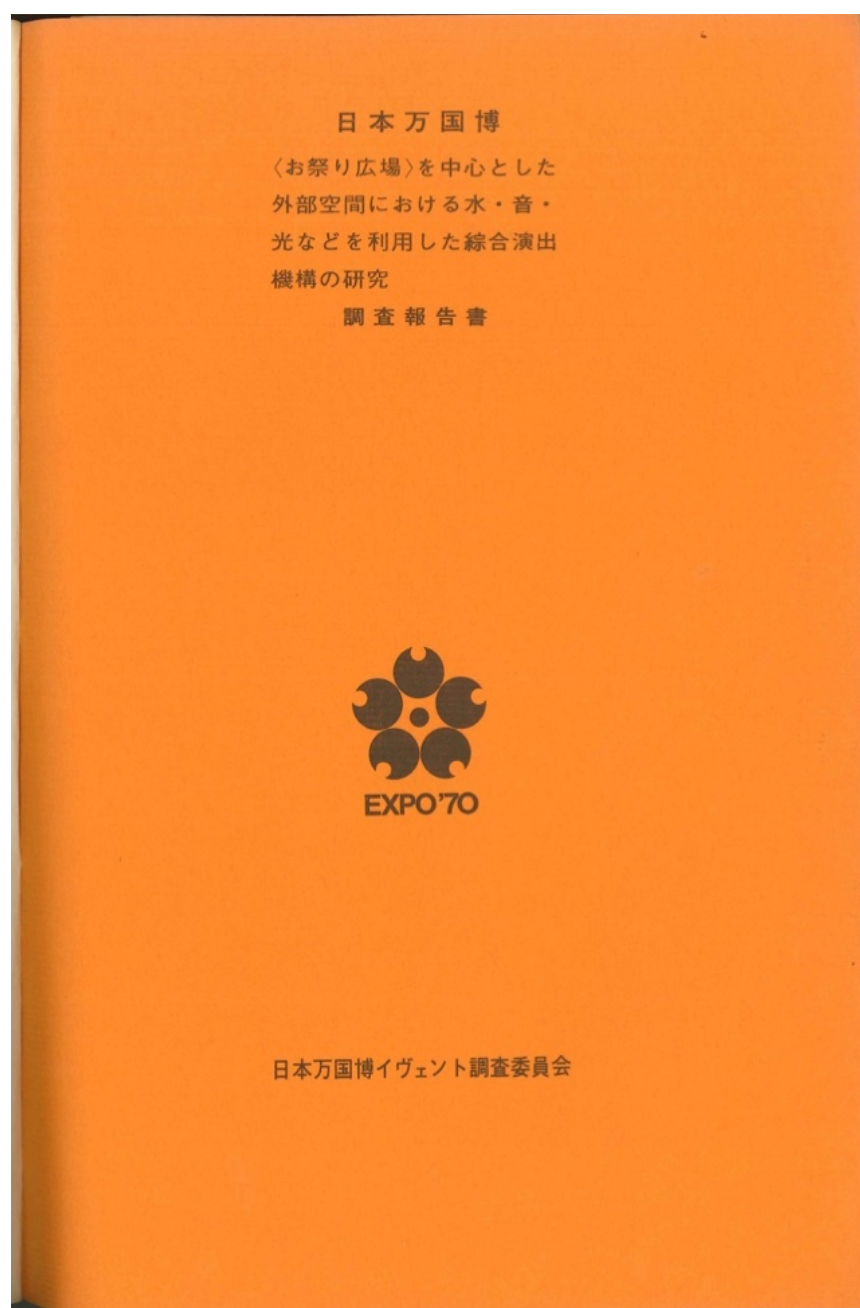
資料 5-1-5

レポート『三井グループ・パビリオン 実施基本計画 1968=MARCH』



資料 5-1-6 レポート『お祭り広場ーお祭り広場の基本的性格』

資料 B：お祭り広場のデバイス設計に関する調査



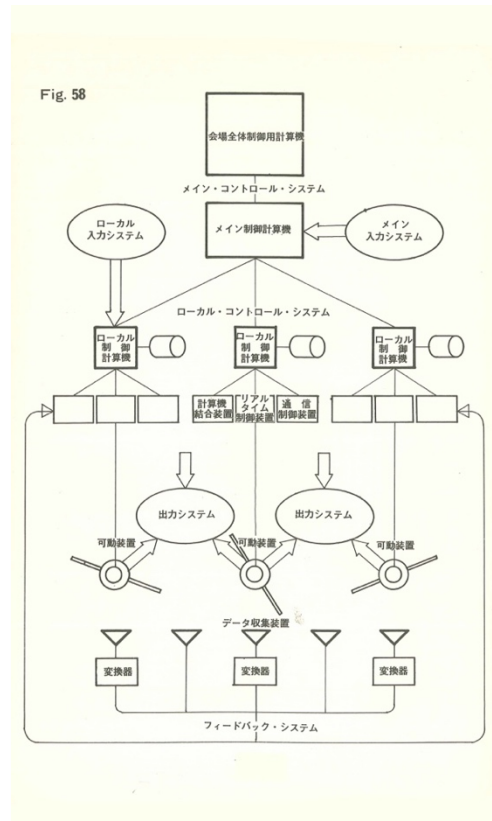
資料 5-1-7

『修景調査報告書 お祭り広場を中心とした外部空間における、
水、音、光などを利用した総合的演出機構の研究』1967 年
(通称：『赤本』)

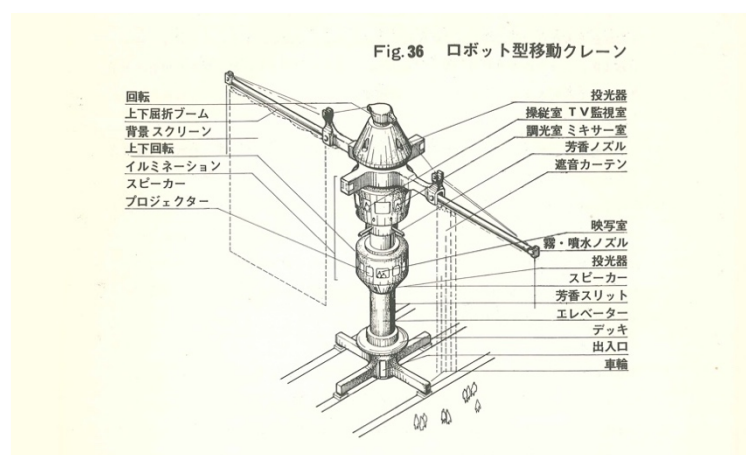
→「イヴェント」「メカニズム」「システム」「プロセス」の 4 章立て

別紙

資料 B：お祭り広場のデバイス設計に関する調査



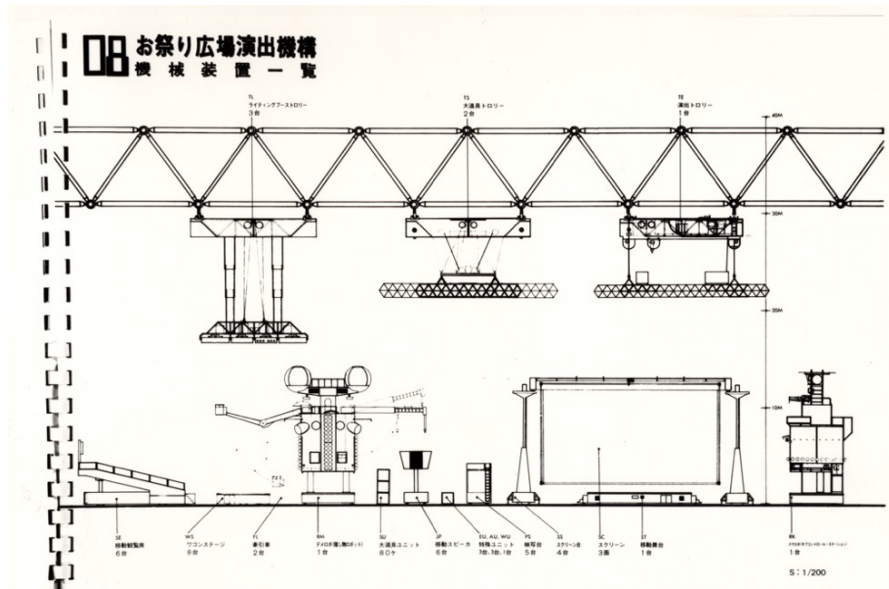
資料 5-1-8 コントロールシステム 計画
(『赤本』に記載)



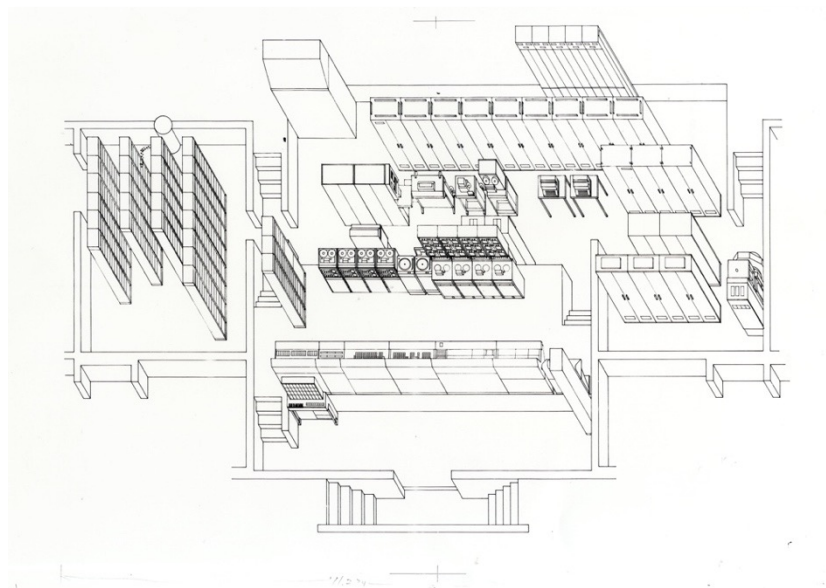
資料 5-1-9 ロボット型移動クレーン 計画
(『赤本』に記載)

別紙

資料 B：お祭り広場のデバイス設計に関する調査



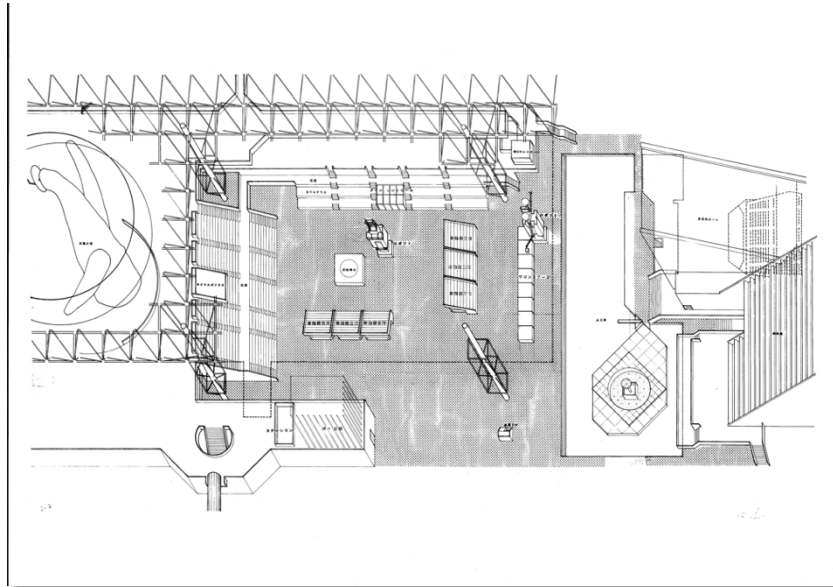
資料 5-1-10 レポート『お祭り広場演出機構－機械装置一覧』



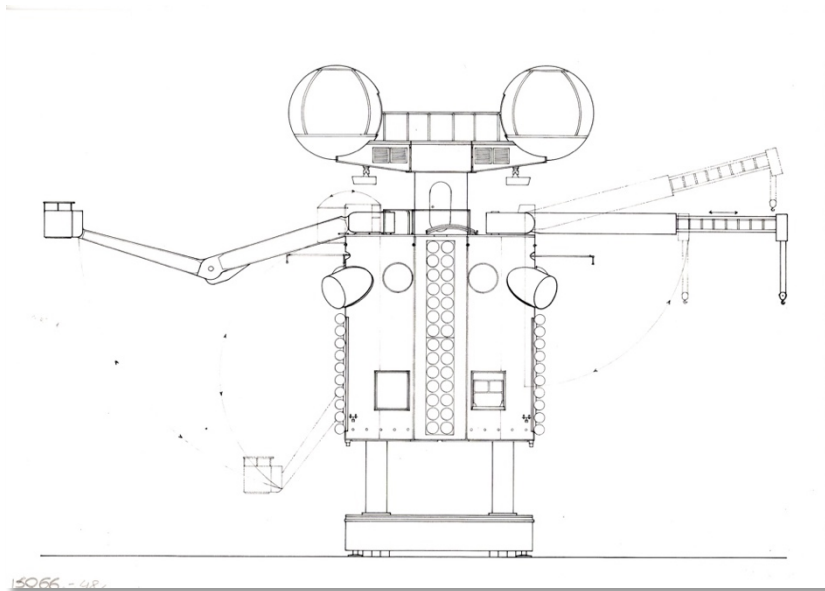
資料 5-1-11 コントロール・ルーム 計画図面
(『お祭り広場演出機構－機械装置一覧』記載)

別紙

資料 B：お祭り広場のデバイス設計に関する調査



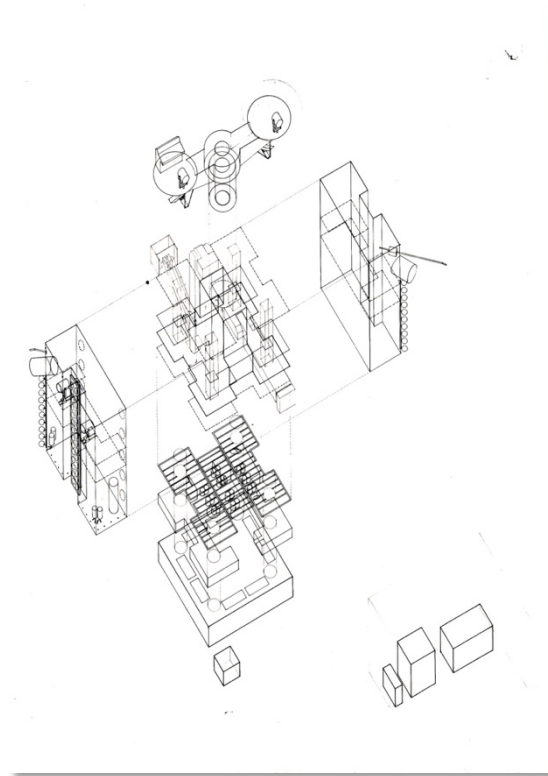
資料 5-1-12 お祭り広場 計画図面
(『お祭り広場演出機構－機械装置一覧』記載)



資料 5-1-13 ロボット・デメ 計画図面
(『お祭り広場演出機構－機械装置一覧』記載)

別紙

資料 B : お祭り広場のデバイス設計に関する調査



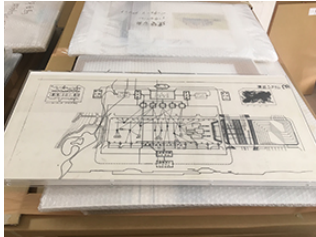
資料 5-1-13 ロボット・デメ 計画図面
(『お祭り広場演出機構—機械装置一覧』記載)

項目	内容	単位	数量	単価 (円)	総額 (円)
材料費	鉄鋼材料、木材、ガラス、プラスチック、電気材料、その他				
労務費	設計、製作、組立、塗装、検査、その他				
経費	設計費、製作費、組立費、塗装費、検査費、その他				
合計					
材料費	鉄鋼材料、木材、ガラス、プラスチック、電気材料、その他				
労務費	設計、製作、組立、塗装、検査、その他				
経費	設計費、製作費、組立費、塗装費、検査費、その他				
合計					
材料費	鉄鋼材料、木材、ガラス、プラスチック、電気材料、その他				
労務費	設計、製作、組立、塗装、検査、その他				
経費	設計費、製作費、組立費、塗装費、検査費、その他				
合計					

資料 5-1-14 お祭り広場 資料ファイル

別紙

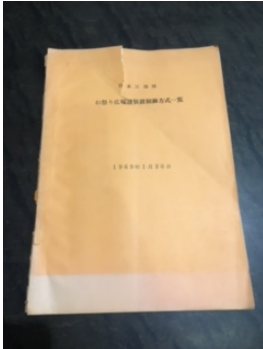
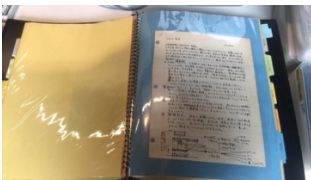
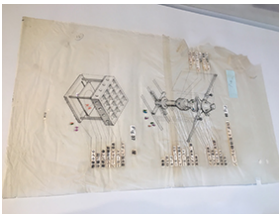
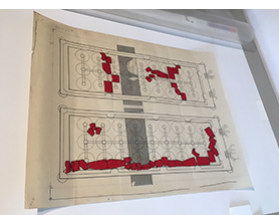
資料 B：お祭り広場のデバイス設計に関する調査（調査資料リスト 一部）

資料	プロジェクト	資料概要	年代	素材	サイズ
	EXPO 70' 会場基本計画	レポート「三井グループ・パビリオン 実施基本計画 1968=MARCH」	1968	冊子	29.7×21cm (A4)
	EXPO 70' お祭り広場	図面 演出装置配置プラン	1968 頃	トレーシングペーパーにインク	・ボックス 内寸__115.4 ×45.8× 2.3cm ・ボックス 外寸__116 ×46.4× 2.6cm
	EXPO 70' お祭り広場	図面 第二原図 演出システムダイアグラム	1968 頃	ポリエステルフィルムに印刷	・ボックス 内寸__72.2 ×32.9× 2.3cm ・ボックス 外寸__72.8 ×33.5× 2.cm
	EXPO 70' お祭り広場	図面（スケジュールダイアグラム）	1968 頃	未確認	未測定

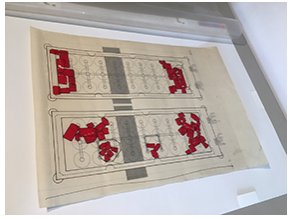
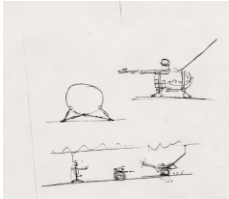
別紙

	EXPO 70' お祭り広場	図面ファイル (A1 黒いファイル) 実施設計図(諸装置工事) 図面×24 枚	1968 頃	トレーシングペーパーにインク	A1 サイズ
	EXPO 70' お祭り広場	図面ファイル (A1 黒いファイル) 図面×83 枚	1968 頃	トレーシングペーパーにインク	A1 サイズ
	EXPO 70' お祭り広場	図面ファイル (A0 青いファイル) 図面×31 枚	1968 頃	トレーシングペーパーにインク	A0 サイズ
	EXPO 70' お祭り広場	レポート「お祭り広場 お祭り広場の基本的性格」	1968 頃	冊子	A3 サイズ (リング綴じ)
	EXPO 70' お祭り広場	レポート「修景調査報告書 お祭り広場を中心とした外部空間における、水、音、光などを利用した総合的演出機構の研究」日本科学技術振興財団、日本万国博イヴェント調査委員会	1968 頃	冊子	29.7×21cm (A4)

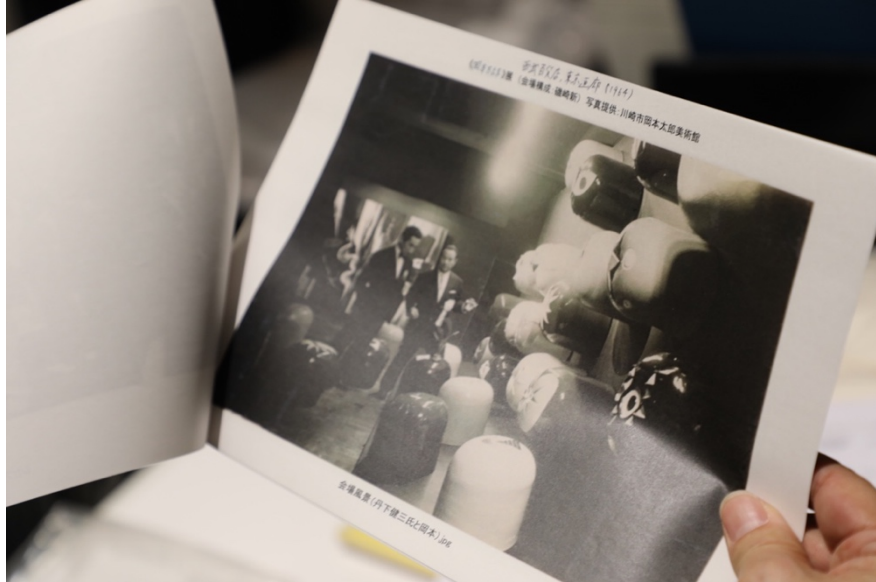
別紙

	EXPO 70' お祭り広場	レポート「日本万国博 お祭り広場書装置制御一覧」 1969 年 1 月 20 日	1968 頃	冊子	29.7×21cm (A4)
	EXPO 70' お祭り広場	資料ファイル	1968 頃	図面紙 焼き、 マイクロフィルム、 ロボットに関する磯崎メモ 原本など	40 x 31cm
	EXPO 70' お祭り広場	図面 マップケース (ショードローイング) 入り	1968 頃	トレーシング ペーパーにインク	59.4×84.1 (A1) 以内
	EXPO 70' お祭り広場	図面 マップケース (ショードローイング) 入り	1968 頃	トレーシング ペーパーにインク	59.4×84.1 (A1) 以内
	EXPO 70' お祭り広場	図面 マップケース (ショードローイング) 入り	1968 頃	トレーシング ペーパーにインク	59.4 × 84.1 (A1) 以内

別紙

	EXPO 70' お祭り広場	図面 マップケース（シヨードローイング）入り	1968 頃	トレーシング ペーパーに インク	59.4×84.1 （A1）以内
	EXPO 70' お祭り広場	図面 マップケース（シヨードローイング）入り	1968 頃	トレーシング ペーパーに インク	59.4×84.1 （A1）以内
	EXPO 70' お祭り広場	スケッチ デジタルデータ		データ	
	EXPO 70' お祭り広場	マイクロフィルム 7本	1970-71	マイクロ フィルム 35mm	

資料 C : お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示

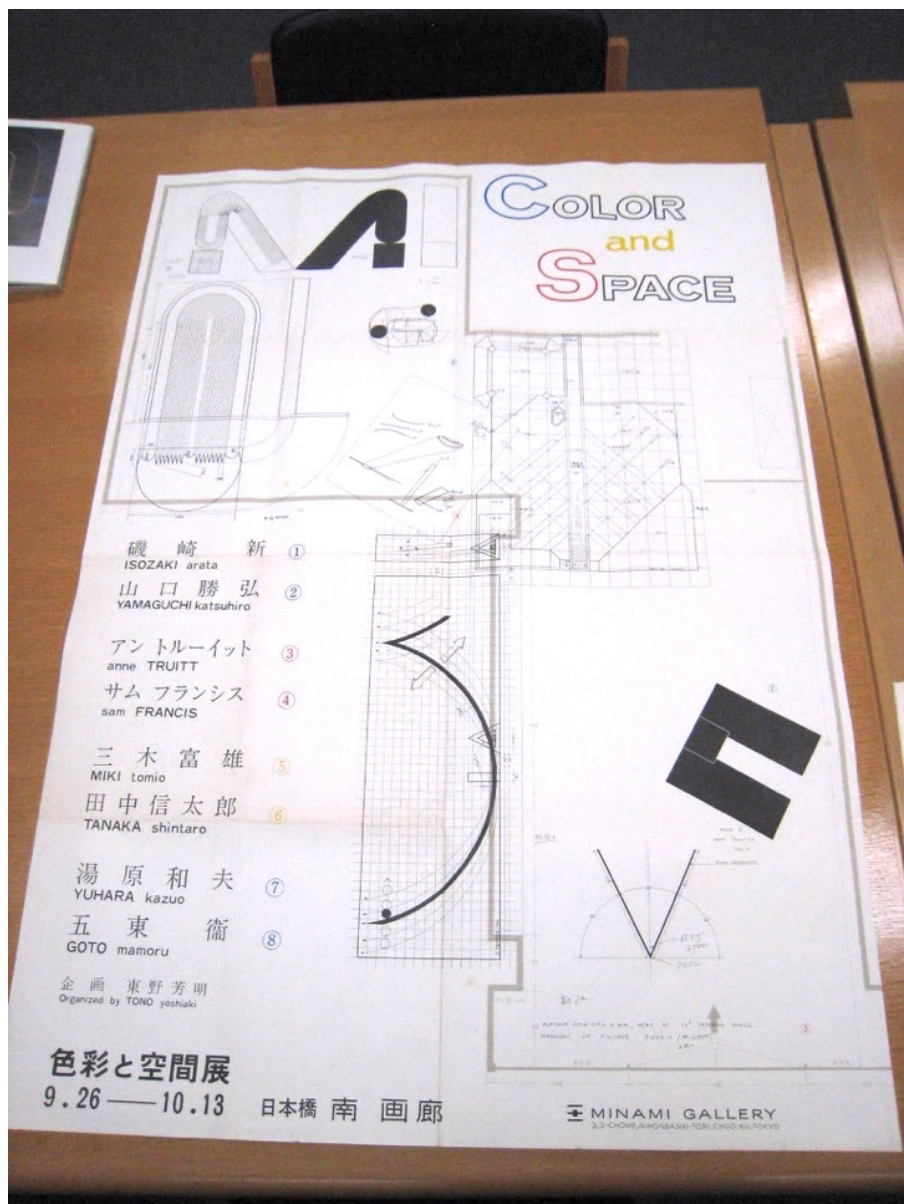


資料 5-1-15 岡本太郎展 関連ファイル



資料 5-1-16 岡本太郎展レポート（『建築』1964年3月号 所収）

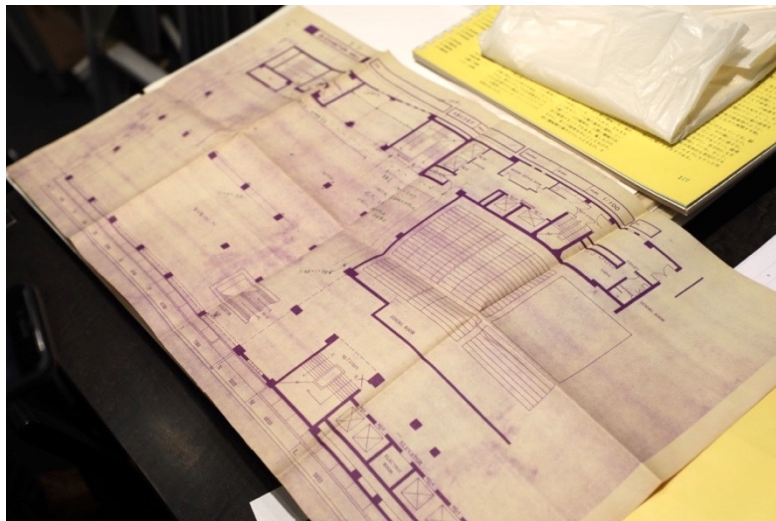
資料D：お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示



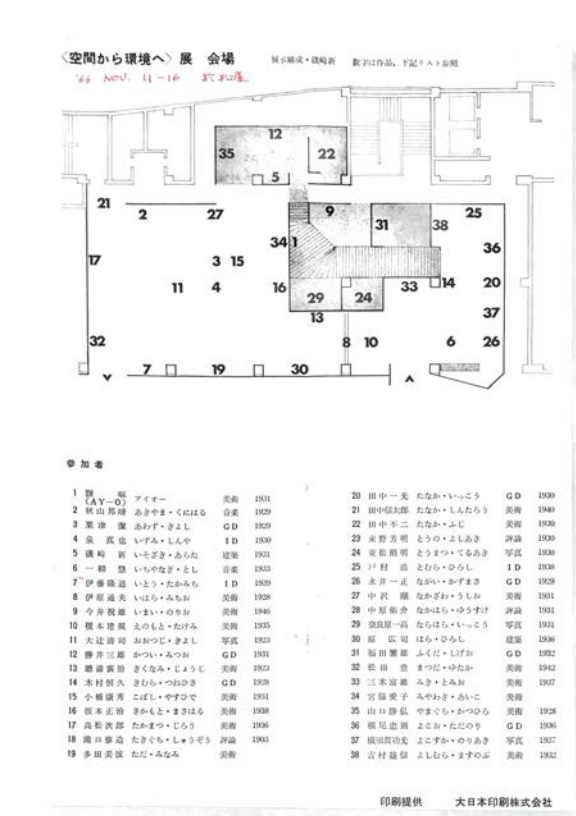
資料 5-1-17 「色彩と空間」展 ポスター

別紙

資料 E：お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示



資料 5-1-18 「空間から環境へ」展 会場図面の青焼図面



資料 5-1-19 「空間から環境へ」展 会場図

別紙

資料 E：お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示



資料 5-1-20 『美術手帖 1966 年 11 月号 特集：空間から環境へ』



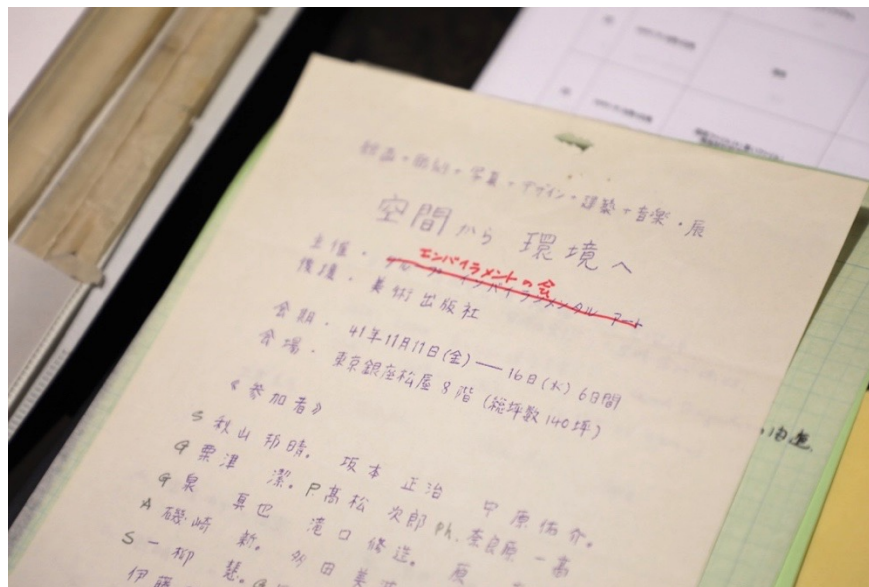
資料 5-1-21 「建築空間」模型 1/20（福岡相互銀行大分支店）
「空間から環境へ」磯崎氏出展作
（『美術手帖 1966 年 11 月号 特集：空間から環境へ』より）

別紙

資料 E：お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示



資料 5-1-22 資料ファイルより 磯崎氏メモ原本



資料 5-1-22 資料ファイルより 関連資料

別紙

資料 C・E：お祭り広場に結びついた「インターメディア」関連展示（調査資料リスト 一部）

資料	プロジェクト	資料概要	年代	素材	サイズ
	色彩と空間 展	模型写真	1966	ゼラチン シルバー プリント	12.5x17.5cm
	空間から環境へ 展	<<建築空間>> のためのドロー ーイング（福岡相互銀行大 分支店）	1966	トレーシ ングペー パーにイ ンク	額寸： 175x71cm
	空間から環境へ 展	「建築空間」 模型 1/20 （福岡相互銀行大分支店） 再制作	1966/2011	MDF に 塗装、背 面にLED照 明	138w x 52d x 180hcm
	空間から環境へ 展	「建築空間」 シルクスク リーン （福岡相互銀行大分支店）	1966/2014	シルクス クリーン	103x35.5cm

別紙

	空間から環境へ 展	美術手帖 1966 年 11 月 号増刊 特集＝空間か ら環境へ	1966	雑誌	21x15cm
	空間から環境へ 展	東松照明によ る写真記録 (雑誌切り抜 き)	1967	雑誌切抜 き	25.8x18.3cm/1 枚×4 枚
	空間から環境へ 展	資料ファイル	1966	会場図面 の青焼図 面、紙焼 き、マイ クロフィ ルム、会 場写真、 磯崎メモ 原本 な ど	40×31cm

別紙

資料 F：調査対象の資料現況



資料 5-1-23 お祭り広場関連資料の資料現況（図面）

別紙

資料 F：調査対象の資料現況



資料 5-1-24 お祭り広場関連資料の資料現況
(マイクロフィルム)

別紙

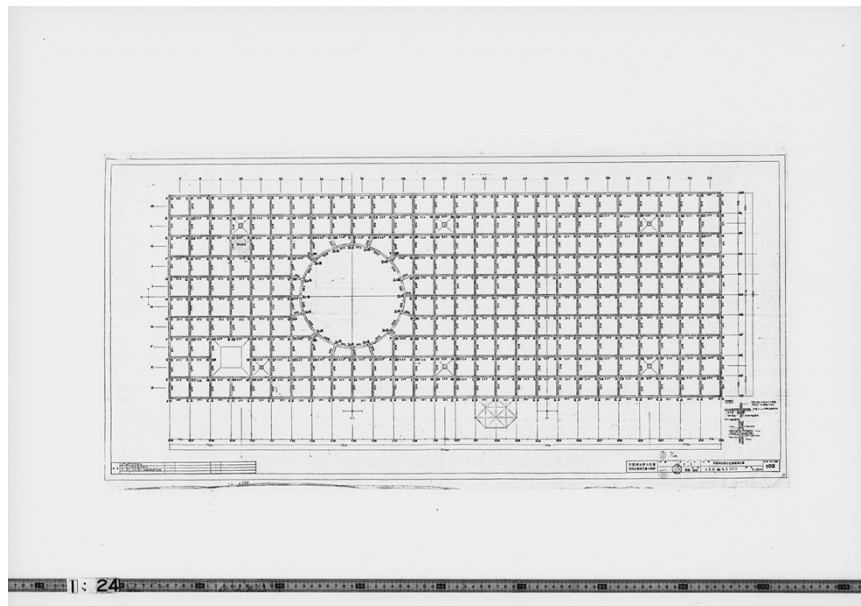
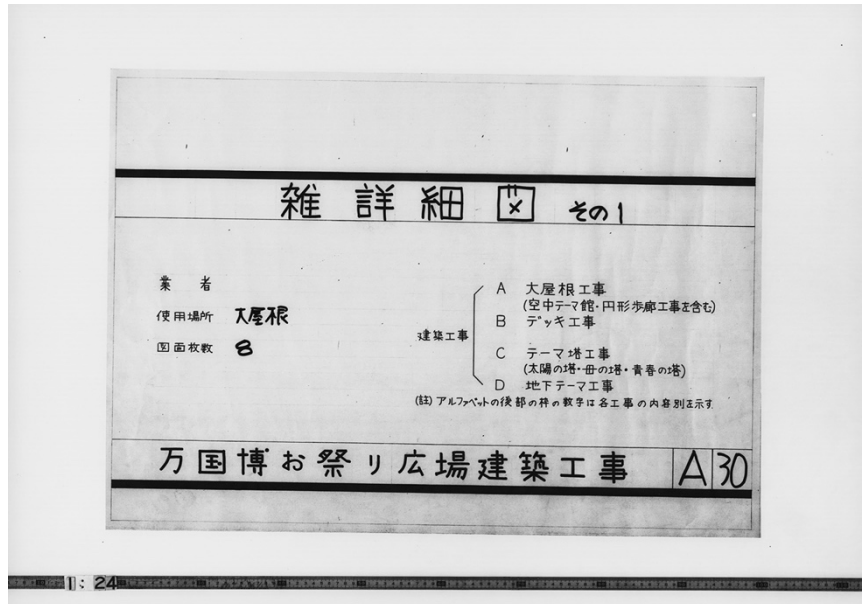
資料 G : 調査対象の資料現況



資料 5-1-25 マイクロフィルムよりデジタル化された図面 (1200 枚)

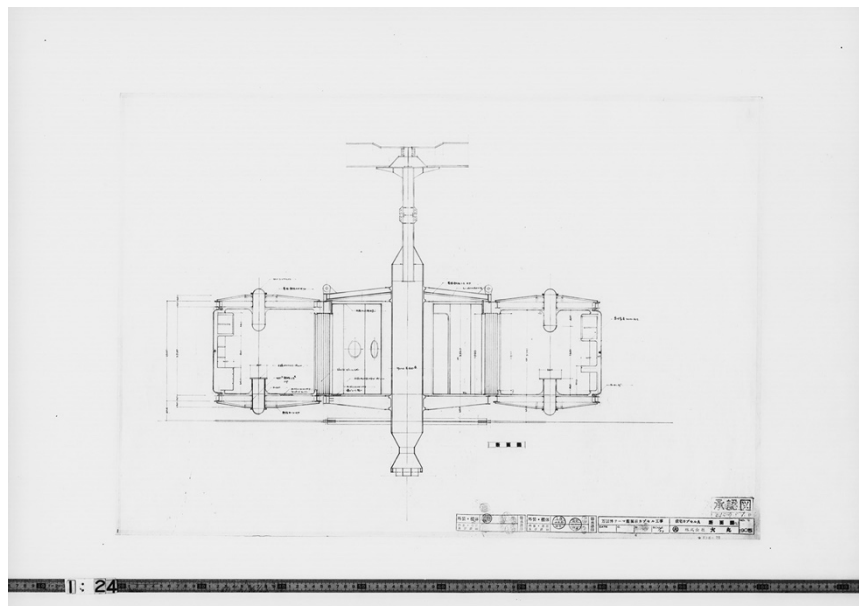
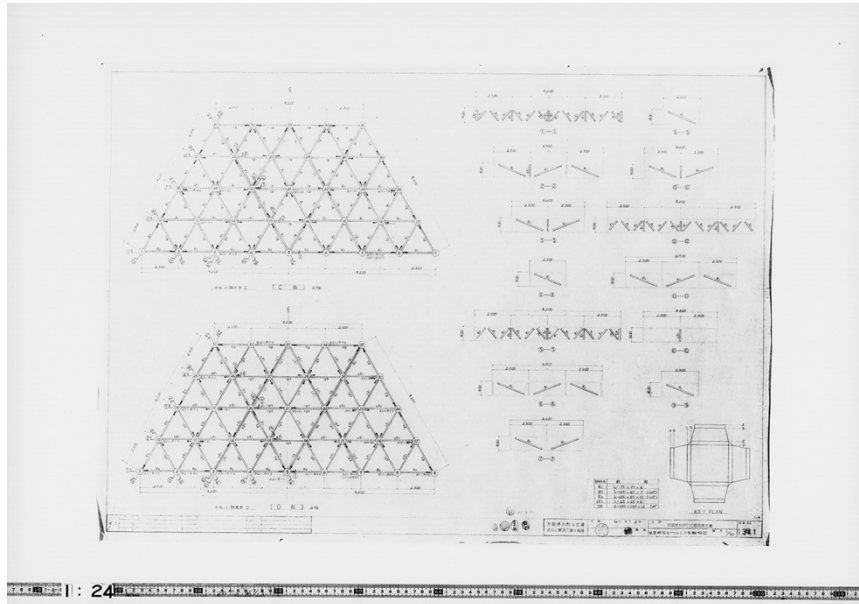
別紙

資料 G：調査対象の資料現況



資料 5-1-26 マイクロフィルムよりデジタル化された図面の一部
(お祭り広場・空中テーマに関する図面)

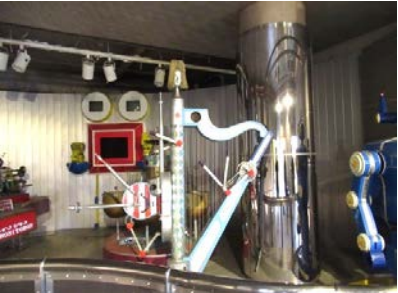
資料 G : 調査対象の資料現況



資料 5-1-27 マイクロフィルムよりデジタル化された図面の一部
(お祭り広場・空中テーマに関する図面)

別紙

資料H：フジパン株式会社 パビリオン「ロボット館」資料保存状況

	資料 5-2-1 愛知県児童総合センター開館時の「ロボット館」 (当時のパンフレットより抜粋) フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-2-2 飛行船ロボット フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-2-3 楽団ロボット① フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-2-4 楽団ロボット② フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-2-5 楽団ロボット③ フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

別紙

資料H：フジパン株式会社 パビリオン「ロボット館」資料保存状況

	資料 5-2-6 巨人ロボット フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-2-7 楽器ロボットの公演スケジュール フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-2-8 楽器ロボットの公演に際し使用している映像デッキ (再生機器の現状) フジパン株式会社 大阪万博関連資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

別紙

資料 I：武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 大阪万博関連



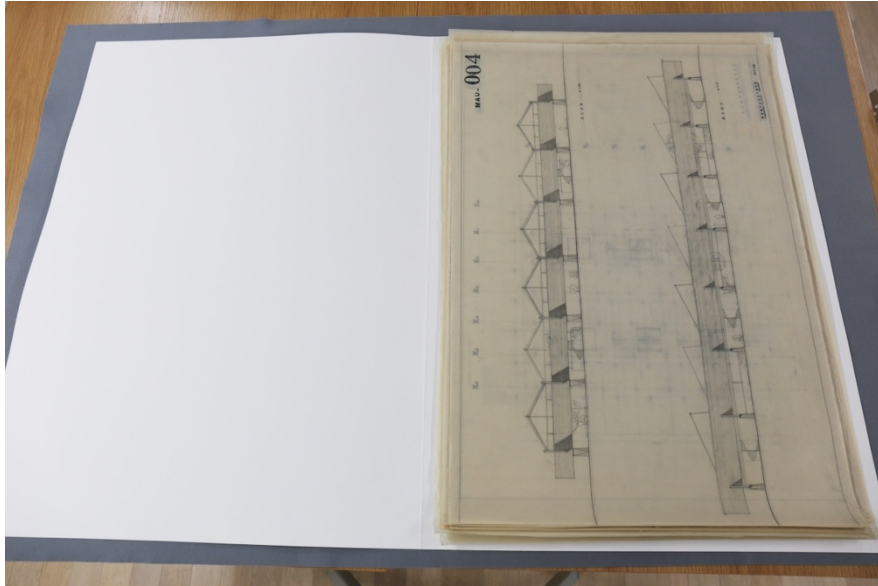
資料 5-3-1 芦原義信建築資料 保管状況
(造形研究センターデザイナーアーカイブ収蔵庫)



資料 5-3-2 芦原義信建築資料 保管状況：中性紙保存箱

別紙

資料 I：武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 大阪万博関連



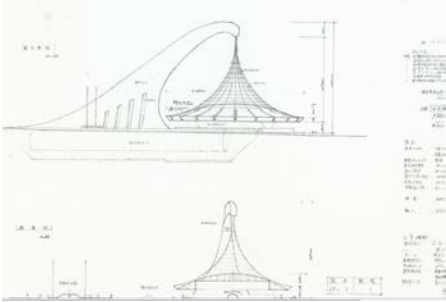
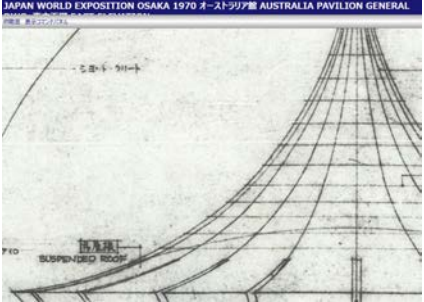
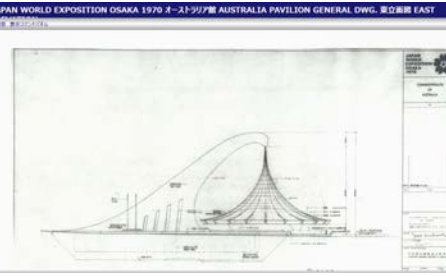
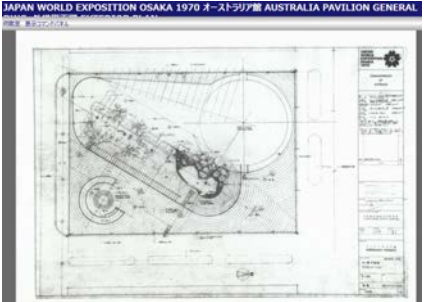
資料 5-3-3 芦原義信建築資料 保管状況：中性紙保存箱



資料 5-3-4 芦原義信建築資料 保管状況：図面現況

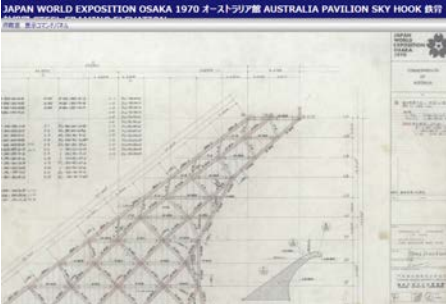
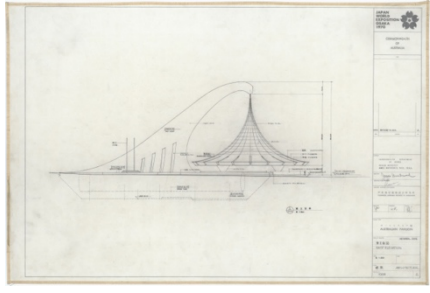
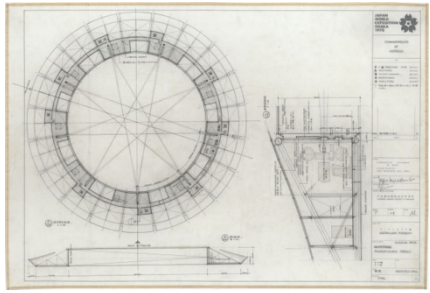
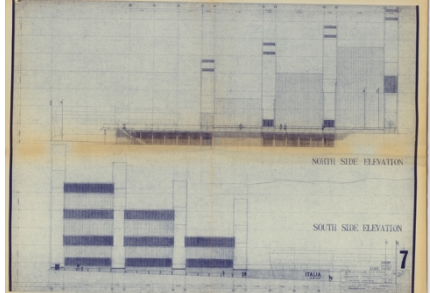
別紙

資料 I : 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 大阪万博関連

	資料 5-3-5 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 デジタルアーカイブからのキャプチャ画像より
	資料 5-3-6 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 デジタルアーカイブからのキャプチャ画像より
	資料 5-3-7 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 デジタルアーカイブからのキャプチャ画像より
	資料 5-3-8 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 デジタルアーカイブからのキャプチャ画像より
	資料 5-3-9 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 デジタルアーカイブからのキャプチャ画像より

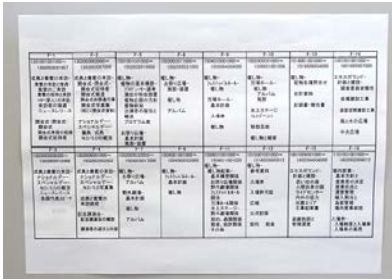
別紙

資料 I : 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 大阪万博関連

	資料 5-3-10 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 デジタルアーカイブからのキャプチャ画像より
	資料 5-3-11 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料
	資料 5-3-12 大阪万博 オーストラリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料
	資料 5-3-13 大阪万博 イタリア館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料
	資料 5-3-14 大阪万博 ニュージーランド館 原図 武蔵野美術大学所蔵 芦原義信建築資料 デジタルアーカイブからのキャプチャ画像より

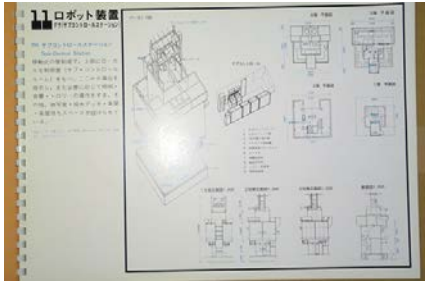
別紙

資料 J : 万博記念公演事務所 所蔵資料

	資料 5-4-1 万博記念公園事務所資料室の管理状況 資料調査 (2017. 11. 20, 21) 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-2 関連資料の保存棚 (一部) と保存棚以外の保存状況 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-3 関連資料の保存棚 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-4 記者発表資料は時系列で保管・整理 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-5 記念コインなど 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

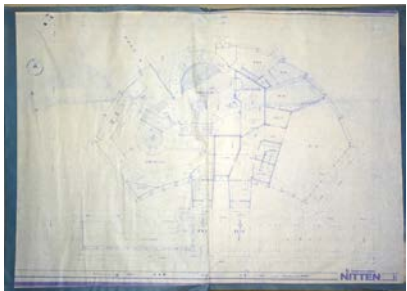
別紙

資料 J : 万博記念公演事務所 所蔵資料

	資料 5-4-6 冊やイベント単位ごとにバーコードで管理されている様子 (中身についての詳細のデータはない) 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-7 ロボット装置デク (サブコントロールステーション) 資料 (報告書『お祭り広場—お祭り広場の基本的性格』) 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-8 フジパンロボット館《子供の夢》資料 ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-9 フジパンロボット館《子供の夢》案内パンフレット① ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-10 フジパンロボット館《子供の夢》案内パンフレット② ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

別紙

資料 J：万博記念公演事務所 所蔵資料

	資料 5-4-11 フジパンロボット館《子供の夢》パンフレット① ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-12 フジパンロボット館《子供の夢》パンフレット② ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-13 「ロボット館」および「飛行船ロボット」図面① ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-14 「ロボット館」および「飛行船ロボット」図面② ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-15 「ロボット館」関連資料（新聞切抜含む） （ロボット製作の相沢次郎博士による説明文あり） ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

別紙

資料 J : 万博記念公演事務所 所蔵資料

	資料 5-4-16 写真：建築中の「ロボット館」 ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-17 写真：当時展示されていた「ロボット」(一部) ① ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-18 写真：当時展示されていた「ロボット」(一部) ② ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-19 フジパンロボット館新築工事 報告書 ◎フジパン株式会社に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-20 メモ紙の裏に貼られた写真 ◎お祭り広場に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

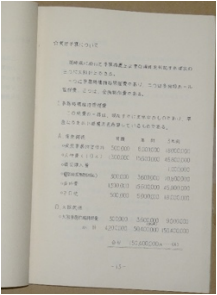
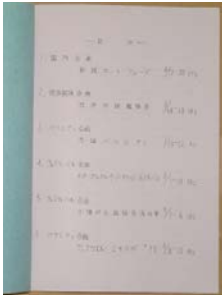
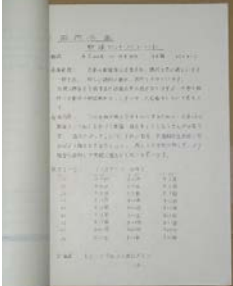
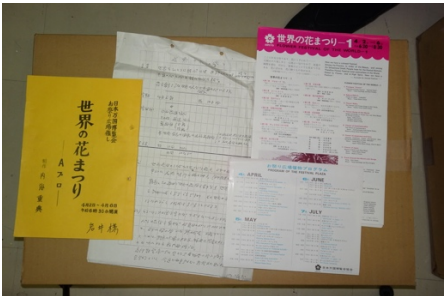
別紙

資料 J：万博記念公演事務所 所蔵資料

	資料 5-4-21 調査報告書「お祭り広場ーお祭り広場の基本的性格」 ◎お祭り広場に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-22 お祭り広場のスライド、スライドの解説メモ ◎お祭り広場に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所
	資料 5-4-23 「万国博がやって来た」の台本、チラシ、舞台レイアウト ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-24 渡辺美佐担当 作業実施計画書（1）～（2） ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-25 渡辺美佐担当 実施体制図（作業実施計画書 本文） ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）

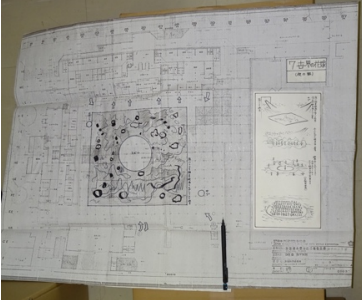
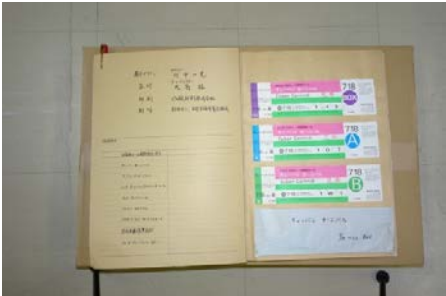
別紙

資料 J : 万博記念公演事務所 所蔵資料

	資料 5-4-26 渡辺美佐担当 実行予算（作業実施計画書 本文） ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-27 万国博ホール企画案 ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-28 万国博ホール企画案（目次） ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-29 万国博ホール企画案（1. 国内企画「歌謡ヒット・パレード」） ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-30 お祭り広場シナリオ 世界の花まつり（A プロ）関連資料 制作：内海重典 ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

別紙

資料 J : 万博記念公演事務所 所蔵資料

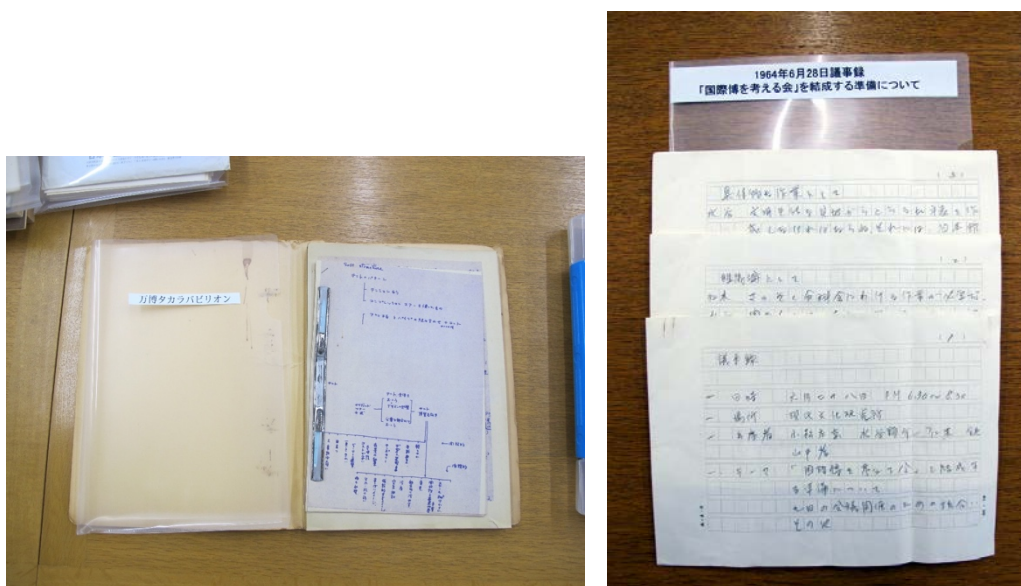
	資料 5-4-31 ミス・インターナショナル ビューティー・ページェント ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-32 イベント出演への渡辺宛ての申込書類 ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-33 世界の花嫁 演出計画図面 ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-34 各種チケットのスクラップブック（田中一光デザイン） ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）
	資料 5-4-35 各種チケットのスクラップブック（田中一光デザイン） ◎お祭り広場（万国ホール含む）に関する資料 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所 （株式会社渡辺プロダクション制作資料）

別紙

資料 K：小松左京ライブラリ保有 関連資料（大阪芸術大学附属図書館）



資料 5-5-1 小松左京ライブラリ保有 保管状況

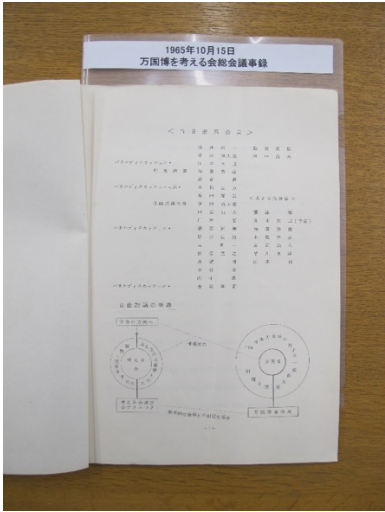
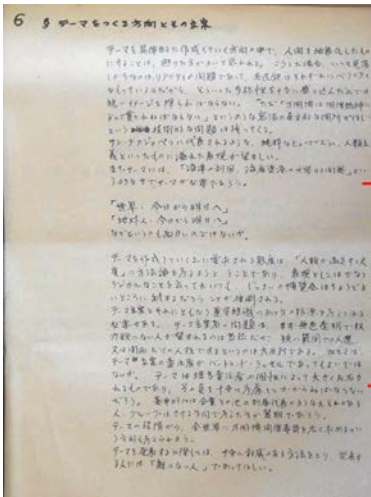
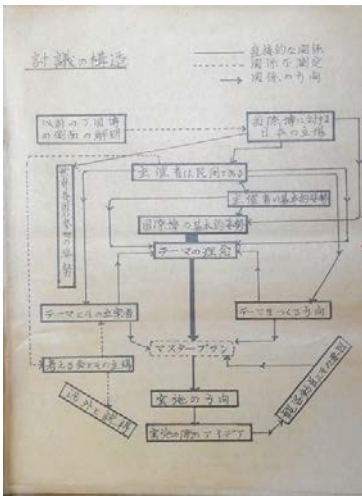


資料 5-5-2 小松左京ライブラリ保有 保管状況

（右：「国際博を考える会」を結成する準備について 原稿）

（左：万博タカラパビリオン資料ファイル）

資料 K : 小松左京ライブラリ保有 関連資料

	資料 5-5-3 小松左京氏保有 大阪万博関連資料① 当日出席会員 (第1回万国博を考える会総会会議議事録、大阪科学技術センター、1965. 10) 大阪芸術大学寄託
	資料 5-5-4 小松左京氏保有 大阪万博関連資料② 討議構造の図案 (第1回万国博を考える会総会会議議事録、大阪科学技術センター、1965. 10) 大阪芸術大学寄託
	資料 5-5-5 小松左京氏保有 大阪万博関連資料③ テーマ議論 (第1回万国博を考える会総会会議議事録、大阪科学技術センター、1965. 10) 大阪芸術大学寄託

別紙

資料 L : 渡辺プロ収蔵目録 (資料一覧)

調査資料	資料の有無	棚番号	写真 (写真No. ※ IMG_以下の数字ファ イル名を記載)	備考
1966年12月～1967年8月 次の人事発令及び決定に関する資料				
資料検索キーワード「人事発令」	有	H-3/N-3		N-3＝財団法人日本万博博覧会協会事務局 組織および職制規程の一部改正にともなう 人事発令の措置について (1968.6.8)
資料検索キーワード「催し物プロデューサー」	有	F-5		シート①参照
資料検索キーワード「渡辺美佐」	有	F-5/F-11/QD-1	4181/4182/4183/41 84/4185/4186/4187 /4188/4189/4190	シート②参照
多目的ホール (「万博ホール」と後に改称) の舞台、照明、音響設備に関係する資料				
資料検索キーワード「多目的ホール」	有	B-10/F-5/F-9/F- 10/F-11/F-12/G- 8/H-4/J-14/O-9/M- 11/PD-2/QB-4		シート③参照
資料検索キーワード「万博ホール」	有	C-11/F-2/F-5/F- 8/F-9/F-10/F-11/F- 12/F-13/H-8/J-5/J- 14/L-10/L-13/M- 11/PD-2	4179/4191	シート④参照
指宿真知夫氏設計資料				
資料検索キーワード「指宿真知夫」	目録リストに見当たらず	要追跡調査 (※)		(※) 目録タイトルからだけで判断不能。
服部展宏氏 (舞台) の、回り舞台とスライドを兼有した案に関する資料			4233/4230	
資料検索キーワード「服部展宏」	有			(※) 目録タイトルからだけで判断不能。
実施体制 (仕組み) の変更に関する資料	目録リストに見当たらず	要追跡調査 (※)		(※) 目録タイトルからだけで判断不能。
冠コンサートに関する資料	目録リストに見当たらず	要追跡調査 (※)		(※) 目録タイトルからだけで判断不能。
支出壓縮に対応した資料	目録リストに見当たらず	要追跡調査 (※)		(※) 目録タイトルからだけで判断不能。
Aプロ、Bプロに関する資料	有		4193/4194	
渡辺美佐氏がプロデュースした海外アーティストに関連する資料				
サミー・ディビス・ジュニア	有	F-9/F-12	4205/4207/4209 /4216	シート⑤参照
セルジオ・メンデスとブラジル66/ボサ・リオ	有	F-11/F-12/QD-1	4218	シート⑤参照
アンディ・ウィリアムス/オズモンド・ブラザーズ	有	F-9/H-5/H-9/QD-5		シート⑤参照
サンレモ音楽祭EXP'70	有	F-11/F-12/9-3/QG- 2	4218	シート⑤参照
ジルベール・ベコー	有	F-9/F-11/F-11/F- 12/9-3/H-9/QD-1		シート⑤参照
ユニセフ万国祭り	目録リストに見当たらず			
ミュージカル『赤毛のアン』	有	F-9/F-10/F-11/F- 12/H-4/H-5/9- 3/QD-1/QG-2	4222	シート⑤参照
北方ロシア民族合唱団	有	F-9/F-10/F-11/F- 12/H-4/H-5/9- 3/QD-1/QG-2		シート⑤参照
スタンリー・ブラック・オーケストラ	目録リストに見当たらず			
メリー・ホブキン	有	F-9/H-5/H-7/H- 9/QG-2		シート⑤参照
ジャンソン・フェスティバル	有	F-9/F-10/F-11/F- 12/9-3/H-9		シート⑤参照
スイングル・シンガーズ	有	F-9/F-10/QD-1		シート⑤参照
キューバン・カーニバル	有	F-9/F-10/F-11/F- 12/H-5/H-7/H-9/9- 3/QD-1/QG-2	4225	シート⑤参照
フィフス・ディメンション	有	F-9/F-11/F-12/9- 3/H-9/QD-1		シート⑤参照
インターナショナル・ウェスタン・カーニバル	有	F-9/F-11/F-12/QD- 1		シート⑤参照
ジャズ・フェスティバル	有	F-9/F-11/F-12/9- 3/H-9/QD-1		シート⑤参照
ブラザーズ・フォア/ヤング・アメリカン	有	F9/F-11/F-12/9- 3/QD-1		シート⑤参照
アマリア・ロドリゲス	有	F-9/F-11/F-12/9- 3/QD-1		シート⑤参照
マレーネ・ディートリッヒ	有	F-9/F-12/9- 3/H-9/QD-1/QG- 1/QG-2	4201/4202/4203	シート⑤参照
渡辺美佐氏がプロデュースしたもの その他に関する資料				
放送祭EXPO'70 (放送局協力)	有	F-10/H-5/9-3/H-7		シート⑥参照
万国博レコード祭り (レコード会社協力)	有	F-12/9-3	4219	シート⑥参照
全国ヤング歌謡フェスティバル (ファン投票による)	有	F-10/F-11/H-4/H- 9/9-3/QD-1/QG-2		シート⑥参照
お茶の間バラエティ	有	F-10/F-11/H-5/9-3		シート⑥参照
思い出のメロディー	有	F-10/F-11/9-3/H- 9/QD-1		シート⑥参照
フェアウェルEXPO'70 (フィナーレのイベント)	有	F-8/F-9/F-10/F- 11/F-12/9-3/QD-1		シート⑥参照

別紙

資料Ⅰ：渡辺プロ収蔵目録（催し物プロデューサー①）

No.	大分類	No.		No.	タイトル	No.	文書名(or文書ファイル名)	No.	文書名	内容等	部数	種別
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1	001	伊藤プロデューサーレポート	略歴 催し物プロデューサー承諾書 スケジュール<英>	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1※プロデューサー名簿一協会関係者	002	他プロデューサー就任依頼	催し物プロデューサー就任依頼について 新聞記事 催し物アドバイザー候補 他	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1	003	催し物の意図とその進行状態	年次不明	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1	004	催し物部門の進行について	年次不明	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1	005	書簡	書簡<英・独>、照明家協議会、書簡一覧表、メモ 他	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1	006	未処理書簡	伊藤プロデューサー関係および未処理手紙	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1	007	お祭り広場催し物制作ノート	催し物制作ノート	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	001	伊藤邦輔プロデューサーNo.1	008	海外折衝渡航	海外渡航承諾書 Hotel list<英> フライトスケジュール<英> 他	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	002	福原信夫プロデューサー	009	福原プロデューサーレポート	レポート 出張報告他	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	003	村山未知プロデューサー	010	村山プロデューサーレポート	略歴 業務分担表 時評 書簡<英> 催物スタッフ承諾書	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	004	渡辺美佐プロデューサーNo.1	001	基本業務	作業について 業務範囲確認表 企画一覧表 催物スタッフ承諾書	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	004	渡辺美佐プロデューサーNo.1	002	海外折衝	催物企画海外折衝調査報告書 海外折衝メモ 渡辺美佐担当催し物企画海外折衝目的及び日程 フライトスケジュール<英>	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	004	渡辺美佐プロデューサーNo.1	003	書簡	<英・仏> 他	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	001	渡辺美佐担当作業実施計画(I)	1968.6.6版	2	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	002	渡辺美佐担当作業実施計画(II)	1968.6.27版	4	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	003	渡辺美佐担当作業実施計画(III)	1968.7.10版	4	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	004	渡辺美佐担当作業実施計画(IV)	1968.7.24版	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	005	渡辺美佐担当作業実施計画(V)	1968.11.4版	2	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	006	渡辺美佐担当作業実施計画(VI)	1968.11.19版	4	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	003	催し物企画の方針	003	関係会議	001	催し物プロデューサー会議	催し物プロデューサー会議議事録(第1～11回・第1～3回・第11回) 第1回催し物プロデューサースタッフ会議(議題他) 第2回催し物プロデューサースタッフ会議(記者会見) 第10回プロデューサー会議報告ならびに協議事項	1	F-5

資料Ⅰ：渡辺プロ収蔵目録（催し物プロデューサー②）

No.	大分類	No.	中分類	No.	タイトル	No.	文書名(or文書ファイル名)	No.	文書名	内容等	部数	種別
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	004	渡辺美佐プロデューサーNo.1	001	基本業務	作業について 業務範囲確認表 企画一覧表 催物スタッフ承諾書	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	004	渡辺美佐プロデューサーNo.1	002	海外折衝	催物企画海外折衝調査報告書 海外折衝メモ 渡辺美佐担当催し物企画海外折衝目的及び日程 フライトスケジュール<英>	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	004	渡辺美佐プロデューサーNo.1	003	書簡	<英・仏> 他	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	001	渡辺美佐担当作業実施計画(I)	1968.6.6版	2	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	002	渡辺美佐担当作業実施計画(II)	1968.6.27版	4	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	003	渡辺美佐担当作業実施計画(III)	1968.7.10版	4	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	004	渡辺美佐担当作業実施計画(IV)	1968.7.24版	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	005	渡辺美佐担当作業実施計画(V)	1968.11.4版	2	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	001	催し物プロデューサーの選考	005	渡辺美佐プロデューサーNo.2	006	渡辺美佐担当作業実施計画(VI)	1968.11.19版	4	F-5
15	催し物	09	催し物起家	001	基本構想関係起家	002	催し物プロデューサー関係起家書No.2	045	催し物プロデューサー渡辺美佐氏の海外出張について(個人)	1969.5.9(こピー)	1	F-11
15	催し物	09	催し物起家	007	契約関係起家	001	契約関係起家書No.1 万博ホーム催し物契約	006	催し物プロデューサー渡辺美佐に付与する権限(個人)		1	F-11
30	新聞記事	01	主題別スクラップ<目>	013	7000 万国博運営③ND/S/D、催し物、記念講演会		ポピュラー関係	001	前売り	渡辺美佐プロデューサーインタビュー 他	1	QD-1

別紙

資料 L：渡辺プロ収蔵目録（多目的ホール）

No.	大分類	No.	中分類	No.	タイトル	No.	文書名(or文書ファイル名)	No.	文書名	内容等	部数	備考		
11	出席参加	02	参加国政府代表会議等	001	政府代表会議 第1～4回	007	政府代表会議 第2回 資料<日>	023	お祭り広場・多目的ホール他	CGⅡ/PS/15-2	1	B-10		
15	催し物	01	催し物の基本構想	005	催し物出演者の宿泊と輸送	006	宿泊	006	万博ホール・水上ステージ・移動芸能	宿泊スケジュール(万博ホール・水上ステージ・移動芸能) タレント用宿泊施設必要表(多目的ホール・移動芸能) タレント宿泊施設必要表(多目的ホール・移動芸能) Expo Hall宿泊計画書(多目的ホール(期間別宿泊人数) Hall(企画別宿泊先一覧) 水上ステージ・移動芸能無料企画(企画別宿泊先一覧) 水上ステージ企画別宿泊先一覧<英> タレント宿泊施設必要表 Confirmation of accommodation Expo Hall	1	F-5		
15	催し物	05	万博ホール	003	万博ホール 催し物Ⅰ	002	催し物の企画No.2	001	催し物企画案	万博ホール企画案 各企画内容書 万博ホール催物企画内容企画内容一覧<日・英> 企画書 万博ホール催物他	1	F-9		
15	催し物	05	万博ホール	003	万博ホール 催し物Ⅰ	002	催し物の企画No.2	004	催し物1次企画案	万国博ホール企画1次案 第1次案 万国博ホール第1次企画案 多目的ホール第1次企画案(後継部) 万国博ホール企画1次案(第1案) 多目的ホール催物企画案(第1案)	1	F-9		
15	催し物	05	万博ホール	004	万博ホール 催し物Ⅱ	001	万博ホール有料催し物No.1	002	企画一覧	万国博ホール有料催し物企画案 多目的ホールの項目第2次案(後継部) 万国博ホール企画日程一覧表 日程一覧	1	F-9		
15	催し物	05	万博ホール	007	万博ホール 施設	001	万博ホール施設	001	万博ホール概要	施設概要 多目的ホール計画概要 万博ホールの概要 万博ホール内容 建設協力調整作業報告書 万博ホールの問題点	1	F-10		
15	催し物	09	催し物起案	005	万博ホール関係起案	002	万博ホール施設・設備関係起案書 ※「危険物取扱及びボイラー取扱主任者選任報告書の提出について(同)」→協会関係者万博ホール施設・設備関係起案書	002	多目的ホール放送施設に関する会議開催について(同)	1968.9.3	1	F-11		
15	催し物	09	催し物起案	005	万博ホール関係起案	002	万博ホール施設・設備関係起案書	003	多目的ホール貸館資料発送依頼について(同)	1968.9.24	1	F-11		
15	催し物	11	入場券	001	入場券販売	001	入場券の取扱い	004	1日以内周りで発生する収入について	1日以内周りで発生する収入部門(多目的ホール/市内劇場) アンケート項目 フロー図	1	F-12		
20	運営	06	通信と情報処理	008	第2情報処理システム	002	システム設計	001	催し物収入システム案	直営委託業務収入システム設計 催物の収入について(案) 直営委託業務収入システム設計(第3次案)(多目的ホール・しない劇場)	1	G-8		
22	報道・広報	01	報道	003	情報提供	043	記事発表 報道課 No.29 1968.7月分-1(1968.7.1～26)	016	万国博覧会多目的ホール計画概要(1968.7.20)	レクチャー配布資料(付写真2枚)	1	H-4		
22	報道・広報	01	報道	003	情報提供	053	記事発表 報道課 No.39 1968.12月分-1(1968.12.1～16)	006	万国博覧会多目的ホール計画概要(1968.12.4)	001	計画概要No.1	万国博覧会多目的ホール計画概要(1968.12.1)	1	H-4
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	001	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	001	計画概要No.1	万国博覧会多目的ホール計画概要(1968.12.1)	6	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	002	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	002	計画概要No.2	概要: EXPO'70 Expo Theatre(付模型写真)	24	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	003	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	003	演出構想	Expo Theatre: 多目的ホール演出構想のために(1968.7.16)	1	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	005	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	005	概要	多目的ホール(付模型写真)	1	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	002	設計委託No.1	000	多目的ホール設計委託(1967年度繰越分)	特記仕様書 委託業務一般仕様書 設計書 入札手続ならびに契約締結依頼書 引渡書 完成報告書 完成届 完成調書 前金払の理由 他	1	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	003	設計委託No.2	000	多目的ホール舞台装置設計(1967年度繰越分)	特記仕様書 委託業務一般仕様書 設計書 設計実施及び随意理由 作業日程表 着工届 引渡書 完成報告書 完成届 完成調書 他	1	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	007	万博ホール建設工事No.3	000	万国博多目的ホール新築工事監理委託 1968年度	工事管理業務委託要領 設計書 随意契約理由書 作業日程表 委託業務着工届 出来高検査願 出来高調査 設計変更理由書 変更設計書 引渡書 委託業務完成届 委託業務完成報告書 委託業務完成報告書 他	1	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	008	万博ホール建設工事No.4	000	万国博多目的ホール新築工事	電気設備工事共通仕様書 電気設備工事施工細則 分電盤基準 照明器具基準 機械設備工事共通仕様書 企業共同協定書 設計書 工事請負契約書(コピー) 入札状況調査 工程進捗表 工事概要 模型写真 工事工程表 着工届 引渡書 工事完成報告書 工事完成届 工事完成調書 他	1	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	009	万博ホール建設工事No.5	000	万国博多目的ホール新築工事限画	特記仕様書 仕上げリスト 図面	1	J-14		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	032	万博ホール建設工事図面No.2	000	万国博多目的ホール新築工事	建築デザイン	1	RD-2		
24	建設	06	基幹施設	006	シンボルゾーン内施設 ④万博ホール(水上ステージはL02湖にあり)	033	万博ホール建設工事図面No.3	000	多目的ホール(報道用)	(1968.5.8) No.1～5	1	RD-2		
24	建設	08	供給施設	003	電力供給施設	127	電気供給施設工事図面No.12	000	万国博多目的ホール新築工事 電気設備	図面	1	画		
24	建設	13	建設工事総括	002	建設関係起案	006	基幹施設関係起案書No.1	014	万国博多目的ホール新築工事の施工について	1969.3.28(コピー)	1	M-11		
24	建設	13	建設工事総括	002	建設関係起案	006	基幹施設関係起案書No.1 万博ホール	015	万国博多目的ホール新築工事の契約の供覧について	1968.7.4(コピー)	1	M-11		
29	その他資料	01	万博関係会議録	002	常任理事会	040	緊急常任理事会(1968.7.26)	002	緊急常任理事会提出資料	工事請負契約締結の件(多目的ホール他) 他	1	O-9		
30	新聞記事	01	主題別スクラップ<日>	008	4000 会場建設②各施設・労務 他 基礎施設	008	エキスポ劇場-万国博ホール(A)建設	000	多目的ホール起工式	(1968.8.10)	1	QB-4		

別紙

資料 L：渡辺プロ収蔵目録（万国ホール）の一部

No.	大分類	No.	中分類	No.	タイトル	No.	文書名(or文書ファイル名)	No.	文書名	内容等	部数	備考
11	出展参加	07	参加者への協力	010	音楽著作権	005	音楽使用報告書・会計資料	002	万博協会主催による音楽使用に関する報告書	フェスティバルホール、万博ホール、お祭り広場、野外劇場、場内移動演奏、水上ステージ、その他	1	C-11
13	式典と貴賓の来訪	03	ナショナル・デー スペシャル・デー	003	N.D./S.D.の概況	005	N.D./S.D.の概況 No.5	004	フランス1970.4.20	台本 催物計画表 業務報告(万博ホール使用中止について) フランス政府からの問合せ 他 業務分組表企画総務・運営総務	1	F-2
15	催し物	01	催し物の基本構想	003	催し物企画の方針	002	業務と運営	007	業務分組	万博ホール・L2ゾーン・移動芸術施設業務分組表	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	003	催し物企画の方針	002	業務と運営	008	業務実施	催物業務実施要領 万博ホール・水上ステージ・移動芸術施設の催物業務実施について	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	003	催し物企画の方針	002	業務と運営	011	運営方針	万博ホール・水上ステージ・移動芸術施設の運営方針 お祭り広場野外劇場催物企画・製作・運営作業規、費助への提言	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	005	催し物出演者の宿泊と輸送	006	催し物出演者の宿泊と輸送	006	万博ホール・水上ステージ・移動芸術	宿泊スケジュール(万博ホール・水上ステージ・移動芸術) タレント用宿泊施設必要表(多目的ホール・移動芸術) タレント用宿泊施設必要表(多目的ホール・移動芸術) Expo Hall用宿泊計画書 多目的ホール(期間別宿泊人数) Hall(企画別宿泊先一覧) 水上ステージ・移動芸術無料企画(企画別宿泊先一覧) 水上ステージ企画別宿泊先一覧(表) タレント宿泊施設必要表 Confirmation of accommodation, Expo Hall, 万博ホール・水上ステージ・移動芸術企画内容 企画基本計画表 企画数一覧 日程表 万博ホール・L2ゾーン・移動芸術日程表 水上ステージ・移動芸術スケジュール	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	006	催し物プログラム案	001	催し物案	006	万博ホール・水上ステージ・移動芸術	万博ホール・水上ステージ・移動芸術企画内容 企画基本計画表 企画数一覧 日程表 万博ホール・L2ゾーン・移動芸術日程表 水上ステージ・移動芸術スケジュール	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	006	催し物プログラム案	002	催し物日程表	003	日程及び場所(万博ホール・L2ゾーン・移動芸術)	万博ホール・水上ステージ・移動芸術スケジュール	1	F-5
15	催し物	01	催し物の基本構想	006	催し物プログラム案	002	催し物日程表	004	企画案(お祭り広場・万博ホール・野外劇場)	会場別の催物一覧表	1	F-5
15	催し物	04	フェスティバルホール	002	フェスティバルホール 催し物 I	002	フェスティバルホール 催し物 No.2 第1回日本国際映画祭(1)	003	企画・運営	業務分組表 会場改造についての打合せ 会場比較(万博ホール・フェスティバルホール) 準備状況事項聴取 フィルムの取扱について 日本国際映画祭執行計画表(表) 他	1	F-8
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	000	運営	業務分組表 会場改造についての打合せ 会場比較(万博ホール・フェスティバルホール) 準備状況事項聴取 フィルムの取扱いについて 日本国際映画祭執行計画表(表) 他	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	001	組織	組織図 組織及び人員配置図	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	002	運営	業務分組表 打合せ事項 仕様書	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	003	業務スケジュール	作業の状況と今後のスケジュール	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	004	防火対策	自衛消防訓練実施計画 吹田市消防本部の万博ホール立入り検査結果	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	005	拾得物	万博ホール拾得物預り書	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	006	業務報告	ホビュラ一課(1969.4~1970.1)	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	001	運営	007	広告・宣伝	万博ホールの取材方法について	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	000	業務委託	採録中の保存方法について 審判(表) モモ	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	001	業務委託-TES	TES<small>=	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	002	業務委託-物産	万国博ホール及びL2ゾーンに於ける催物の事業並びに会場内における移動芸術施設に付する業務委託に付する経費の支出について 催物準備業務仕様書(正書)	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	003	業務委託-備品制作整理	万博ホール舞台備品及び一般備品の設計並びに制作整理の委託について	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	004	業務委託-保守	業務委託(完成品) 万博ホール・水上ステージ舞台設備等保守業務 委託業務仕様書(表) 万博ホール・水上ステージ舞台設備等保守点検事項 完成品 業務実施計画表 他	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	005	業務委託-保安	業務仕様書(表) 保守業務委託(概要等) 完成図書	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	006	業務委託-清掃	会期直前清掃について 仕様書 タベストリー清掃の件	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	007	業務委託-美術演奏者	ヤマハ・ハモンド演奏目予定表 他	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	008	警備隊出動の要請(コピー)	5.9用 5.10~13用 5.11~13用 6.19用 6.12~16用 ウェスタン	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	009	警備隊出動の要請(コピー)	5.15~21用 3.15用 4.08~5.6用 5.2用 6.15~25用	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	010	ホール立見席の許可証(コピー)	4.3~5用 4.12~13用 4.14用 4.26~5.6用 5.6~7用 5.9~13用 5.16用 5.24用 6.19用 7.20.22.24用 6.29用 7.3~7用 7.11~15用 7.18~23用 7.27~29.8.1用 8.6用 8.7~10.12~16.18~19用 9.8~12用	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	001	万博ホール 基本計画	002	業務委託及各種届出	011	その他	確定寄附金届申請書 ホールの使用許可方について(依頼)(コピー)	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	002	万博ホール 入場券	001	入場券	000	入場券	入場料金等について Expo Hall program 入場料金・公演スケジュール 公演日程・料金一覧 万博ホール入場料金表 第1回発売万博ホール催物料金 万博ホール企画日程一覧表 演目別料金スケジュール表	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	002	万博ホール 入場券	001	入場券	001	入場料金	万国博ホールゲート料と万国博ホール入場券のセット料金について 万国博ホール入場券に対するゲート料特別取り扱い試案 座席の種類による売上試算 観客事項	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	002	万博ホール 入場券	001	入場券	002	ゲート料とのセット料金	万国博ホールゲート料と万国博ホール入場券のセット料金について 万国博ホール入場券に対するゲート料特別取り扱い試案 座席の種類による売上試算 観客事項	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	002	万博ホール 入場券	001	入場券	003	料金試算	サミー・ディビッド・ジュニアショー	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	002	万博ホール 入場券	001	入場券	004	料金及び座席数		1	F-9

別紙

資料 L：渡辺プロ収蔵目録（海外アーティスト資料）の一部

No.	大分類	No.	No.	タイトル	No.	文書名(or文書ファイル名)	No.	文書名	内容等	部数	備考
サミー・ディビス・ジュニア											
15	催し物	05	万博ホール	002	万博ホール 入場券 万博ホール 入場券	001	入場券 入場券	004	料金及び座席数 サミー・ディビス・ジュニアショー - レコード祭り (半券) キューバン・カーニバル(半券) ロッテ 歌のアルバム(景・税)	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	002	入場税			008	入場券使用済・入場整理券 サミー・ディビス・ジュニア・ショー - スウィングル・シンガーズ・ キューバン・カーニバル・メ リリー・ポプキンス・ショー	1	F-9
15	催し物	16	税金	002	入場税			004	催物入場税非課税申請書(原紙・コピー)(サ ミー・ディビス・ジュニア・ショー/スウィングル シンガーズ/キューバン・カーニバル/メリー ポプキンス・ショー) 通商産業省証明書(原 紙・コピー)	1	F-12
15	催し物	05	万博ホール	002	入場税			010	入場税興行終了申告・申請書(サミー・デビ ス・ジュニア・ショー/サンレモ音楽祭 EXPO'70/セリジオ・メンデスとブラジル'66/万 国博レコード祭り/ジル・ペール・ベコー・ショー/ アンディ・ウィリアム・ショー/ミュージカル!赤 毛のアン!・北方ロシア合戦団)	1	F-12
15	催し物	05	万博ホール	002	万博ホール 入場券 万博ホール 入場券	001	入場券 入場券	004	料金及び座席数 サミー・ディビス・ジュニアショー - 他 サミー・ディビス・ジュニア・ショー - レコード祭り (半券) キューバン・カーニバル(半券) ロッテ 歌のアルバム(景・税)	1	F-9
15	催し物	05	万博ホール	002	入場税			008	入場券使用済・入場整理券 サミー・ディビス・ジュニア・ショー・ スウィングル・シンガーズ・ キューバン・カーニバル・メ リリー・ポプキンス・ショー	1	F-9
15	催し物	16	税金	002	入場税			004	催物入場税非課税申請書(原紙・コピー)(サ ミー・ディビス・ジュニア・ショー/スウィングル シンガーズ/キューバン・カーニバル/メリー ポプキンス・ショー) 通商産業省証明書(原 紙・コピー)	1	F-12
15	催し物	05	万博ホール	002	入場税			010	入場税興行終了申告・申請書(サミー・デビ ス・ジュニア・ショー/サンレモ音楽祭 EXPO'70/セリジオ・メンデスとブラジル'66/万 国博レコード祭り/ジル・ペール・ベコー・ショー/ アンディ・ウィリアム・ショー/ミュージカル!赤 毛のアン!・北方ロシア合戦団)	1	F-12
セルジオ・メンデスとブラジル'66/ボサ・ノヴァ											
15	催し物	05	万博ホール	004	万博ホール 催し物Ⅱ	003	万博ホール 有料催し物No.3	002	セルジオ・メンデスとブラジル'66(4.4 -4.5) 座席表・裏紙(景・税)	1	F-11
15	催し物	09	催し物起案	009	催し物起案	001	基本計画及び催し物関係起案書	016	座席表の提出について(問)	1	F-11
15	催し物	09	催し物起案	009	税金関係起案	001	入場税関係起案書	020	通商産業大臣への催物入場税非課 税申請書提出について	1	F-11
15	催し物	09	催し物起案	009	税金関係起案	001	入場税関係起案書	021	通商産業大臣への催物入場税非課 税申請書提出について	1	F-11
15	催し物	09	催し物起案	009	税金関係起案	001	入場税関係起案書	022	通商産業大臣への催物入場税非課 税申請書提出について	1	F-11
15	催し物	09	催し物起案	009	税金関係起案	001	入場税関係起案書	033	開行開催申請書の提出について	1	F-11
15	催し物	09	催し物起案	010	会計関係起案	005	万博ホール・水上ステージ関係会計起案書 No.1	018	万博ホールにおける有料公演の披露 の儀の議決について	1	F-11
15	催し物	15	契約	004	契約・万博ホール	002	セルジオ・メンデスとブラジル'66 No.32 (3.27 第6号) セリジオ・メン デスとブラジル'66	002	契約書(原本) 書簡(景・税)	1	F-12
22	報道・広報	01	報道	003	情報提供		催物契約 No.1	002	No.32 (3.27 第6号) セリジオ・メン デスとブラジル'66	1	H-7
30	新聞記事	01	主題別スクラ ップ(日)	013	7000 万国博運営3N.D./S.D. 催 し物、記念講演会			001	セルジオ・メンデスとブラジル'66(4.4 -5)	1	QD-1
アンディ・ウィリアム・ショー/オズモンド・ブラザーズ											
15	催し物	05	万博ホール	004	万博ホール 催し物Ⅱ	003	万博ホール 有料催し物No.3	005	アンディ・ウィリアム・ショー(5.10~ 5.13) パンフレット 演奏曲目報告書(コピー) 曲目	1	F-9
22	報道・広報	01	報道	003	情報提供			018	Expo'70 Popular News No.7(1970.5.7)	1	H-5
22	報道・広報	01	報道	004	取材協力(一般)			024	アンディ・ウィリアム・ショー - 記者会 見及び取材について	1	H-9
30	新聞記事	01	主題別スクラ ップ(日)	013	7000 万国博運営3N.D./S.D. 催 し物、記念講演会			014	アンディ・ウィリアム・ショー(5.10~ 5.13) にしきのあきらみビデオ	1	QD-1
15	催し物	05	万博ホール	003	万博ホール 催し物Ⅰ	008	ニュース関係(EXPO'70 Popular News)	008	EXPO'70 Popular News (1970.5.8) アンディ・ウィリアム・ショー(ゲスト:オズモ ンド・ブラザーズ)	1	F-9
サンレモ音楽祭EXPO'70											
15	催し物	09	催し物起案	009	通関関係起案	001	通関関係起案書	021	サンレモ音楽祭の通関関係の提出に ついて(問)	1	F-11
15	催し物	16	税金	002	入場税			010	入場税興行終了申告・申請書(サミー・デビ ス・ジュニア・ショー/サンレモ音楽祭 EXPO'70/セリジオ・メンデスとブラジル'66/万 国博レコード祭り/ジル・ペール・ベコー・ショー/ アンディ・ウィリアム・ショー/ミュージカル!赤 毛のアン!・北方ロシア合戦団)	1	F-

別紙

資料 L：渡辺プロ收藏目録（渡辺美佐プロデュースイベントその他）

No.	大分類	No.	No.	タイトル	No.	文書名(or文書ファイル名)	No.	文書名	内容等	部数	備考
放送部EXPO70 (放送関係)											
15	催し物	05	万博ホール	万博ホール 催し物 第1 万博ホール 催し物 第1	002	万博ホール無料催し物No.2	002	放送部EXPO70/24～43	プログラム、情報提供、情報会議内容、放送設備への募集、参加申込書(歌のグランプリ)、ロケ撮影のアルバム、万国博(パシフィコ)ショー・ミュージックフェア・明色歌うターばんざい・タヌーモのまね歌合戦・ジャパン玉手箱(歌の祭典) 万国びつりショー(資料)採火の使用の許可申請書・写真・過去出場演目一覧表	1	F-10
15	催し物	05	万博ホール		005	万博ホール無料催し物No.2	003	放送部EXPO70/24～43(催し物個別資料)		1	F-10
22	報道・広報	01	報道		003	情報提供	082	記事発表・報道課 No.68 (1970.1月7日分～1970.1.21～31)	放送部 他(付写真7枚)	1	H-5
22	報道・広報	01	報道		003	情報提供	017	No.17 (3.21 第2号) 放送部のプログラム	ロック歌謡のアルバム、シモノ・ミュージック・フェア 他	1	9-3
22	報道・広報	01	報道		003	情報提供	024	No.24 (3.23 第4号) 放送部の人間について	各報の公開放送	1	H-7
万国博・ワールド博り (ワールド会社関係)											
				入場観			010	興行終了申告書	入場観覧終了申告・申請書(オーディエンス・ジュニア・ショー・サンレモ音楽祭EXPO70/セルジオマナスとブラジルの万国博レコード祭り・ジル・ベレー・ペコー・ショー・アン・ウィリアム・ショー・ミュージカル「赤毛のアン」北方向合戦場別、	1	F-12
22	報道・広報	01	報道		003	情報提供	080	No.60 (4.25 第7号) 万国博レシーショー	三沢英次 他	1	9-3
万国博・パシフィコ・パシフィック・パシフィック(パシフィック関係)											
15	催し物	05	万博ホール	万博ホール 催し物 第1	005	万博ホール無料催し物No.3	003	全国ヤング歌謡フェスティバル(5.9)	音楽曲目録音楽「第1」第2「プログラム」第3「音楽」第4「音楽」第5「音楽」第6「音楽」第7「音楽」第8「音楽」第9「音楽」第10「音楽」第11「音楽」第12「音楽」第13「音楽」第14「音楽」第15「音楽」第16「音楽」第17「音楽」第18「音楽」第19「音楽」第20「音楽」第21「音楽」第22「音楽」第23「音楽」第24「音楽」第25「音楽」第26「音楽」第27「音楽」第28「音楽」第29「音楽」第30「音楽」第31「音楽」第32「音楽」第33「音楽」第34「音楽」第35「音楽」第36「音楽」第37「音楽」第38「音楽」第39「音楽」第40「音楽」第41「音楽」第42「音楽」第43「音楽」第44「音楽」第45「音楽」第46「音楽」第47「音楽」第48「音楽」第49「音楽」第50「音楽」第51「音楽」第52「音楽」第53「音楽」第54「音楽」第55「音楽」第56「音楽」第57「音楽」第58「音楽」第59「音楽」第60「音楽」第61「音楽」第62「音楽」第63「音楽」第64「音楽」第65「音楽」第66「音楽」第67「音楽」第68「音楽」第69「音楽」第70「音楽」第71「音楽」第72「音楽」第73「音楽」第74「音楽」第75「音楽」第76「音楽」第77「音楽」第78「音楽」第79「音楽」第80「音楽」第81「音楽」第82「音楽」第83「音楽」第84「音楽」第85「音楽」第86「音楽」第87「音楽」第88「音楽」第89「音楽」第90「音楽」第91「音楽」第92「音楽」第93「音楽」第94「音楽」第95「音楽」第96「音楽」第97「音楽」第98「音楽」第99「音楽」第100「音楽」第101「音楽」第102「音楽」第103「音楽」第104「音楽」第105「音楽」第106「音楽」第107「音楽」第108「音楽」第109「音楽」第110「音楽」第111「音楽」第112「音楽」第113「音楽」第114「音楽」第115「音楽」第116「音楽」第117「音楽」第118「音楽」第119「音楽」第120「音楽」第121「音楽」第122「音楽」第123「音楽」第124「音楽」第125「音楽」第126「音楽」第127「音楽」第128「音楽」第129「音楽」第130「音楽」第131「音楽」第132「音楽」第133「音楽」第134「音楽」第135「音楽」第136「音楽」第137「音楽」第138「音楽」第139「音楽」第140「音楽」第141「音楽」第142「音楽」第143「音楽」第144「音楽」第145「音楽」第146「音楽」第147「音楽」第148「音楽」第149「音楽」第150「音楽」第151「音楽」第152「音楽」第153「音楽」第154「音楽」第155「音楽」第156「音楽」第157「音楽」第158「音楽」第159「音楽」第160「音楽」第161「音楽」第162「音楽」第163「音楽」第164「音楽」第165「音楽」第166「音楽」第167「音楽」第168「音楽」第169「音楽」第170「音楽」第171「音楽」第172「音楽」第173「音楽」第174「音楽」第175「音楽」第176「音楽」第177「音楽」第178「音楽」第179「音楽」第180「音楽」第181「音楽」第182「音楽」第183「音楽」第184「音楽」第185「音楽」第186「音楽」第187「音楽」第188「音楽」第189「音楽」第190「音楽」第191「音楽」第192「音楽」第193「音楽」第194「音楽」第195「音楽」第196「音楽」第197「音楽」第198「音楽」第199「音楽」第200「音楽」第201「音楽」第202「音楽」第203「音楽」第204「音楽」第205「音楽」第206「音楽」第207「音楽」第208「音楽」第209「音楽」第210「音楽」第211「音楽」第212「音楽」第213「音楽」第214「音楽」第215「音楽」第216「音楽」第217「音楽」第218「音楽」第219「音楽」第220「音楽」第221「音楽」第222「音楽」第223「音楽」第224「音楽」第225「音楽」第226「音楽」第227「音楽」第228「音楽」第229「音楽」第230「音楽」第231「音楽」第232「音楽」第233「音楽」第234「音楽」第235「音楽」第236「音楽」第237「音楽」第238「音楽」第239「音楽」第240「音楽」第241「音楽」第242「音楽」第243「音楽」第244「音楽」第245「音楽」第246「音楽」第247「音楽」第248「音楽」第249「音楽」第250「音楽」第251「音楽」第252「音楽」第253「音楽」第254「音楽」第255「音楽」第256「音楽」第257「音楽」第258「音楽」第259「音楽」第260「音楽」第261「音楽」第262「音楽」第263「音楽」第264「音楽」第265「音楽」第266「音楽」第267「音楽」第268「音楽」第269「音楽」第270「音楽」第271「音楽」第272「音楽」第273「音楽」第274「音楽」第275「音楽」第276「音楽」第277「音楽」第278「音楽」第279「音楽」第280「音楽」第281「音楽」第282「音楽」第283「音楽」第284「音楽」第285「音楽」第286「音楽」第287「音楽」第288「音楽」第289「音楽」第290「音楽」第291「音楽」第292「音楽」第293「音楽」第294「音楽」第295「音楽」第296「音楽」第297「音楽」第298「音楽」第299「音楽」第300「音楽」第301「音楽」第302「音楽」第303「音楽」第304「音楽」第305「音楽」第306「音楽」第307「音楽」第308「音楽」第309「音楽」第310「音楽」第311「音楽」第312「音楽」第313「音楽」第314「音楽」第315「音楽」第316「音楽」第317「音楽」第318「音楽」第319「音楽」第320「音楽」第321「音楽」第322「音楽」第323「音楽」第324「音楽」第325「音楽」第326「音楽」第327「音楽」第328「音楽」第329「音楽」第330「音楽」第331「音楽」第332「音楽」第333「音楽」第334「音楽」第335「音楽」第336「音楽」第337「音楽」第338「音楽」第339「音楽」第340「音楽」第341「音楽」第342「音楽」第343「音楽」第344「音楽」第345「音楽」第346「音楽」第347「音楽」第348「音楽」第349「音楽」第350「音楽」第351「音楽」第352「音楽」第353「音楽」第354「音楽」第355「音楽」第356「音楽」第357「音楽」第358「音楽」第359「音楽」第360「音楽」第361「音楽」第362「音楽」第363「音楽」第364「音楽」第365「音楽」第366「音楽」第367「音楽」第368「音楽」第369「音楽」第370「音楽」第371「音楽」第372「音楽」第373「音楽」第374「音楽」第375「音楽」第376「音楽」第377「音楽」第378「音楽」第379「音楽」第380「音楽」第381「音楽」第382「音楽」第383「音楽」第384「音楽」第385「音楽」第386「音楽」第387「音楽」第388「音楽」第389「音楽」第390「音楽」第391「音楽」第392「音楽」第393「音楽」第394「音楽」第395「音楽」第396「音楽」第397「音楽」第398「音楽」第399「音楽」第400「音楽」第401「音楽」第402「音楽」第403「音楽」第404「音楽」第405「音楽」第406「音楽」第407「音楽」第408「音楽」第409「音楽」第410「音楽」第411「音楽」第412「音楽」第413「音楽」第414「音楽」第415「音楽」第416「音楽」第417「音楽」第418「音楽」第419「音楽」第420「音楽」第421「音楽」第422「音楽」第423「音楽」第424「音楽」第425「音楽」第426「音楽」第427「音楽」第428「音楽」第429「音楽」第430「音楽」第431「音楽」第432「音楽」第433「音楽」第434「音楽」第435「音楽」第436「音楽」第437「音楽」第438「音楽」第439「音楽」第440「音楽」第441「音楽」第442「音楽」第443「音楽」第444「音楽」第445「音楽」第446「音楽」第447「音楽」第448「音楽」第449「音楽」第450「音楽」第451「音楽」第452「音楽」第453「音楽」第454「音楽」第455「音楽」第456「音楽」第457「音楽」第458「音楽」第459「音楽」第460「音楽」第461「音楽」第462「音楽」第463「音楽」第464「音楽」第465「音楽」第466「音楽」第467「音楽」第468「音楽」第469「音楽」第470「音楽」第471「音楽」第472「音楽」第473「音楽」第474「音楽」第475「音楽」第476「音楽」第477「音楽」第478「音楽」第479「音楽」第480「音楽」第481「音楽」第482「音楽」第483「音楽」第484「音楽」第485「音楽」第486「音楽」第487「音楽」第488「音楽」第489「音楽」第490「音楽」第491「音楽」第492「音楽」第493「音楽」第494「音楽」第495「音楽」第496「音楽」第497「音楽」第498「音楽」第499「音楽」第500「音楽」第501「音楽」第502「音楽」第503「音楽」第504「音楽」第505「音楽」第506「音楽」第507「音楽」第508「音楽」第509「音楽」第510「音楽」第511「音楽」第512「音楽」第513「音楽」第514「音楽」第515「音楽」第516「音楽」第517「音楽」第518「音楽」第519「音楽」第520「音楽」第521「音楽」第522「音楽」第523「音楽」第524「音楽」第525「音楽」第526「音楽」第527「音楽」第528「音楽」第529「音楽」第530「音楽」第531「音楽」第532「音楽」第533「音楽」第534「音楽」第535「音楽」第536「音楽」第537「音楽」第538「音楽」第539「音楽」第540「音楽」第541「音楽」第542「音楽」第543「音楽」第544「音楽」第545「音楽」第546「音楽」第547「音楽」第548「音楽」第549「音楽」第550「音楽」第551「音楽」第552「音楽」第553「音楽」第554「音楽」第555「音楽」第556「音楽」第557「音楽」第558「音楽」第559「音楽」第560「音楽」第561「音楽」第562「音楽」第563「音楽」第564「音楽」第565「音楽」第566「音楽」第567「音楽」第568「音楽」第569「音楽」第570「音楽」第571「音楽」第572「音楽」第573「音楽」第574「音楽」第575「音楽」第576「音楽」第577「音楽」第578「音楽」第579「音楽」第580「音楽」第581「音楽」第582「音楽」第583「音楽」第584「音楽」第585「音楽」第586「音楽」第587「音楽」第588「音楽」第589「音楽」第590「音楽」第591「音楽」第592「音楽」第593「音楽」第594「音楽」第595「音楽」第596「音楽」第597「音楽」第598「音楽」第599「音楽」第600「音楽」第601「音楽」第602「音楽」第603「音楽」第604「音楽」第605「音楽」第606「音楽」第607「音楽」第608「音楽」第609「音楽」第610「音楽」第611「音楽」第612「音楽」第613「音楽」第614「音楽」第615「音楽」第616「音楽」第617「音楽」第618「音楽」第619「音楽」第620「音楽」第621「音楽」第622「音楽」第623「音楽」第624「音楽」第625「音楽」第626「音楽」第627「音楽」第628「音楽」第629「音楽」第630「音楽」第631「音楽」第632「音楽」第633「音楽」第634「音楽」第635「音楽」第636「音楽」第637「音楽」第638「音楽」第639「音楽」第640「音楽」第641「音楽」第642「音楽」第643「音楽」第644「音楽」第645「音楽」第646「音楽」第647「音楽」第648「音楽」第649「音楽」第650「音楽」第651「音楽」第652「音楽」第653「音楽」第654「音楽」第655「音楽」第656「音楽」第657「音楽」第658「音楽」第659「音楽」第660「音楽」第661「音楽」第662「音楽」第663「音楽」第664「音楽」第665「音楽」第666「音楽」第667「音楽」第668「音楽」第669「音楽」第670「音楽」第671「音楽」第672「音楽」第673「音楽」第674「音楽」第675「音楽」第676「音楽」第677「音楽」第678「音楽」第679「音楽」第680「音楽」第681「音楽」第682「音楽」第683「音楽」第684「音楽」第685「音楽」第686「音楽」第687「音楽」第688「音楽」第689「音楽」第690「音楽」第691「音楽」第692「音楽」第693「音楽」第694「音楽」第695「音楽」第696「音楽」第697「音楽」第698「音楽」第699「音楽」第700「音楽」第701「音楽」第702「音楽」第703「音楽」第704「音楽」第705「音楽」第706「音楽」第707「音楽」第708「音楽」第709「音楽」第710「音楽」第711「音楽」第712「音楽」第713「音楽」第714「音楽」第715「音楽」第716「音楽」第717「音楽」第718「音楽」第719「音楽」第720「音楽」第721「音楽」第722「音楽」第723「音楽」第724「音楽」第725「音楽」第726「音楽」第727「音楽」第728「音楽」第729「音楽」第730「音楽」第731「音楽」第732「音楽」第733「音楽」第734「音楽」第735「音楽」第736「音楽」第737「音楽」第738「音楽」第739「音楽」第740「音楽」第741「音楽」第742「音楽」第743「音楽」第744「音楽」第745「音楽」第746「音楽」第747「音楽」第748「音楽」第749「音楽」第750「音楽」第751「音楽」第752「音楽」第753「音楽」第754「音楽」第755「音楽」第756「音楽」第757「音楽」第758「音楽」第759「音楽」第760「音楽」第761「音楽」第762「音楽」第763「音楽」第764「音楽」第765「音楽」第766「音楽」第767「音楽」第768「音楽」第769「音楽」第770「音楽」第771「音楽」第772「音楽」第773「音楽」第774「音楽」第775「音楽」第776「音楽」第777「音楽」第778「音楽」第779「音楽」第780「音楽」第781「音楽」第782「音楽」第783「音楽」第784「音楽」第785「音楽」第786「音楽」第787「音楽」第788「音楽」第789「音楽」第790「音楽」第791「音楽」第792「音楽」第793「音楽」第794「音楽」第795「音楽」第796「音楽」第797「音楽」第798「音楽」第799「音楽」第800「音楽」第801「音楽」第802「音楽」第803「音楽」第804「音楽」第805「音楽」第806「音楽」第807「音楽」第808「音楽」第809「音楽」第810「音楽」第811「音楽」第812「音楽」第813「音楽」第814「音楽」第815「音楽」第816「音楽」第817「音楽」第818「音楽」第819「音楽」第820「音楽」第821「音楽」第822「音楽」第823「音楽」第824「音楽」第825「音楽」第826「音楽」第827「音楽」第828「音楽」第829「音楽」第830「音楽」第831「音楽」第832「音楽」第833「音楽」第834「音楽」第835「音楽」第836「音楽」第837「音楽」第838「音楽」第839「音楽」第840「音楽」第841「音楽」第842「音楽」第843「音楽」第844「音楽」第845「音楽」第846「音楽」第847「音楽」第848「音楽」第849「音楽」第850「音楽」第851「音楽」第852「音楽」第853「音楽」第854「音楽」第855「音楽」第856「音楽」第857「音楽」第858「音楽」第859「音楽」第860「音楽」第861「音楽」第862「音楽」第863「音楽」第864「音楽」第865「音楽」第866「音楽」第867「音楽」第868「音楽」第869「音楽」第870「音楽」第871「音楽」第872「音楽」第873「音楽」第874「音楽」第875「音楽」第876「音楽」第877「音楽」第878「音楽」第879「音楽」第880「音楽」第881「音楽」第882「音楽」第883「音楽」第884「音楽」第885「音楽」第886「音楽」第887「音楽」第888「音楽」第889「音楽」第890「音楽」第891「音楽」第892「音楽」第893「音楽」第894「音楽」第895「音楽」第896「音楽」第897「音楽」第898「音楽」第899「音楽」第900「音楽」第901「音楽」第902「音楽」第903「音楽」第904「音楽」第905「音楽」第906「音楽」第907「音楽」第908「音楽」第909「音楽」第910「音楽」第911「音楽」第912「音楽」第913「音楽」第914「音楽」第915「音楽」第916「音楽」第917「音楽」第918「音楽」第919「音楽」第920「音楽」第921「音楽」第922「音楽」第923「音楽」第924「音楽」第925「音楽」第926「音楽」第927「音楽」第928「音楽」第929「音楽」第930「音楽」第931「音楽」第932「音楽」第933「音楽」第934「音楽」第935「音楽」第936「音楽」第937「音楽」第938「音楽」第939「音楽」第940「音楽」第941「音楽」第942「音楽」第943「音楽」第944「音楽」第945「音楽」第946「音楽」第947「音楽」第948「音楽」第949「音楽」第950「音楽」第951「音楽」第952「音楽」第953「音楽」第954「音楽」第955「音楽」第956「音楽」第957「音楽」第958「音楽」第959「音楽」第960「音楽」第961「音楽」第962「音楽」第963「音楽」第964「音楽」第965「音楽」第966「音楽」第967「音楽」第968「音楽」第969「音楽」第970「音楽」第971「音楽」第972「音楽」第973「音楽」第974「音楽」第975「音楽」第976「音楽」第977「音楽」第978「音楽」第979「音楽」第980「音楽」第981「音楽」第982「音楽」第983「音楽」第984「音楽」第985「音楽」第986「音楽」第987「音楽」第988「音楽」第989「音楽」第990「音楽」第991「音楽」第992「音楽」第993「音楽」第994「音楽」第995「音楽」第996「音楽」第997「音楽」第998「音楽」第999「音楽」第1000「音楽」第1001「音楽」第1002「音楽」第1003「音楽」第1004「音楽」第1005「音楽」第1006「音楽」第1007「音楽」第1008「音楽」第1009「音楽」第1010「音楽」第1011「音楽」第1012「音楽」第1013「音楽」第1014「音楽」第1015「音楽」第1016「音楽」第1017「音楽」第1018「音楽」第1019「音楽」第1020「音楽」第1021「音楽」第1022「音楽」第1023「音楽」第1024「音楽」第1025「音楽」第1026「音楽」第1027「音楽」第1028「音楽」第1029「音楽」第1030「音楽」第1031「音楽」第1032「音楽」第1033「音楽」第1034「音楽」第1035「音楽」第1036「音楽」第1037「音楽」第1038「音楽」第1039「音楽」第1040「音楽」第1041「音楽」第1042「音楽」第1043「音楽」第1044「音楽」第1045「音楽」第1046「音楽」第1047「音楽」第1048「音楽」第1049「音楽」第1050「音楽」第1051「音楽」第1052「音楽」第1053「音楽」第1054「音楽」第1055「音楽」第1056「音楽」第1057「音楽」第1058「音楽」第1059「音楽」第1060「音楽」第1061「音楽」第1062「音楽」第1063「音楽」第1064「音楽」第1065「音楽」第1066「音楽」第1067「音楽」第1068「音楽」第1069「音楽」第1070「音楽」第1071「音楽」第1072「音楽」第1073「音楽」第1074「音楽」第1075「音楽」第1076「音楽」第1077「音楽」第1078「音楽」第1079「音楽」第1080「音楽」第1081「音楽」第1082「音楽」第1083「音楽」第1084「音楽」第1085「音楽」第1086「音楽」第1087「音楽」第1088「音楽」第1089「音楽」第1090「音楽」第1091「音楽」第1092「音楽」第1093「音楽」第1094「音楽」第1095「音楽」第1096「音楽」第1097「音楽」第1098「音楽」第1099「音楽」第1100「音楽」第1101「音楽」第1102「音楽」第1103「音楽」第1104「音楽」第1105「音楽」第1106「音楽」第1107「音楽」第1108「音楽」第1109「音楽」第1110「音楽」第1111「音楽」第1112「音楽」第1113「音楽」第1114「音楽」第1115「音楽」第1116「音楽」第1117「音楽」第1118「音楽」第1119「音楽」第1120「音楽」第1121「音楽」第1122「音楽」第1123「音楽」第1124「音楽」第1125「音楽」第1126「音楽」第1127「音楽」第1128「音楽」第1129「音楽」第1130「音楽」第1131「音楽」第1132「音楽」第1133「音楽」第1134「音楽」第1135「音楽」第1136「音楽」第1137「音楽」第1138「音楽」第1139「音楽」第1140「音楽」第1141「音楽」第1142「音楽」第1143「音楽」第1144「音楽」第1145「音楽」第1146「音楽」第1147「音楽」第1148「音楽」第1149「音楽」第1150「音楽」第1151「音楽」第1152「音楽」第1153「音楽」第1154「音楽」第1155「音楽」第1156「音楽」第1157「音楽」第1158「音楽」第1159「音楽」第1160「音楽」第1161「音楽」第1162「音楽」第1163「音楽」第1164「音楽」第1165「音楽」第1166「音楽」第1167「音楽」第1168「音楽」第1169「音楽」第1170「音楽」第1171「音楽」第1172「音楽」第1173「音楽」第1174「音楽」第1175「音楽」第1176「音楽」第1177「音楽」第1178「音楽」第1179「音楽」第1180「音楽」第1181「音楽」第1182「音楽」第1183「音楽」第1184「音楽」第1185「音楽」第1186「音楽」第1187「音楽」第1188「音楽」第1189「音楽」第1190「音楽」第1191「音楽」第1192「音楽」第1193「音楽」第1194「音楽」第1195「音楽」第1196「音楽」第1197「音楽」第1198「音楽」第1199「音楽」第1200「音楽」第1201「音楽」第1202「音楽」第1203「音楽」第1204「音楽」第1205「音楽」第1206「音楽」第1207「音楽」第1208「音楽」第1209「音楽」第1210「音楽」第1211「音楽」第1212「音楽」第1213「音楽」第1214「音楽」第1215「音楽」第1216「音楽」第1217「音楽」第1218「音楽」第1219「音楽」第1220「音楽」第1221「音楽」第1222「音楽」第1223「音楽」第1224「音楽」第1225「音楽」第1226「音楽」第1227「音楽」第1228「音楽」第1229「音楽」第1230「音楽」第1231「音楽」第1232「音楽」第1233「音楽」第1234「音楽」第1235「音楽」第1236「音楽」第1237「音楽」第1238「音楽」第1239「音楽」第1240「音楽」第1241「音楽」第1242「音楽」第1243「音楽」第1244「音楽」第1245「音楽」第1246「音楽」第1247「音楽」第1248「音楽」第1249「音楽」第1250「音楽」第1251「音楽」第1252「音楽」第1253「音楽」第1254「音楽」第1255「音楽」第1256「音楽」第1257「音楽」第1258「音楽」第1259「音楽」第1260「音楽」第1261「音楽」第1262「音楽」第1263「音楽」第1264「音楽」第1265「音楽」第1266「音楽」第1267「音楽」第1268「音楽」第1269「音楽」第1270「音楽」第1271「音楽」第1272「音楽」第1273「音楽」第1274「音楽」第1275「音楽」第1276「音楽」第1277「音楽」第1278「音楽」第1279「音楽」第1280「音楽」第1281「音楽」第1282「音楽」第1283「音楽」第1284「音楽」第1285「音楽」第1286「音楽」第1287「音楽」第1288「音楽」第1289「音楽」第1290「音楽」第1291「音楽」第1292「音楽」第1293「音楽」第1294「音楽」第1295「音楽」第1296「音楽」第1297「音楽」第1298「音楽」第1299「音楽」第1300「音楽」第1301「音楽」第1302「音楽」第1303「音楽」第1304「音楽」第1305「音楽」第1306「音楽」第1307「音楽」第1308「音楽」第1309「音楽」第1310「音楽」第1311「音楽」第1312「音楽」第1313「音楽」第1314「音楽」第1315「音楽」第1316「音楽」第1317「音楽」第1318「音楽」第1319「音楽」第1320「音楽」第1321「音楽」第1322「音楽」第1323「音楽」第1324「音楽」第1325「音楽」第1326「音楽」第1327「音楽」第1328「音楽」第1329「音楽」第1330「音楽」第1331「音楽」第1332「音楽」第1333「音楽」第1334「音楽」第1335「音楽」第1336「音楽」第1337「音楽」第1338「音楽」第1339「音楽」第1340「音楽」第1341「音楽」第1342「音楽」第1343「音楽」第1344「音楽」第1345「音楽」第1346「音楽」第1347「音楽」第1348「音楽」第1349「音楽」第1350「音楽」第1351「音楽」第1352「音楽」第1353「音楽」第1354「音楽」第1355「音楽」第1356「音楽」第1357「音楽」第1358「音楽」第1359「音楽」第1360「音楽」第1361「音楽」第1362「音楽」第1363「音楽」第1364「音楽」第1365「音楽」第1366「音楽」第1367「音楽」第1368「音楽」第1369「音楽」第1370「音楽」第1371「音楽」第1372「音楽」第1373「音楽」第1374「音楽」第1375「音楽」第1376「音楽」第1377「音楽」第1378「音楽」第1379「音楽」第1380「音楽」第1381「音楽」第1382「音楽」第1383「音楽」第1384「音楽」第1385「音楽」第1386「音楽」第1387「音楽」第1388「音楽」第1389「音楽」第1390「音楽」第1391「音楽」第1392「音楽」第1393「音楽」第1394「音楽」第1395「音楽」第1396「音楽」第1397「音楽」第1398「音楽」第1399「音楽」第1400「音楽」第1401「音楽」第1402「音楽」第1403「音楽」第1404「音楽」第1405「音楽」第1406「音楽」第1407「音楽」第1408「音楽」第1409「音楽」第1410「音楽」第1411「音楽」第1412「音楽」第1413「音楽」第1414「音楽」第1415「音楽」第1416「音楽」第1417「音楽」第1418「音楽」第1419「音楽」第1420「音楽」第1421「音楽」第1422「音楽」第1423「音楽」第1424「音楽」第1425「音楽」第1426「音楽」第1427「音楽」第1428「音楽」第1429「音楽」第1430「音楽」第1431「音楽」第1432「音楽」第1433「音楽」第1434「音楽」第1435「音楽」第1436「音楽」第1437「音楽」第1438「音楽」第1439「音楽」第1440「音楽」第1441「音楽」第1442「音楽」第1443「音楽」第1444「音楽」第1445「音楽」第1446「音楽」第1447「音楽」第1448「音楽」第1449「音楽」第1450「音楽」第1451「音楽」第1452「音楽」第1453「音楽」第1454「音楽」第1455「音楽」第1456「音楽」第1457「音楽」第1458「音楽」第1459「音楽」第1460「音楽」第1461「音楽」第1462「音楽」第1463「音楽」第1464「音楽」第1465「音楽」第1466「音楽」第1467「音楽」第1468「音楽」第1469「音楽」第1470「音楽」第1471「音楽」第1472「音楽」第1473「音楽」第1474「音楽」第1475「音楽」第1476「音楽」第1477「音楽」第1478「音楽」第1479「音楽」第1480「音楽」第1481「音楽」第1482「音楽」第1483「音楽」第1484「音楽」第1485「音楽」第1486「音楽」第1487「音楽」第1488「音楽」第1489「音楽」第1490「音楽」第1491「音楽」第1492「音楽」第1493「音楽」第1494「音楽」第1495「音楽」第1496「音楽」第1497「音楽」第1498「音楽」第1499「音楽」第1500「音楽」第1501「音楽」第1502「音楽」第1503「音楽」第1504「音楽」第1505「音楽」第1506「音楽」第1507「音楽」第1508「音楽」第1509「音楽」第1510「音楽」第1511「音楽」第1512「音楽」第1513「音楽」第1514「音楽」第1515「音楽」第1516「音楽」第1517「音楽」第1518「音楽」第1519「音楽」第1520「音楽」第1521「音楽」第1522「音楽」第1523「音楽」第1524「音楽」第1525「音楽」第1526「音楽」第1527「音楽」第1528「音楽」第1529「音楽」第1530「音楽」第1531「音楽」第1532「音楽」第1533「音楽」第1534「音楽」第1535「音楽」第1536「音楽」第		

別紙

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（大阪万博関連：原図）

箱番号	管理番号	JOB番号	破損の有無	種別	補強	タイトル 1	タイトル 2	図面種類	判型	大きさ （縦）mm	大きさ （横）mm	枚数	付箋・テー プ	備考	デジタル化
316		7434 105	無	手書き	有	70EXPO オーストラリア館	建築	建築				47	無	615×910が41枚、510×760が5枚、684×1005が1枚。	済
316		7435 105	無	手書き	有	70EXPO オーストラリア館	構造	構造		615	910	49	無		済
316		7436 105	無	手書き	有	70EXPO オーストラリア館	衛・空・電	衛・空・電		615	910	46	無		済
071		7437 105	無	手書き	無	大阪万博 オーストラリア館	縮刷版					104	無	A2が95枚、B4が9枚。	済
316		7438 105	無	手書き	有	万博 オーストラリア館	インキング					15	無	A0が4枚、A1が11枚。	済
317		7430 106	有	手書き	有	ニュージーランド館	建築・構造	建築・構造				120	無	620×910 が71枚、560×1090 が45枚、A2が4枚	済
317		7431 106	有	手書き	有	ニュージーランド館	衛・空・電	衛・空・電		620	910	41	無	620×910 が41枚	済
別置7		7432 106	無	プリントアウト	無	大阪万博 ニュージーランド館	縮刷版					29	無	B4が10枚、340×480が19枚	済
317、別置2		7433 106・106・2	無		有	日本万国博覧会	ニュージーランド館・レストラン内装					54	無	A1が44枚、440×835が3枚、510×770が2枚、380×505が4枚、210×330が1枚	済
長簡108-A		7428 108	無	手書き	有	70EXPO イタリア館	基本設計					26	無	A0が5枚、A1が3枚、485×655が12枚、545×885が6枚。	済

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（大阪万博関連：製本図面）

管理番号	JOB番号	破損の有無	図面種類	種別	補強	タイトル 1	タイトル 2	判型	大きさ （縦）mm	大きさ （横）mm	枚数	付箋・テー プ	備考	デジタル化
5472	105	無	建築	青焼き	無	日本万国博・オーストラリア館		A1 594×841			43	無		
5473	106	無	建築	青焼き	無	日本万国博・ニュージーランド館		A1 594×841			46	無	書込み有	
5475	108	無	建築・構造	青焼き	無	日本万国博・イタリア館		A1 594×841			75	無	12枚923×1236	済
5476	108	無	平面図、断面図、立面図など	青焼き	無	日本万国博・イタリア館		A0 841×1189			26	無	二つに折られて収納(折れ目有)、真ん中にシワがより開きにくい	済

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（大阪万博関連：構造計算書）

箱番号	管理番号	JOB番号	破損の有無	種別	補強	タイトル 1	タイトル 2	図面種類	判型	大きさ （縦）mm	大きさ （横）mm	枚数	付箋・テー プ	備考	デジタル化
316		7434 105	無	手書き	有	70EXPO オーストラリア館	建築	建築				47	無	615×910が41枚、510×760が5枚、684×1005が1枚。	済
316		7435 105	無	手書き	有	70EXPO オーストラリア館	構造	構造		615	910	49	無		済
316		7436 105	無	手書き	有	70EXPO オーストラリア館	衛・空・電	衛・空・電		615	910	46	無		済
071		7437 105	無	手書き	無	大阪万博 オーストラリア館	縮刷版					104	無	A2が95枚、B4が9枚。	済
316		7438 105	無	手書き	有	万博 オーストラリア館	インキング					15	無	A0が4枚、A1が11枚。	済
317		7430 106	有	手書き	有	ニュージーランド館	建築・構造	建築・構造				120	無	620×910 が71枚、560×1090 が45枚、A2が4枚	済
317		7431 106	有	手書き	有	ニュージーランド館	衛・空・電	衛・空・電		620	910	41	無	620×910 が41枚	済
別置7		7432 106	無	プリントアウト	無	大阪万博 ニュージーランド館	縮刷版					29	無	B4が10枚、340×480が19枚	済
317、別置2		7433 106・106・2	無		有	日本万国博覧会	ニュージーランド館・レストラン内装					54	無	A1が44枚、440×835が3枚、510×770が2枚、380×505が4枚、210×330が1枚	済
長簡108-A		7428 108	無	手書き	有	70EXPO イタリア館	基本設計					26	無	A0が5枚、A1が3枚、485×655が12枚、545×885が6枚。	済

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（大阪万博関連：竣工写真）

管理番号	JOB番号	内容	種別	形状	タイトル 1	タイトル 2	判型	枚数（ノン プ）	破損の有無	付箋の有無	ロッカー	備考	デジタル化
782	105	計算書	手書き	クリップ	オーストラリア館	風洞実験	A4判 210×297mm	10	無	無	P6-2	一部B4、300×380用紙有	済
783	105	計算書	手書き	バラ	オーストラリア館	風洞実験	A4判 210×297mm	11	無	無	P6-2	一部A3図面有	済
784	105	仕様書	手書き	クリップ	オーストラリア館	特記仕様書	A4判 210×297mm	44	無	無	P6-2	一部折り目有	済
785	105	仕様書	手書き	クリップ	日本万国博オーストラ	特記仕様書	A4判 210×297mm	40	無	無	P6-2	メモ有	済
786	105	その他	手書き	クリップ	オーストラリア館	第一回質疑事項回答書	A4判 210×297mm	21	無	無	P6-2	一部A2図面有	済
787	105	その他	青焼き	ホチキス	日本万国博オーストラリ	見積り要項	A4判 210×297mm	3	無	無	P6-2		済
788	105	その他	手書き	クリップ	日本万国博オーストラリヤ	館新築工事	A4判 210×297mm	7	無	無	P6-2		済
789	105	計算書	手書き	バラ	オーストラリア館	構造計算書	A4判 210×297mm	77	有	無	P6-2	一部破れ折り目有	済
790	105	計算書	手書き	バラ	オーストラリア館	構造計算書	A4判 210×297mm	94	無	無	P6-2		済
791	105	計算書	手書き	バラ	オーストラリア館	構造計算書	A4判 210×297mm	72	無	無	P6-2		済
792	106	仕様書	手書き	バラ	ニュージーランド館	特記仕様書	A4判 210×297mm	43	有	無	P6-2	一部破れ有	済
793	106	仕様書	手書き	バラ	日本万国博ニュージーラ	特記仕様書	A4判 210×297mm	44	無	無	P6-2		済
794	106	その他	手書き	クリップ	ニュージーランド館		A4判 210×297mm	5	無	無	P6-2	手紙下部折り目有	済
795	106	計算書	手書き	クリップ	ニュージーランド館	建物の概要及び構造計画	A4判 210×297mm	5	無	無	P6-2	パンチ穴有	済
796	106	計算書	手書き	クリップ	ニュージーランド館	構造計算書	A4判 210×297mm	15	無	無	P6-2		済
797	106	計算書	手書き	クリップ	ニュージーランド館	構造計算書	A4判 210×297mm	114	無	無	P6-2	一部折り目有	済

別紙

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（大阪万博関連：マイクロフィルム）

管理番号	JOB番号	種別	形状	タイトル 1	タイトル 2	判型	大きさ (縦) mm	大きさ (横) mm	枚数 (ノン ブル)	付箋の有無	備考	デジタル化
9501	105	マイクロフィルム	台紙	万国博オーストラリア館			85	190	181	無	クリップ綴り有、図面番号7&8 フィルム癒着	済
9525	106	マイクロフィルム	台紙	万国博ニュージーランド館			85	190	129	無		済
9532	108	マイクロフィルム	台紙	万国博イタリア館			85	190	16	無		済

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（パネル・ボード）

管理番号	JOB番号	内容	種別	形状	タイトル 1	タイトル 2	大きさ (縦) mm	大きさ (横) mm	枚数 (ノン ブル)	備考	デジタル化
10901	105	竣工写真	プリント	水張りパネル	日本万国博	オーストラリア館	770	900	1	カラー、劣化ヒビ?	
10865	108	竣工写真	プリント	紙ボード	日本万国博覧会・イタリア館	鉄件	420	570	1	カラー	
10900	108	竣工写真	プリント	水張りパネル	日本万国博	イタリア館	770	900	1	カラー	

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（JOB 抜刷り）

管理番号	JOB番号	JOB物件名	媒体名	掲載年月	内容	種別	判型	大きさ (縦) mm	大きさ (横) mm	枚数	付箋の有無	破損の有無	デジタル化
5027	105	日本万国博・オーストラリア館	新建築	1970-05	切り抜き	雑誌		295	221	3	無	無	済
5026	105	日本万国博・オーストラリア館	建築文化	1970-04	切り抜き	雑誌		333	254	2	無	無	済
5033	106	日本万国博・ニュージーランド館	新建築	1970-05	切り抜き	雑誌		295	221	3	無	無	済
5039	108	日本万国博・イタリア館	近代建築	1970-05	切り抜き	雑誌		313	217	2	無	無	済
5042	108	日本万国博・イタリア館	SD	1974-10	切り抜き	雑誌		293	220	4	無	無	済
5038	108	日本万国博・イタリア館	新建築	1970-05	切り抜き	雑誌		295	221	2	無	無	済
5041	108	日本万国博・イタリア館	L'architettura 176	1970-06	切り抜き	雑誌		323	246	12	無	無	済
5037	108	日本万国博・イタリア館	建築文化	1970-04	切り抜き	雑誌		333	254	3	無	無	済

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（大阪万博関連：その他）

分類	管理番号	タイトル 1	タイトル 2	判型	大きさ (縦) mm	大きさ (横) mm	枚数 (ノン ブル)	破損の有無	付箋の有無	備考	年月日	デジタル化
メディア資料類	10523	Construction of Australian Pavilion at EXPO '70	岩波映画製作所								1970/7/10	済
冊・賞状	13543	感謝状 万博オーストラリア館	オーストラリア政府 政府代表 T.K.Morrison		558	380		無	無	201503追加受け入れ		
冊・賞状	13547	感謝状 万博イタリア館	イタリア政府代表 アルベリコ・カサル ディー	A3				無	無	201503追加受け入れ		
ポスター	11075	万博とはどういうものか		1966/5/11	B1		1					

資料 M：武蔵野美術大学 芦原義信建築資料（大阪万博関連：書簡）

管理番号	年月日	区分	フォルダタイトル		タイトル 1	受信 From	発信 To	内容	デジタル化
3626	1968-0603	国別	オーストラリア 1968-	60	Boyd [建築家]	Boyd [建築家]		Expo'70のオーストラリア館設計についてパートナーの紹介	済
3626	1968-0608	国別	オーストラリア 1968-	18	J.R.Marshall	J.R.Marshall		ニュージーランドの海外貿易大臣よりのパビリオンの依頼に対する返事	済
3626	1968-0709	国別	オーストラリア 1968-	58	N.Sneath [建設者の役人]	N.Sneath [建設者の役人]		J.Maccormick, Dept of Works of the Co-Architectについての手紙	済
3626	1969-0808	国別	オーストラリア 1968-	17	Bill Toomasth [建築家]	Bill Toomasth [建築家]		The Japan Architect で活躍を見ている。ニュージーランド館と関係するそうでおめでと	済
3626	1970-1026	国別	オーストラリア 1968-	11	Rayword Bayce	Rayword Bayce		ニュージーランド館での協力の令状	済
12037	1970-0422	札状	EXTERIOR DESIGN IN ARCHITECTURE	32	A.S.Reiher [オーストラリア建設大臣]	A.S.Reiher [オーストラリア建設大臣]		Director General Depart ment of Works,Australia Expo'70では成功に貢献してくれた。	済
13144	1968-0520	在留外国人	在留外国人 (1) 1968-83	59	J.L.Fenaughty [ニュージーランド公使]	J.L.Fenaughty [ニュージーランド公使]		万博ニュージーランド館について Newnhamが日本に行くの であってほしい。	済
13144	1968-0617	在留外国人	在留外国人 (1) 1968-83	58	E.V.A.de Becker [弁護士]	E.V.A.de Becker [弁護士]		万博オーストラリア館について	済
13144	1968-0620	在留外国人	在留外国人 (1) 1968-83	57	E.V.A.de Becker	E.V.A.de Becker		万博オーストラリア館について	済

別紙

資料 N：小松左京ライブラリ 大阪芸術大学寄託目録（大阪万博関連）

内容	備考
万博・タカラバビリオン資料	
日本万国博覧会テーマ展示 基本計画報告書	現代芸術研究所作成（詳細冊子）
国際博覧会について（昭和40年9月）	国際博準備会
日本万国博覧会テーマ館	ヘリオビジョン＜地下一命のうた展示計画 学研万国博本部 ★内部から空中都市008資料発見
既開催万国博覧会の概要	
日本万国博覧会・記念協会資料一式	十周年記念講演（梅棹忠夫）他
日本万国博覧会「ランドマーク愛称一覧」	一般公募。表紙破損。
日本万国博覧会 前夜祭 放送取材台本（NHK）	1970年3月13日 19：30～20：59
日本万国博国際セミナー報告書	1966年 国内セミナー海外スクリーニング
日本万国博 お祭り広場諸装置書制御方式一式	1960年1月20日
日本万国博開会式実況中継（NRN特別番組）	
日本万国博覧会 出展参加ガイド（1）	
日本万国博 開会式一式	
日本万国博覧会ホステス合同研修会資料	（昭和44年）1969年8月1日
日本万国博・大阪博覧会誘致に関する経緯	（昭和40年）1965年6月15日
日本万国博 基本理念（案）	
日本万国博テーマ特別委員会議事録	（昭和40年）1965年9月1日 武者小路実篤他
☆日本万国博覧会テーマ展示基本設計	1968年9月（小松左京書き込み）
☆「国際博を考える会」を結成する準備について	1964年6月28日 議事録
☆「万国博を考える会」決算書	
☆テーマ特別委員会（オーソライズグループ）候補者名簿	1965年？ 黒澤明、湯川秀樹等の名も
☆万国博情報	1965年？ 3月6日
☆万国博を考える会総会議事録	1965年10月15日（疑義あり？）
☆万国博を考える会 メモ類	
☆大阪国際博の組織論BC乃至コアの立場からの試案	1964年8月1日 討論の要点
☆第三回 国際博を考える会議事録	1965年11月7日 京都にて
☆商工会議所、ニューヨーク世界博協力会	1965年1月21日会合
☆第二回万博を考える会	1965年3月7日 参議院議員 宇野代議士

本報告書は、文化庁の委託業務として大日本印刷株式会社が実施した平成 29 年度「メディア芸術連携促進事業
連携共同事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。
転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。